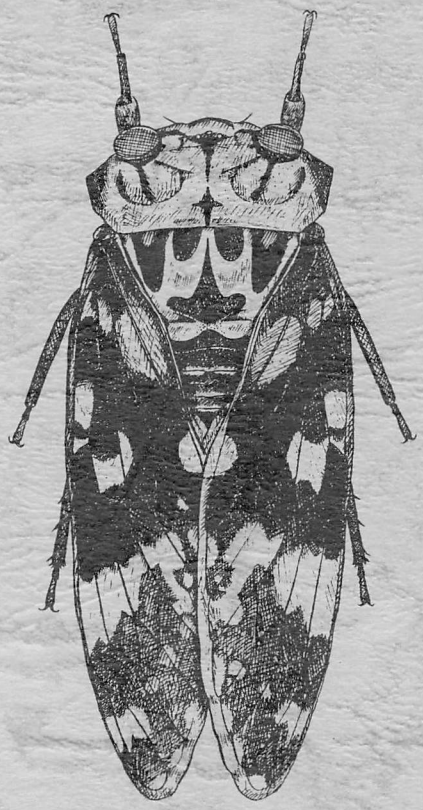
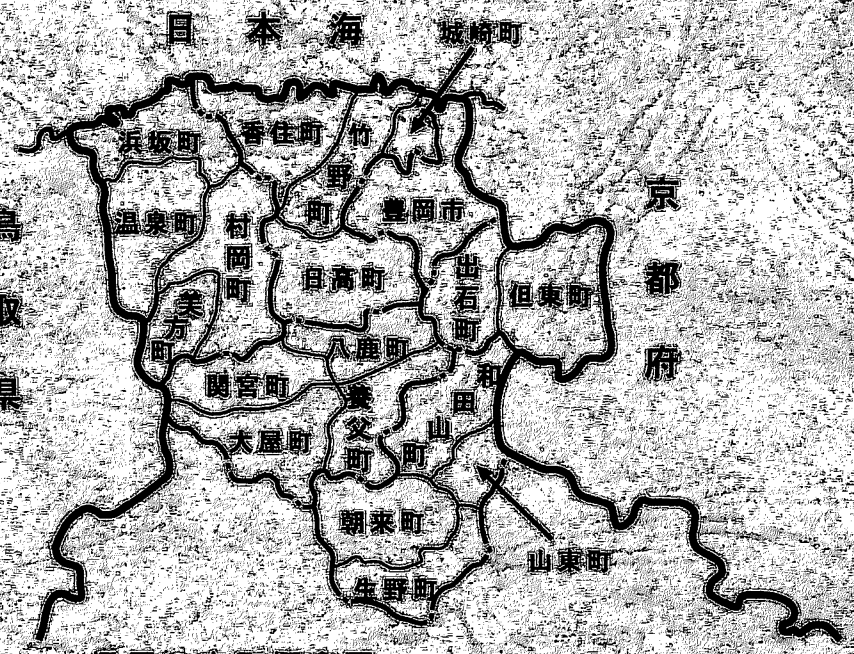
IRATSUME

1998 No.22



但馬むしの会



但馬の市町概念図

兵庫県の概念図

◇◆ 目 次 ◆◇

広畑 政己・近藤 伸一：兵庫県産蝶類分布資料（11）ーミドリシジミ族３種の記録ー
（アカシジミ・ウラナミアカシジミ・ミズイロオナガシジミ） ・・・ 1
永幡 嘉之：但馬地方におけるオサムシの分布記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
木下 賢司：思い出の南の島採集記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
高橋 寿郎：兵庫県のハムシ(2)（兵庫県甲虫相資料・337）・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
山本 一幸：但馬のクモ類２件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
谷角 素彦：和光よ，安らかに眠れ！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
山本 一幸：浜坂町久谷で 11月にイシガケチョウを採集・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
谷角 素彦・岩見 裕介：浜坂町でクロコノマチョウを採集・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

表紙：ニイニイゼミ
足立義弘・画

兵庫県産蝶類分布資料（11）
－ミドリシジミ族３種の記録－
（アカシジミ・ウラナミアカシジミ・ミズイロオナガシジミ）

広畑　政己・近藤　伸一

兵庫県内で生息の確認されているミドリシジミ族の分布状況について，これまでに標記３種を除く全ての種について報告してきた（きべりはむし24(2)・25(1)・25(2)，てんとうむし12）．今回は残りの平地性のミドリシジミ族３種について報告する．各種につき，県内の記録を各産地１例ずつをあげて，気付いたことを付記した．採集記録のうち場所が特定できない箇所については，分布図，垂直分布表から省いた．

本稿を草するにあたり，次の方々に貴重な採集記録を提供いただき，産地の状況等をご教示いただいた．ここに記してお礼申し上げる．

石井為久，稲田和久，入江照夫，岩村　巌，故・尾崎　勇，木下賢司，木村三郎，黒田　収，佐々木薫，大東康人，高島　昭，徳岡正己，永幡嘉之，苦木隆幸，森口　紀，森下泰治，唐土洋一，八木　弘，山下剛史，米村和繁．

１．アカシジミ　*Japonica lutea*

分布の状況

国内では北海道，本州，四国，九州の平地～山地に広く分布する．県内においては，個体数は多く，内陸部から海岸付近まで県下全域に広く分布し，市街地に近い山林にも生息している．淡路島では個体数は少なく，分布も限られる．家島群島からの記録はないが，生息している可能性は高く，今後の調査を期待したい．図１の分布状況をみると，西播磨北部と丹波地域に分布の空白地域がみられるが，これらの地域にも生息している可能性は極めて高い．本種は普通種のため採集していても発表されることが少なく，このことが分布の空白地域になっている大きな要因と思われる．

生息環境の現況

コナラ，アベマキが分布する低山地が主な生息地であるが，食樹に対する適応は他のゼフィルスに比べて広く，県下で確認されているのはコナラ，ミズナラ，クヌギ，アベマキ，ナラガシワ（以上，コナラ亜属－落葉性），アラカシ，ウラジロガシ，ツクバネガシ（以上，アカガシ亜属－常緑性）と県下に分布するブナ科コナラ属のほとんどを食樹としている．このことが，県下に広く分布する大きな要因になっているようである．

垂直分布は200m以下の低山地に分布が集中しているが，比較的高標高の場所でも発生が確認されている．アカシジミの卵は，母蝶が産卵時に小枝の毛などをこすりつけているため，発見は容易でないが，成虫はよく目立ち，他の種とも見誤ることもないので，西播磨北部や丹波地域で採集される機会があれば，ぜひ注意していただきたい．

採集記録

川西市笹部	４♂３♀，	13-VI-1970	杠　隆史	16)
〃　鼓ケ滝	1 ex.,	12-VI-1968	浜田　稔	16)
〃　西多田	1 ex.,	10-VI-1967	浜田　稔	16)
〃　東畦野～一の鳥居		31-V-1969	小坂利明	23)
〃　大和		11-VI-1972	仲田元亮	23)
〃　妙見新滝	15exs.,	8-VI-1969	杠　隆史	16)
〃　多田	3 exs.,	5-VI-1969	浜田　稔	16)
〃　山下		31-V-1964	岡田俊典	23)
〃　若宮		19-VI-1982	小坂利明	23)
三田市フラワータウン	3 exs.,	17-VI-1995		43)
〃　大船山麓		13-VI-1978		38)
猪名川町三草山	3 exs.,	20-VI-1977	山下剛史	
〃　上阿古谷	1♀，	21-VI-1972	赤山敦夫	16)
〃　阿古谷	4 exs.,	6-VI-1978	山下剛史	
〃　雨森山	3 exs.,	15-VI-1969	赤山敦夫	16)
〃　仁部		6-VI-1981	勝屋　潤	23)

猪名川町槻並　18-VI-1981 勝屋　潤　23)
〃　内馬場　12-VI-1977 仲田元亮　23)
〃　差組　27-VI-1970 小坂利明　23)
〃　大野山　22-VI-1980 小坂利明　23)
〃　栃原（大谷）　30-VI-1984 小坂利明　23)
〃　肝川　1-VII-1984 小坂利明　23)
〃　杉生新田　1♀, 29-VI-1964 喜多舒彦　1)
〃　木津北　2♂, 14-VI-1992　27)
宝塚市武田尾　1♂, 16-VI-1956 若林守男　1)
〃　清荒神　1♂, 22-V-1978 加藤信一郎 8)
〃　僧川　29-V-1960　38)
〃　西部　24-VI-1978　38)
〃　波豆～三田市木器　24-VI-1978　38)
芦屋市六麓荘　1 ex., 31-V-1992　35)
〃　三条町　1♂, 6-VI-1982 西　隆広　3)
西宮市甲山森林公園 10exs., 31-V-1992　27)
神戸市
六甲山紅葉谷　1♀, 28-VI-1959 尾崎　勇
摩耶山　31)
東灘区御影　1 ex., 18-VI-1951 吉阪道雄　22)
灘区六甲山山麓　杠　隆史　15)
〃 青谷　1 ex., 14-VI-1953 吉阪道雄　22)
中央区布引　2 exs., 21-VI-1964 三木　進　4)
〃　諏訪山　1 ex., 25-VI-1995 近藤伸一
須磨区須磨浦公園　1♂, 15-VI-1962 尾崎　勇
〃　飛松中学校裏　2)
〃　多井ノ畑　1♂, 25-V-1959 尾崎　勇
北区山の街　1 ex., 8-VI-1960 吉阪道雄　22)
〃 丹生山　5 exs., 18-VI-1961 尾崎　勇

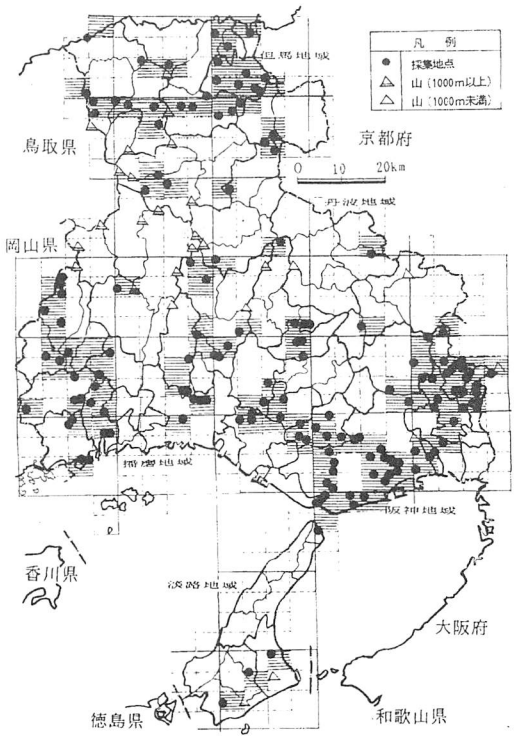
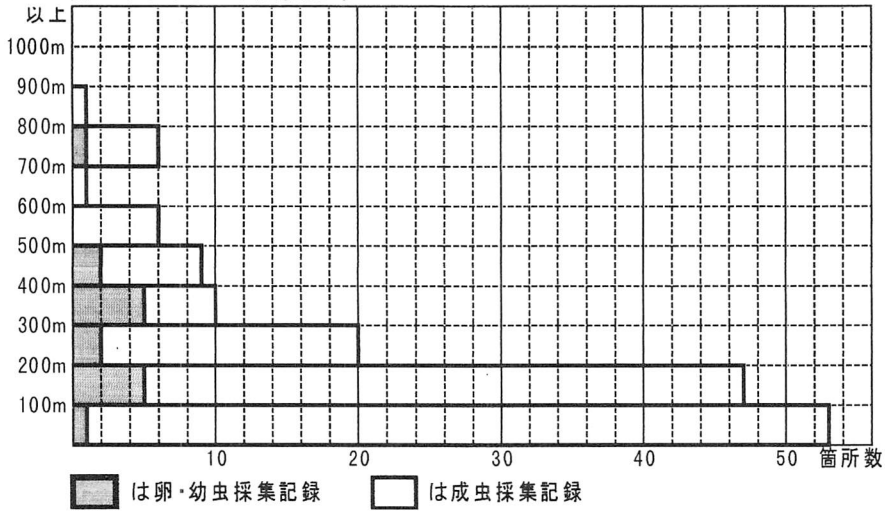


図1．アカシジミの県内分布

北区帝釈山　1♀, 20-VI-1995 平尾栄治　37)
〃 杣谷　1 ex.目撃, 26-VI-1978 田中　梓　39)
〃 道場町　1♂, 7-VI-1958 若林守男　1)
〃 山田町谷上　8 exs., 4-VI-1961 尾崎　勇

表1．アカシジミの垂直分布



北区森林植物園　1♂, 13-VI-1977 山下剛史
〃菊水山　13-VI-1960 尾崎　勇
西区押部谷　2♂1♀, 12-VI-1962 尾崎　勇
〃櫨谷町友清　1♀, 1-VII-1990 山下剛史
〃櫨谷町寺谷　1 ex., 29-V-1994 大東康人
〃伊川谷町小寺　山下剛史
〃伊川谷町有瀬　5-VI-1965 大東康人
〃伊川谷町井吹　目撃　森口　紀
明石市大蔵谷奥　1 ex., 5-VI-1963 大東康人
〃　大蔵谷東山西山 1 ex., 7-VI-1963 大東康人
三木市志染町戸田　2♀, 22-VI-1986 永幡嘉之
〃　細川町垂穂　1 ex., 14-VI-1986 永幡嘉之
〃　大村　1♀, 7-VI-1986 永幡嘉之
〃　別所町朝日丘　1♂, 3-VI-1986 永幡嘉之
〃　志染町窟屋　1 ex., 20-VI-1988 永幡嘉之 34)
〃　与呂木　1 ex., 14-VI-1988 永幡嘉之 34)
〃　大山　1 ex., 5-VI-1993 大東康人
加古川市志方町中才　2♀, 10-VI-1983 近藤伸一
〃　七ツ池　1 ex., 5-VI-1994 19)
〃　志方町氷室　2卵, 6-VI-1992 近藤伸一
小野市下来住 31)
〃　鹿野町　1 ex., 27-VI-1995 43)
西脇市武島　24-V-1959 32)
〃　西脇中学校付近 32)
〃　高松 32)
〃　寺山 32)
加西市青野原　2♀, 27-VI-1992 山下剛史
〃　西網引町　2♂, 6-VI-1993 山下剛史
黒田庄町喜多 32)
〃　大伏 32)
加美町　1♀, 9-VI-1963 尾崎　勇
〃　三国岳 32)
姫路市広峰山・増位山　木村三郎 9)
〃　砥堀　♂1♀, 9-VI-1981 近藤伸一
〃　西庄　1♂, 18-VI-1987 山下剛史
市川町下瀬加加茂池　2♀, 9-VI-1993 広畑政己
〃　下牛尾河内　1♀, 27-VI-1993 広畑政己
福崎町山崎　1 ex., 森下泰治
〃　井ノ口　1 ex., 森下泰治
〃　七種　1 ex., 森下泰治
大河内町砥峰高原　1 ex., 11-VII-1993 大東康人
〃　長谷　1♀, 17-VI-1973 森下泰治
夢前町山富　1♀, 17-VI-1979 広畑政己
〃　岡　2♂, 5-VI-1983 広畑政己
〃　氷室　1♂, 16-VI-1981 近藤伸一
新宮町牧　1卵, 15-II-1984 近藤伸一
〃　二栢野　2卵, 6-II-1984 広畑政己
山崎町上ノ上　1幼虫, 2-V-1994 大東康人
相生市三濃山　24-VI-1995 森口　紀
〃　陸光明山　2♂1♀, 24-VI-1962 岩村　巌
〃　大谷町天下台　1♂, 23-VI-1962 岩村　巌
〃　小河　1♂, 20-VI-1976 広畑政己
〃　川原町　2♀, 13-VI-1967 中浜春樹
赤穂市丸山　1♂1♀, 13-VI-1973 藤原一博
〃　尾崎　3♂3♀, 8-VI-1963 西垣憲治
〃　富原　1♂, 6-VI-1976 広畑政己
〃　有年　1♂, 15-VI-1965 岩村　巌
上郡町行頭　1卵, 19-II-1984 広畑政己
〃　大杉野　1♂, 2-VI-1963 岩村　巌
〃　小野豆　1卵, 19-II-1984 広畑政己
〃　佐用谷　1卵, 19-II-1984 近藤伸一
佐用町上石井　3♂1♀, 17-VI-1962 岩村　巌
〃　平谷　2♀, 21-VI-1961 尾崎　勇
〃　大船　1 ex., 9-VI-1978 井出敏晴 1)
〃　福沢　2卵, 28-XII-1980 広畑政己
〃　若州　2卵, 27-XI-1983 広畑政己
上月町久崎　1♂, 14-VI-1959 岩村　巌
〃　秋里　2♂, 8-VI-1973 尾崎　勇
南光町多賀　1卵, 19-II-1984 広畑政己
豊岡市妙楽寺　5♂, 14-VI-1963 木下賢司 5)
〃　愛宕山　1♂, 12-VI-1966 木下賢司 5)
〃　奥野　1♀, 31-V-1964 木下賢司 5)
〃　三開山　1♀, 15-VI-1978 木下賢司 5)
〃　福成寺　2♀, 14-VI-1979 木下賢司 5)
〃　江野　3♂, 16-VI-1982 前平照雄 5)
〃　中ノ郷　1 ex., 29-V-1985 黒井和之 5)
〃　気比（白山）2 exs., 16-VI-1981 福井丈嗣 5)
〃　立石 29)
城崎町来日岳山頂　2♂, 18-VI-1978 木下賢司 5)
竹野町須谷　2 exs., 3-VI-1964 小崎茂樹 5)
日高町岩中　1♂, 17-VI-1978 木下賢司 5)
〃　上ノ郷　2♂, 17-VI-1979 木下賢司 5)
〃　栃本　1♂, 15-VI-1981 木下賢司 5)
〃　名色林道（蘇武岳）
1♀, 1-VII-1978 木下賢司 5)
〃　小阿江　撮影, 6-VI-1991 木下賢司 6)
香住町三川　1♂羽化, 11-VI-1977 高田忠彦 1)
出石町桐野（床尾山）
1♂1♀, 26-VI-1978 木下賢司 6)
〃　奥山茗荷谷　1 ex., 18-VI-1978 広畑政己

村岡町耀山　1 ex., 25-VI-1963 小崎茂樹　5)
〃　村岡坂中　1 ex., 13-VI-1992 永幡嘉之　6)
〃　相岡　1♀, 17-VII-1978 井出敏晴　1)
温泉町上山　2 exs., 3-VII-1982 黒井和之　5)
〃　美原　2 exs., 4-VI-1983 黒井和之　5)
〃　越坂　4 exs., 13-VI-1992 永幡嘉之　6)
〃　海上　1卵, 30-X-1977 高田忠彦　1)
浜坂町本谷　1 ex., 25-VI-1992 永幡嘉之　6)
〃　城山　2 exs., 6-VI-1992 永幡嘉之　6)
和田山町藤和　1幼虫, 20-V-1984 近藤伸一　6)
〃　糸井渓谷　1卵, 3-VI-1975 高田忠彦　1)
生野町栃原　1 ex., 19-VI-1972 井出敏晴　1)
関宮町杉ケ沢　1♀羽化, 16-IV-1977 高田忠彦　1)
大屋町横行　1卵, 2-XII-1984 広畑政己
〃　筏　1♀, 18-VI-1955 中尾淳三　36)
今田町四斗谷　20♂12♀, 6-VI-1994　19)
氷上郡妙高山　1)
洲本市千草　1♂1♀, 17-VI-1978 近藤伸一　42)
淡路町岩屋　2♂1♀, 15-VI-1978 近藤伸一　42)
南淡町阿万上町　1♀, 9-VI-1968 藤平　明　28)
緑町中条中筋　1 ex., 11-VI-1977 浅田　卓　42)

2. ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata*

分布の状況

国内では，北海道，本州，四国の低山地に分布する．県下には図２のように，全域に広く産地が点在するが，内陸部での記録は少なく，但馬西部から南但馬，播磨北部，丹波地域にかけて大きな空白部が見られる．阪神地域と西播磨の南部に分布の集中がみられ，市街地に近い山林にも生息し，芦屋市の市街地の中で採集された例もある．

淡路島では個体数は極めて少なく，分布も限られるが，家島では最盛期に至る所でみられたという（1977～80）．

生息環境の現況

コナラ，アベマキが分布する低山地が主な生息地であるが，食樹に対する適応はアカシジミと比べると狭く，常緑のカシ類を食樹とせず，県下で確認された食樹はアベマキ，クヌギ，ナラガシワである．県下の低山地に一番多いコナラも食樹としている可能性は高いが，ウラナミアカシジミの卵がアカシジミの卵と同様に見つけにくいことと，低標高地でのコナラの卵の調査がほとんど行われていないことが，コナラの食樹の記録がない原因と思われる．垂直分布については，200m以下の低山地に記録が集中している．

採集記録

川西市多田　3 exs., 9-VI-1968 鴻池義一　16)
〃　西多田　2 exs., 21-VI-1967 鴻池義一　16)
〃　笹部　2♂, 14-VI-1969 杠　隆史　16)
〃　山下～出合4♂2♀, 23-VI-1968 浜田　稔　16)
〃　鼓ケ滝　1♀, 28-VI-1969 鍋島泰秀　16)
〃　横路　16-VI-1972 仲田元亮　23)
〃　黒川　16-VI-1972 仲田元亮　23)
〃　東畦野～一の鳥居　11-VI-1976 小坂利明　23)
〃　大和　23-VI-1981 仲田元亮　23)
〃　芋生　11-VI-1983 小坂利明　21)
〃　畦野　1♀, 15-VI-1956 若林守男　1)
〃　東谷　31)
猪名川町上阿古谷　4 exs., 21-VI-1967 当麻信彦　16)
〃　阿古谷　2♀, 12-VI-1978 山下剛史
〃　内馬場　12-VI-1977 仲田元亮　23)
〃　槻並　26-VI-1977 仲田元亮　23)
〃　三草山　1♂, 6-VI-1977 山下剛史
〃　仁頂寺～堂麻山　15-VI-1980 森地重博　23)
〃　大野山（柏原）　22-VI-1980 小坂利明　23)
〃　銀山　21-VI-1981 小坂利明　23)
〃　栃原　30-VI-1984 小坂利明　21)
〃　杉生新田　1♀, 29-VI-1964 喜多舒彦　1)
〃　木津北　4♂1♀, 14-VI-1992　27)
〃　民田　4 exs., 22-VI-1995　43)
三田市大磯　1♀, 16-VI-1963 若林守男　1)
〃　本郷香下峠　1♂, 17-VI-1995　18)
〃　乙原　1♂, 6-VII-1997　20)
〃　フラワータウン1 ex.,　44)
宝塚市川面　27-VI-1982　38)
〃　西部　24-VI-1978　38)
〃　波豆～三田市木器　24-VI-1978　38)
西宮市武田尾　1♀, 16-VI-1956 田中　蕃　1)
芦屋市三条町　1♀, 18-VI-1983 西　隆広　3)
〃　津知町　1 ex., 22-VI-1984 西　隆広　3)
神戸市
東灘区住吉　1♂, 19-VI-1957 吉阪道雄　22)
〃　御影　1♀, 11-VII-1949 吉阪道雄　22)
〃　摩耶山　1♀, 17-VI-1951 吉阪道雄　22)
灘区杣谷　31)
中央区布引　2 exs., 21-VI-1964 三木　進　4)
北区山ノ街　1♀, 14-VI-1953 吉阪道雄　22)
西区寺谷　7♂5♀, 17-VI-1962 尾崎　勇

西区押部谷町木津　1♀, 25-VI-1995 青木陽一　24)
〃押部谷町福住　1♀, 12-VI-1973 大東康人
三木市志染町戸田　1♂, 22-VI-1986 永幡嘉之
〃　細川町増田　1 ex., 18-VI-1986 永幡嘉之
〃　大村　2♂, 15-VI-1986 永幡嘉之　17)
〃　別所町朝日丘　1♂, 16-VI-1987 永幡嘉之　17)
小野市来住町男池　1 ex., 山下剛史
〃　下来住　30)
加古川市志方町氷室　1♂, 11-VI-1983 近藤伸一
西脇市高松　25-VI-1959　32)
〃　西脇中学付近　32)
黒田庄町喜多　4-VI-1959　32)
姫路市則直　1♂, 9-VI-1981 近藤伸一
〃　広峰山・増位山　木村三郎　9)
夢前町大村　3幼虫, 20-IV-1977 高田忠彦　1)
家島町家島本島　19-VI-1977 上田尚志　11)
福崎町井ノ口　1 ex.目撃, 森下泰治
大河内町砥峰　1♂, 15-VII-1984 川崎悟良
安富町三坂　1♂羽化, 2-V-1977 福原　1)
千種町三室山　1♂1♀, 10-VII-1973 尾崎　勇
新宮町新宮　10♂13♀, 15-VI-1963 岩村　巌
〃　牧　1卵, 15-I-1984 広畑政己
〃　角亀　1♀, 9-VI-1974 尾崎　勇
相生市大谷町　1♂1♀, 6-VI-1967 豆鞘周二
〃　川原町　1♂, 13-VI-1967 中浜春樹
〃　古池　2♂1♀, 15-VI-1967 米村和繁
〃　三濃山　1♀, 20-XI-1974 岩村　巌
〃　陸光明山　3♂2♀, 16-VI-1973 船曳俊宏
赤穂市尾崎　2♂2♀, 9-VI-1963 岩村　巌

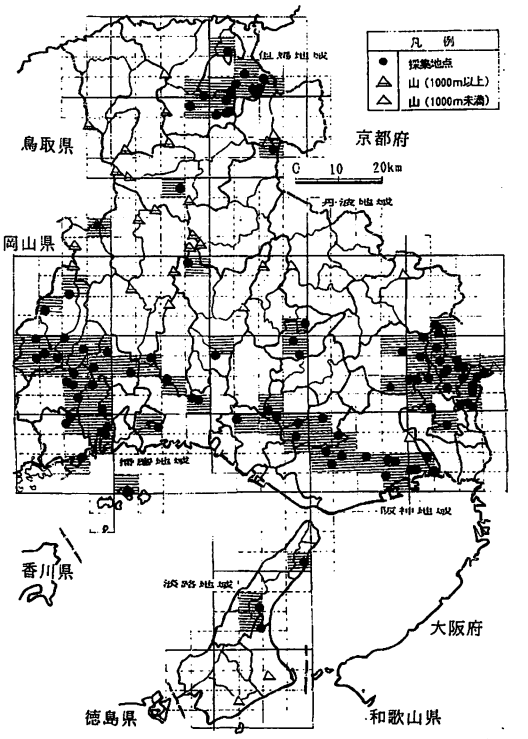
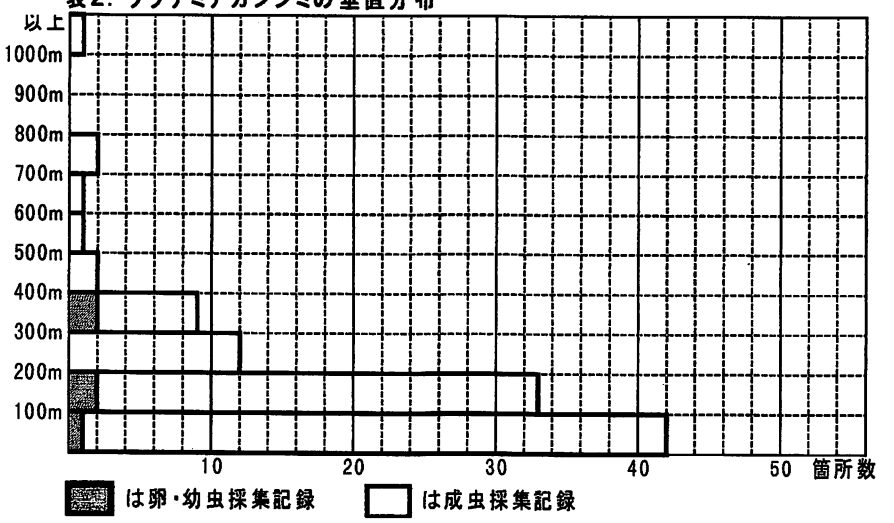


図2. ウラナミアカシジミの県内分布

赤穂市有年　11♂6♀, 15-VI-1965 岩村　巌
〃　富原　1♂6♀, 16-VI-1973 松村邦正
三日月町弦谷　16♂18♀, 15-VI-1963 岩村　巌
佐用町平谷　1♀, 22-VI-1961 尾崎　勇
〃　海内　1♂, 24-VI-1962 岩村　巌

表2. ウラナミアカシジミの垂直分布



佐用町佐用坂	2 exs., 18-VI-1977	高田忠彦	1)
上月町上秋里	3♂5♀, 16-VII-1973	尾崎　勇	
〃　下秋里	2♂, 15-VI-1978	広畑政己	
〃　久崎	1♂4♀, 18-VI-1960	岩村　巌	
〃　尾崎	1♂, 29-VI-1997	大東康人	
上郡町野桑	2♂, 19-VI-1977	高田忠彦	1)
〃　大富	2卵, 17-II-1980	広畑政己	
〃　小野豆	1卵, 19-II-1984	広畑政己	
〃　白旗山	1♂, 15-VI-1967	唐土洋一	
豊岡市上佐野	9-VI-1973	谷角素彦	33)
〃　妙楽寺	1♀, 14-VI-1963	木下賢司	5)
〃　愛宕山	1♂1♀, 6-VI-1978	木下賢司	5)
〃　三開山	2♂, 15-VI-1978	福井丈嗣	5)
〃　奥野			29)
〃　立石			29)
〃　森尾			29)
城崎町来日	1♀, 15-VI-1983	福井丈嗣	5)
日高町岩中	2♀, 17-VI-1978	木下賢司	5)
〃　鶴岡	1♀, 17-VI-1979	木下賢司	5)
〃　栃本	1♀, 23-VI-1979	木下賢司	5)
〃　上ノ郷	2♂, 9-VI-1982	前平照雄	5)
〃　下河江	1♂1♀, 14-VI-1984	木下賢司	5)
〃　竹貫	30-V-1964		33)
和田山町糸井	1♂, 18-VI-1978	広畑政己	
大屋町糸原	1♀, 18-VII-1963	中尾淳三	1)
篠山町篭坊	22-VI-1980	森地重博	23)
洲本市安乎	1♂, 18-VI-1971	堀田　久	28)
津名町大町	1♂, 16-VI-1967	登日英樹	28)
東浦町仮屋	1 ex., 22-VIII-1958	中山	28)

3. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*

分布の状況

国内では，北海道，本州，四国，九州の平地，山地に広く分布する．県下の分布は図3に示したように，産地が全域に広く点在し，個体数もゼフィルスの中では一番多い．県南部，北部とも海岸付近まで生息し，淡路島，家島でも個体数は比較的多い．集落周辺に取り残された小さな林でもみられる．分布図の空白地が広がった地域でも，よく調査すれば生息が確認されるはずである．

生息環境の現況

前2種と同様に低山地のコナラ，アベマキの林を生息地とし，垂直分布は200m以下に集中しているが，高標高の場所でも少ないながら発生が確認されている．県下における食樹はコナラ，アベマキ，クヌギ，ナラガシワなどの落葉性のものが確認されているが，アラカシ，ウラジロガシの記録もあり，常緑のカシ類も食樹となっているようである．

採集記録

川西市笹部	1 ex., 18-VI-1967	遊磨正秀	16)
〃　妙見新滝	2 exs., 13-VI-1975	杠　隆史	16)
〃　山下	3 exs., 23-VI-1968	浜田　稔	16)
〃　多田	1 ex., 12-VI-1968	鴻池義一	16)
〃　西多田	2 exs., 11-VI-1967	当麻信彦	16)
〃　鼓ケ滝	1 ex., 19-VII-1969	鍋島泰秀	16)
〃　横路	16-VI-1972	仲田元亮	23)
〃　東畦野	25-VI-1972	〃	23)
〃　西畦野	25-VI-1977	〃	23)
〃　大和	18-VI-1981	〃	23)
〃　芋生	11-VI-1983	小坂利明	21)
〃　黒川	1 ex., 16-VII-1996		17)
猪名川町上阿古谷	2 exs., 23-VI-1968	当麻信彦	16)
〃　下阿古谷	2 exs., 24-VI-1971	原田和政	16)
〃　三草山	1♂, 20-VI-1977	山下剛史	
〃　槻並	18-VI-1981	勝屋　潤	23)
〃　内馬場	18-VI-1981	〃	23)
〃　銀山	19-VI-1988	小坂利明	21)
〃　栃原	1♂, 21-VI-1977	山下剛史	
〃　民田	2 exs., 22-VI-1995		43)
三田市大磯	1♀, 16-VI-1963	若林守男	1)
〃　上青野	3卵, 25-XI-1995	法西　浩	20)
〃　乙原	4卵, 23-XII-1995	〃	20)
〃　志手原川池	7卵, 2-I-1996	〃	20)
〃　フラワータウン	1 ex., 17-VI-1995		43)
宝塚市清荒神	1♀, 26-VII-1981	加藤信一郎	8)
〃　切畑	16-VIII-1984		38)
〃　西部	♀, 14-VI-1991		38)
〃　高代寺	19-VI-1977		38)
西宮市甲山	3♀, 22-VI-1980	近藤伸一	
〃　山口町船坂			2)
芦屋市蛇谷（奥山）	1♀, 26-VI-1983	西　隆広	3)
神戸市			
六甲山	5 exs., 15-VI-1960	〃	22)
摩耶山	1 ex., 6-VII-1951	〃	22)
東灘区岡本	1♂, 8-VI-1958	田中	1)
〃　御影	8 exs., 10-VI-1949	吉阪道雄	22)
灘区六甲山麓		杠　隆史	15)
中央区布引	2 exs., 14-VI-1964	三木　進	4)

西区岩岡町　1♂, 5-VI-1983 近藤伸一
〃押部谷　1♂1♀, 16-VI-1962 尾崎　勇
〃太山寺　17exs., 17-VI-1962 尾崎　勇
〃伊川谷小寺　山下剛史
〃伊川谷町前開　1 ex., 13-VI-1967 大東康人
〃伊川谷町長坂　1 ex., 20-VI-1967 大東康人
〃伊川谷町井吹　1♀, 22-VI-1986 森口　紀
北区丹生山　5 exs., 18-VI-1961 尾崎　勇
〃藍那　12-VI-1977 川本　明　45)
〃帝釈山　1♀, 20-VI-1995 平尾栄治　37)
明石市大蔵谷奥　1 ex., 7-VII-1962 大東康人
三木市志染町戸田　1♀, 16-VI-1987 永幡嘉之
〃　細川町増田　-VI-1976 小倉　滋
〃　別所町朝日丘　2♀, 16-VI-1987 永幡嘉之
〃　大村　1♀, 9-VII-1986 永幡嘉之
〃　与呂木　4 exs., 12-VI-1988 芝　直幸　34)
〃　垂穂　1 ex., 19-VI-1989 永幡嘉之　34)
〃　正法寺　1 ex., 22-VI-1987 芝　直幸　34)
加古川市志方町　高嶋　明　10)
〃　志方町野尻　3幼虫, 5-V-1992 山下剛史
〃　志方町氷室　1♀, 2-VII-1983 近藤伸一
小野市下来住　31)
加美町奥荒田　5-VII-1958　32)
西脇市高松　9-VI-1959　32)
東条町森　2♂, 10-VI-1990 山下剛史
姫路市砥堀　2♂, 18-VI-1996　17)
〃　広峰山・増位山　木村三郎　9)
〃　豊富町　1♂, 23-VII-1971 三浦富生　13)
〃　大谷　2♂, 10-VI-1972 糀谷　徹　13)

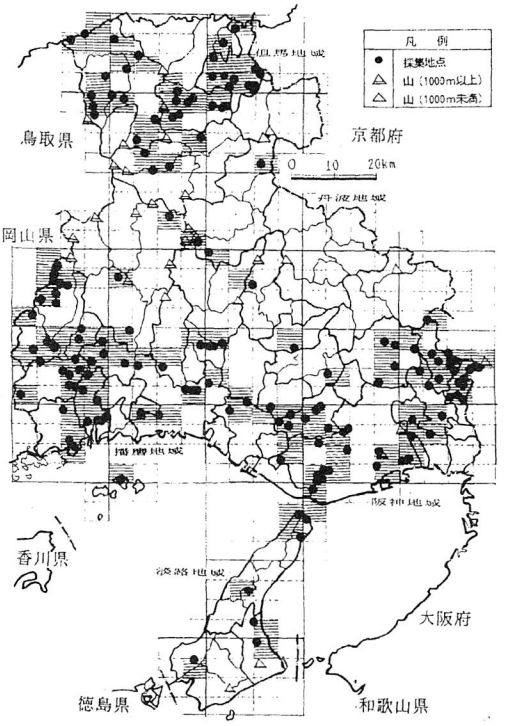
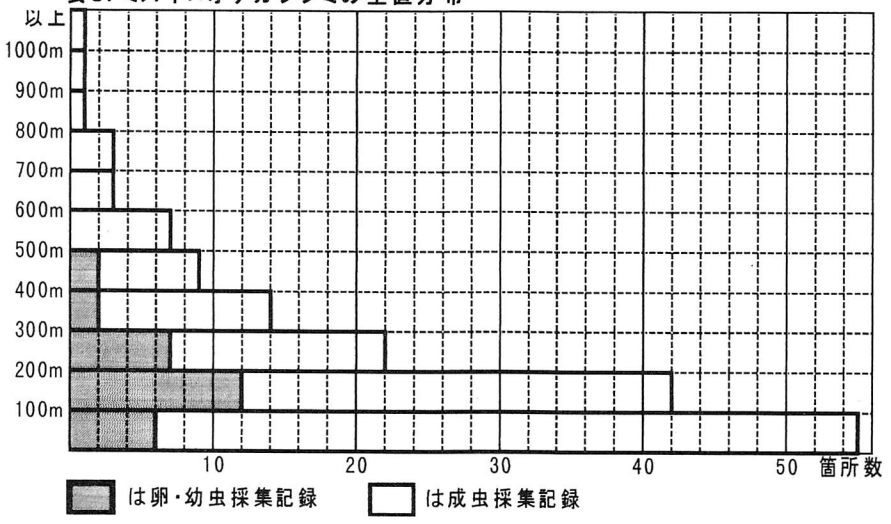


図3. ミズイロオナガシジミの県内分布

姫路市広畑区才　1♂, 12-II-1980 稲田和久　13)
〃　林田町六九谷　2卵, 13-I-1980 広畑政己
夢前町菅生澗　木村三郎
家島町家島本島　19-VI-1977 上田尚志　11)
福崎町井ノ口　2♂, 8-VI-1974 石井為久

表3. ミズイロオナガシジミの垂直分布



福崎町日光寺山　1♂, 16-VI-1975 森下泰治
〃　福田　森下泰治
〃　山崎　森下泰治
〃　加冶谷　森下泰治
龍野市　1)
山崎町須賀沢　10卵, 20-Ⅰ-1984 広畑政己
〃　野々住原（牧場）
1 ex., 17-Ⅶ-1994 大東康人
一宮町富士野　4卵, 3-Ⅳ-1977 若林守男　1)
新宮町牧　数卵, 15-Ⅰ-1984 近藤伸一
〃　千本　数卵, 15-Ⅰ-1984 近藤伸一
〃　二栢野　1卵, 6-Ⅰ-1985 広畑政己
〃　新宮　12♂9♀, 15-Ⅵ-1963 岩村　巌
相生市小河　2卵, 11-Ⅱ-1988 入江照夫
〃　佐方　5♂3♀, 23-Ⅵ-1962 岩村　巌
〃　三濃山　1卵, 7-XII-1975 広畑政己
〃　古池　1♂1♀, 20-Ⅵ-1967 米村和繁
〃　光明寺　1♂, 16-Ⅵ-1973 辰崎
〃　大谷町天下台 24exs., 23-Ⅵ-1962 岩村　巌
〃　川原町　9♂4♀, 23-Ⅵ-1962 岩村　巌
赤穂市富原　1♂, 6-Ⅵ-1976 広畑政己
〃　尾崎　1♂, 24-Ⅵ-1973 岩井信彦
〃　坂越春日　1♂, 7-Ⅵ-1963 西垣憲治
〃　春日　2幼虫, 2-Ⅴ-1983 近藤伸一
三日月町弦谷　5♂9♀, 15-Ⅵ-1963 岩村　巌
〃　春哉　2卵, 17-Ⅱ-1980 広畑政己
佐用町海内　1♀, 23-Ⅵ-1973 尾崎　勇
〃　上石井　1♂, 14-Ⅵ-1959 岩村　巌
〃　下石井　8卵, 4-Ⅰ-1976 広畑政己
〃　青木　1卵, 8-Ⅲ-1981 広畑政己
〃　若州　10卵, 27-XI-1983 広畑政己
〃　平谷　8 exs., 21-Ⅵ-1961 尾崎　勇
〃　平福　2♂, 22-Ⅵ-1961 尾崎　勇
〃　羽蔵　1 ex., 18-Ⅵ-1972 喜多舒彦　1)
上月町才金　2卵, 11-Ⅱ-1980 広畑政己
〃　上秋里　16卵, 15-Ⅱ-1981 広畑政己
〃　久崎　1♂1♀, 14-Ⅵ-1960 岩村　巌
〃　円光寺　1 ex., 12-Ⅵ-1997　40)
上郡町小野豆　5卵, 19-Ⅱ-1984 近藤伸一
〃　野桑　2卵, 17-Ⅱ-1980 広畑政己
〃　行頭　1卵, 19-Ⅱ-1984 広畑政己
〃　佐用谷　数卵, 19-Ⅱ-1984 広畑政己
〃　鞍居　1♀, 15-Ⅵ-1967 唐土洋一
〃　白旗山　1♀, 12-Ⅵ-1967　〃
〃　黒石　佐々木薫
上郡町富満　8 exs., 24-Ⅵ-1995　43)
〃　金出地　7卵, 20-Ⅰ-1997　40)
豊岡市小島　1 ex., 13-Ⅵ-1974 小林健介
〃　法花寺　2卵, 16-X-1977 高田忠彦　1)
〃　妙楽寺　5 exs., 14-Ⅵ-1963 木下賢司　5)
〃　福成寺　1♂, 4-Ⅶ-1978 木下賢司　5)
〃　三開山　1 ex., 15-Ⅵ-1978 福井丈嗣　5)
〃　奥野　5♂1♀, 9-Ⅵ-1983 前平照雄　5)
〃　江野　3♂, 17-Ⅵ-1982 前平照雄　5)
〃　立石　29)
〃　森尾　22-Ⅵ-1974 向原　33)
〃　上佐野　Ⅳ-1972 谷角素彦　33)
城崎町来日岳　3 exs., 22-Ⅵ-1980 福井丈嗣　5)
日高町名色林道　2♂, 26-Ⅵ-1978 木下賢司　5)
〃　岩中　2 exs., 17-Ⅵ-1978 木下賢司　5)
〃　栃本　2 exs., 15-Ⅵ-1982 福井丈嗣　5)
〃　鶴岡　1♂, 20-Ⅵ-1979 木下賢司　5)
〃　山宮（大岡山）
2♂1♀, 15-Ⅵ-1983 前平照雄　5)
〃　上ノ郷　4♂, 11-Ⅵ-1991 木下賢司　6)
〃　神鍋高原　撮影, 9-Ⅵ-1991 木下賢司　6)
〃　金屋　1卵, 5-Ⅳ-1977 高田忠彦　1)
〃　阿瀬渓谷　29)
温泉町美原　4 exs., 4-Ⅶ-1981 黒井和之　5)
〃　檜尾　2 exs., 12-Ⅵ-1983 黒井和之　5)
〃　上山高原　1 ex., 8-Ⅶ-1984 黒井和之　5)
〃　湯中山　1 ex., 15-Ⅵ-1992 永幡嘉之　6)
〃　霧ヶ滝　1幼虫, 16-Ⅴ-1992 永幡嘉之　6)
〃　海上林道　1 ex., 28-Ⅵ-1991 永幡嘉之　6)
浜坂町辺地　6卵, 19-Ⅲ-1977 高田忠彦　1)
〃　城山　1 ex., 6-Ⅶ-1991 永幡嘉之　6)
〃　居組　1 ex., 16-Ⅵ-1944 永幡嘉之　6)
〃　本谷　1 ex., 15-Ⅵ-1994 永幡嘉之　14)
村岡町耀山　1 ex., 12-Ⅶ-1980 福井丈嗣　5)
〃　相岡　2 exs., 8-Ⅶ-1992 永幡嘉之　6)
〃　大笹鉢北　1 ex., 6-Ⅶ-1992 永幡嘉之　6)
八鹿町小佐　1卵, 14-X-1977 高田忠彦　1)
和田山町野村　3卵, 12-X-1977 高田忠彦　1)
大屋町加保坂　1♀, 13-Ⅶ-1984 近藤伸一　6)
〃　杉ケ沢高原　1 ex., 16-Ⅷ-1993 大東康人　6)
関宮町葛畑　1 ex., 8-Ⅶ-1992 永幡嘉之　6)
〃　東鉢伏山　2)
生野町栃原　1 ex., 23-Ⅵ-1990 森口　紀
生野町段ヶ峰　31)
篠山町篭坊　12-Ⅵ-1980 森地重博　23)

洲本市千草	1 ex., 11-Ⅶ-1977	近藤伸一	
洲本市中川原	1♂1♀, 15-Ⅵ-1978	近藤伸一	42)
東浦町楠本	1♂1♀, 12-Ⅵ-1978	近藤伸一	42)
淡路町岩屋	1♂1♀, 12-Ⅵ-1978	近藤伸一	42)
北淡町江崎	4卵, 31-Ⅹ-1978	高田忠彦	1)
西淡町志知南	1♂, 13-Ⅵ-1978	近藤伸一	42)
津名町大町畑	1♀, 3-Ⅷ-1965	登日邦明	28)

参考文献

(1)高田忠彦・井手敏晴（1978）兵庫県産蝶類調査報告，MDKニュース(28)79:27-35.

(2)蝶研出版編集部（1989）スーパー採卵術，蝶研出版（茨木市）.

(3)西　隆広(1984) 芦屋市の蝶，てんとうむし(9):28-38.

(4)三木　進（1979）六甲山系（西部）の蝶，きべりはむし7(1):2-7.

(5)木下賢司・前平照雄・福井丈嗣（1986）但馬地域の蝶類目録，IRATSUME(10):55-95.

(6)木下賢司ほか（1996）但馬地域の産蝶目録Ⅱ，IRATSUME(20):66-86.

(7)登日邦明（1974）淡路島の蝶相(2)，佳香蝶26(99):25-32.

(8)加藤信一郎（1981）宝塚市清荒神のチョウ，きべりはむし9(2):8-15.

(9)木村三郎（1984）広峰・増位山系の昆虫，てんとうむし(9):53-58.

(10)高嶋　明(1984) 加古川の蝶，てんとうむし(9):46-49.

(11)上田尚志（1980）家島群島の昆虫，きべりはむし8(2):21-27.

(12)入江照夫(1984) 梅雨期杉ケ沢の蝶，ひろおび(7):48.

(13)相坂耕作（1980）姫路市の蝶相，てんとうむし(6):10-20.

(14)永幡嘉之(1995) 但馬の蝶３題，IRATSUME(19):1-3.

(15)杠　隆史（1982）六甲山系の蝶，Crude(23):67-73.

(16)大阪昆虫同好会（1981）北摂の昆虫(1) 蝶類.

(17)蝶研出版編集部（1997）1996年蝶類採集情報，蝶研サロン118号付録.

(18)蝶研出版編集部（1995）1995年蝶類採集情報，蝶研サロン(100):15-25.

(19)蝶研出版編集部（1995）1994年蝶類採集情報，蝶研サロン94号付録.

(20)法西　浩（1997）ミズイロオナガシジミの主食樹は何か，蝶研フィルド12(6):18-19.

(21)小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶，詩画工房（大阪）.

(22)日浦　勇（1970）日本列島の蝶，大阪市立自然博物館収蔵資料目録　第２集.

(23)仲田元亮（1982）能勢の昆虫（蝶の部）　自刊.

(24)青木陽一（1995）神戸市のゼフィルス２種について，Crude(40):14.

(26)蝶研出版編集部（1997）1997年蝶類採集情報，蝶研サロン(124):14-22.

(27)蝶研出版編集部（1992）1992年蝶類採集情報，蝶研サロン70号付録.

(28)登日邦明（1974）淡路島の蝶相(2)，佳香蝶26(90):25-32.

(29)高橋　匡（1979）但馬地方の昆虫目録，IRATSUME(3):40-58.

(30)山本広一（1958）小野市の蝶を語る，兵庫生物3(4):248-254.

(31)山本広一・吉阪道雄（1959）兵庫県蝶類目録(2)，兵庫生物3(5):358-364.

(32)猪俣涼一・岡本　清（1960）多可西脇地方の昆虫（蝶類），兵庫生物4(1):24-28.

(33)遠藤知二ほか（1975）豊岡市周辺の蝶，兵庫自然保護協会但馬支部研究紀要1(1).

(34)永幡嘉之（1993）三木市内における蝶の採集記録，きべりはむし21(1):10-22.

(35)蝶研出版編集部（1996）蝶類採集情報総集編，蝶研出版（茨木市）.

(36)中尾淳三（1959）氷ノ山付近の蝶相，Natura(16):15-23.

(37)平尾栄治（1995）丹生・帝釈山系にイシガケチョウ定着か，きべりはむし23(2):34.

(38)宝塚市教育委員会（1992）宝塚の昆虫類Ⅰ.

(39)田中　梓（1981）こうべ自然雑誌：116，神戸新聞出版センター（神戸市）.

(40)蝶研出版編集部（1997）蝶類採集情報，蝶研サロン130号付録.

(41)山口福男（1995）諏訪山公園の蝶，きべりはむし23(1):22-26.

(42)浅田　卓（1978）淡路島蝶類採集目録，PARNASSIUS(19):16-18.

(43)服部　保ほか（1997）蝶類群集による自然性評価の一方法，人と自然(8):41-52.

(44)服部　保ほか（1997）三田市フラワータウンにおける蝶類群集からみた植生の自然性評価，植物学会誌(14):47-60.

(45)兵庫県自然保護協会鈴蘭台支部（1979）藍那地区自然環境調査，阪神道路公団神戸.

但馬地方におけるオサムシの分布記録

永幡　嘉之

オサムシは，国内各地において最も分布調査の進んだ昆虫のひとつであろう．分布が地理的要因により制限されたり，地方により様々な形態の変異が見られること，また種類数が比較的少なく，最近では同定も容易になったことなどが，調査の進んだ要因となってきたと考えられる．古くは京浜昆虫同好会のグループに代表されるように，広く全国レベルでの標本の蓄積が行われてきたが，分布の解明度が高まるにつれて，近年では必然的により狭い地域でのミクロな調査が行われるようになってきた．以前の“何が見つかるか分からない”という場面とは異なり，従来の調査の結果，浮かび上がった問題点を解明する時期に入ったといえよう．

ところで，これまでに判明している但馬のオサムシ各種の分布を見てみると，周辺地域に見られるような，近似の別種が地理的に棲み分けるような例は残念ながら少ないようで，わずかに北西部のダイセンオサムシとヒメオサムシの例が知られるのみである．マヤサンオサムシやアキタクロナガオサムシは鳥取県以西では分布が極めて局限されるが，但馬にはほぼ普遍的に分布していると言ってよい．マクロな分布に関していえば，それほど面白い地域ではないかもしれない．

しかし，各地でのオサムシ各種のミクロな分布については，筆者は次の２点から大きな調査意義があると考える．

ひとつは，各種の分布の成立年代や成立過程に，より正確な情報を与えることである．ＤＮＡ解析や遺跡からの遺体の発掘，地史の解明などにより，オサムシの現在の分布がどのようにして成立したのかという概況については比較的明らかになってきた．しかし，細かな部分についてはまだまだ未解明の事柄も多く残されている．例えば，但馬各地にごく普通であるオオオサムシでも，和田山町や豊岡市周辺には“なぜか”全く見られない地域がある．香住町では海岸にまでマヤサンオサムシが生息しているが，浜坂町では見られなくなる．このような各地での細かな状況を把握することは，“なぜそこに棲めるのか”“なぜそこには棲めないのか”という，現在の分布の制限要因を考える手がかりになるのではないだろうか．特に，最終氷期以降の各種の分布の成立を検討するには，分布調査からのアプローチが重要であろう．

次に，各種の種間関係についても不明な部分が多い．ダイセンオサムシとヒメオサムシのように，基本的には異所的に分布し，生態的地位がほぼ等しく，代置種の関係にあると見なされているものについては，従来から種間関係が異所的分布の要因になっているのであろうと推測されてきたわけであるが，それ以外の組み合わせ，例えばオオオサムシとヤコンオサムシ，あるいはダイセンオサムシとマヤサンオサムシなどのように，“両者は地域的には広く同所的に分布しているけれども，細かく調査をすれば，ある地点では片方しか見られないか，どちらかが明らかに優勢である場合が多い”というケースも多く見受けられる．これについては環境の選好性や地史的な要因だけでは説明がつかないことが多いので，何らかの種間競争が分布に影響を与えているのではないかとうすうす感づいている人は多いのであるが，科学的に記述することが困難であるがために，いまだに詳細にとり上げて論じた例は少なく，わずかに曽田・久保田（1995）が配偶行動からのアプローチを試みているぐらいだと思われる．この問題についても，多くの地域での細かな分布調査による実例の蓄積によって，解明への何らかの糸口をつかむことができると期待するものである．

但馬およびその周辺地域のオサムシの分布については，過去には高橋（1979）などの断片的ないくつかの報告が見られる．同じ頃の，近畿オサムシ研究グループの報告（1979）によって各種の分布の概要が明らかになったが，それ以降の目立った報告はなく，過去の記録の集大成も行われていない．今回の報告においても，キュウシュウクロナガオサムシの発見などの新しい情報はあったものの，筆者を含めた但馬むしの会会員がオサムシに主眼をおいた調査を行ったわけではなく，現在の時点ではごく断片的な知見しか得られていないため，分布上の問題点すなわち今後の課題を考える資料として供するにとどめた．先に述べたように，

まだまだ丹念に調べるべき課題は多く残されている．いずれは記録の集成も行いたいが，それにはせめて但馬地方北西部でのダイセンオサムシとヒメオサムシとの分布境界や，同じ地域でのマヤサンオサムシの分布を明らかにした後で着手したいものである．

採集データについては，標高が判明しているものに関しては記すように努めた．また，集落等から離れた地点で採集した例については，（〜○○）という表現を用いて方角を示した．標高と併せれば，概ねの位置はつかめるものと考える．

分布に関する解説は，文章のみでは分かりにくいので，今回の記録に過去の代表的な文献である近畿オサムシ研究グループ（1979）および，高橋（1979）を加え，不十分であることは承知の上で，敢えて分布図を作成した．図中で●のように黒く塗りつぶしたプロットは今回記録した産地を，○のような白抜きのプロットは文献からの引用を示している．地名を特定しかねる文献記録については，一部を除外した．

報告にあたり，木下賢司，上田尚志，谷角素彦，黒井和之，足立義弘の各氏には，但馬での長年にわたる多くの採集記録を提供していただいた．他にも数名の方から記録の提供を受けたが，それぞれ採集者として本文中にお名前を記してある．また，上田尚志氏を通して高橋匡氏による豊岡高等学校所蔵標本のデータもリスト中に加えることができたが，それらについては採集者の後に（豊岡高校）と記した．各氏の御協力に謝意を表したい．なお，木下氏・足立氏・谷角氏採集の標本の一部は，1982年当時に谷角氏が冨永修氏に同定していただいていたが，今日まで報告する機会がなかったものである．報告が遅くなったことをお詫びするとともに，同氏の御好意に御礼申し上げる．

1．クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczi*

1♀，関宮町氷ノ山氷ノ山越付近 alt.1200-1260m，22-Ⅶ-1988，上田尚志．

大発生した時以外は発見の困難な種である．低地の雑木林にも広く分布している可能性はあるが，これまでの山陰地方における採集記録はいずれもブナ帯に限られている．氷ノ山，扇ノ山などのブナ林に初夏に多数のトラップを設置すれば，採集記録は増えるかもしれない．

2．エゾカタビロオサムシ *Campalita chinense*

1♂，浜坂町芦屋 alt.10m，14.Ⅷ.1983，谷角素彦；1♀，浜坂町戸田 alt.10m，29-Ⅶ-1993，永幡嘉之；1♀，温泉町井土，12-Ⅶ-1988，黒井和之；1♀，温泉町湯中山 alt.280m，6-Ⅷ-1993，永幡嘉之；1♀，日高町名色，Ⅴ-1983，谷角素彦；7♂♂7♀♀，豊岡市弥栄町，16-Ⅶ〜3-Ⅷ-1981，木下賢司；1♀，同地，15-Ⅶ-1981，木下成生；1♂，同地，18-Ⅵ-1983，木下賢司；1♂，同地，16-Ⅶ-1984，木下賢司；1♂，同地，18-Ⅶ-1984，木下賢司；1♀，豊岡市大手町ＪＲ機関区構内，11-Ⅵ-1981，木下賢司；1♂，同地，15-Ⅺ-1985，木下賢司．

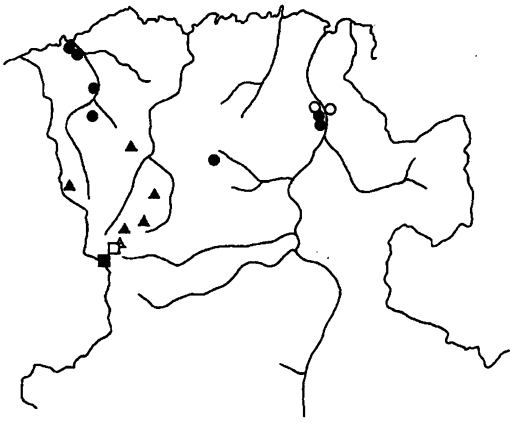


図1．クロカタビロオサムシ・エゾカタビロオサムシ・セアカオサムシの記録地点
■□……クロカタビロオサムシ
●○……エゾカタビロオサムシ
▲△……セアカオサムシ

これまでの記録は標高の低い地域に多く見られ，大部分の個体が市街地や集落内の灯下で得られている．田畑や河川敷など，草原の広がる環境との結びつきが強いようである．高標高の地域でも，関宮町鉢高原や大屋町杉ヶ沢高原のように草地や畑が広がる場所には生息している可能性が高い．

3．セアカオサムシ *Carabus (Hemicarabus) tuberculosus*

1♀，温泉町扇ノ山，25-Ⅶ-1974，谷角素彦（豊岡高校）；1♂，村岡町兎和野，25-Ⅶ-1987，谷角素彦；1♀，村岡町柤岡，6-Ⅵ-1982，島田真輔；1ex.（腹部のみ），村岡町大笹鉢北，5-Ⅶ-1981，足立義弘；1♂，美方町備 alt.760m，27-Ⅷ-1995，永幡嘉之．

山陰地方では，火山性の乾性草原および，比較的発

達した河川敷に生息している．これらは，人為作用の生じる以前から自然状態での撹乱を受け続け，遷移が進まず草原が維持されてきた環境である．但馬地方では，これまで火山性草原から散発的に得られていたが，近年になって円山川河川敷で発見されているという（上田尚志氏私信）．岸田川中流，矢田川下流などにもやや発達した河川敷が見られ，本種が生息している可能性がある．また，生野町段ヶ峰，大屋町杉ヶ沢・琴引峠，村岡町耀山，温泉町水池山などの草原は未調査であり，また上記のように記録のある場所においても，歩行中の個体を偶然に拾った例が大部分で，トラップによる調査は過去にはほとんどなされていない．個体数の少ない種であると捉えられがちであるが，いま一度，積極的な調査を試みる必要がある．

4．マヤサンオサムシ

Carabus* (*Ohomopterus*) *maiyasanus

1♂1♀，浜坂町久斗山本谷（創造の森） alt.350m，23-XI-1993，永幡嘉之；1♂1♀，同地 alt.350m，20-Ⅲ-1994，永幡嘉之；1♂2♀♀，同地 alt.240-260m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之・中峰空；1♀，温泉町越坂（～蒲生峠） alt.440m，28-XI-1993，永幡嘉之；1♂，温泉町扇ノ山小ゾッコ，25-Ⅷ-1984，谷角素彦；1♂，同地，17-Ⅶ-1985，加野正；1♀，同地，25-Ⅶ-1985，木下賢司；1♀，同地（雨滝登山道合流点） alt.1100m，2-Ⅶ-1995，永幡嘉之；1♂1♀，温泉町扇ノ山畑ヶ平（国有林入口付近） alt.800m，29-Ⅷ-1995，永幡嘉之；1♀，温泉町扇ノ山，26-Ⅴ-1977，高橋匡（豊岡高校）；1♀，温泉町扇ノ山，16-Ⅵ-1987，上田尚志；1♀，同地，1-Ⅷ-1988，上田尚志；2♀♀，温泉町岸田菅原，1-Ⅵ-1986，黒井和之；1♀，同地，14-Ⅵ-1986，黒井和之；2♂♂3♀♀，同地，7-Ⅵ-1987，黒井和之；1♀，同地 alt.500m，26-Ⅴ-1991，永幡嘉之；1♀，温泉町飯野 alt.140m，20-Ⅶ-1992，永幡嘉之；1♀，村岡町熊波，3-Ⅴ-1981，足立義弘；1♀，村岡町入江，10-Ⅴ-1993，黒井和之；1♂，村岡町兎和野，16-Ⅷ-1981，谷角素彦；3♂♂2♀♀，村岡町萩山（～一二峠）alt.420m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；2♂♂4♀♀，村岡町神坂（～村岡高原） alt.300-400m，9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；1♂4♀♀，村岡町板仕野（～兎和野） alt.550m，9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；2♂♂1♀，村岡町村岡坂中 alt.440m，12-XII-1993，永幡嘉之；1♂1♀，村岡町和佐父 alt.600-640m，8-Ⅴ-1993，永幡嘉之；1♀，村岡町小城 alt.540m，8-Ⅴ-1993，永幡嘉之；1♀，村岡町本谷奥 alt.600m，4-Ⅶ-1993，永幡嘉之；1♀，村岡町大笹鉢北 alt.800m，27-XI-1993，永幡嘉之；1♀，美方町石寺 alt.200m，30-Ⅸ-1995，永幡嘉之；1♂，美方町備（八反滝） alt.800m，29-Ⅴ-1993，黒井和之；1♀，美方町備 alt.760m，29-Ⅷ-1995，永幡嘉之；1♀，美方町小代渓谷，25-Ⅴ-1982，足立義弘；2♀♀，香住町余部市午アセビ谷 alt.80m，29-Ⅷ-1995，永幡嘉之；1♂，城崎町来日岳大乗寺，21-Ⅲ-1982，谷角素彦；1♀，日高町観音寺，1-Ⅵ-1981，木下賢司；1♂，日高町栗栖野，2-Ⅴ-1982，木下賢司；3♂♂，日高町蘇武岳名色林道，31-Ⅴ-1987，木下賢司；1♀，日高町神鍋，27-Ⅴ-1989，上田尚志；1♂，日高町上郷，15-Ⅷ-1986，上田尚志；1♂，同地，14-Ⅵ-1987，上田尚志；1♀，同地，21-Ⅴ-1988，上田尚志；1♀，日高町鶴岡，31-Ⅴ-1974，岡田邦彦（豊岡高校）；1♂，日高町阿瀬渓谷，12-Ⅷ-1978，高橋匡（豊岡高校）；1♀，日高・香住町境三川山，9-Ⅶ-1976，高橋匡（豊岡高校）；1♂，養父町万福寺，5-Ⅴ-1982，上田尚志；1♂，関宮町氷ノ山，22-Ⅶ-1980，上田尚志；1♀，豊岡市下鶴井，20-Ⅴ-1983，足立義弘；4♂♂1♀，豊岡市高屋金山，1-Ⅷ-1980，木下賢司；4♂♂2♀♀，同地，7-Ⅷ-1980，木下賢司；1♀，豊岡市妙楽寺，7-Ⅷ-1980，木下賢司；1♀，同地，27-Ⅴ-1982，木下賢司；1♀，同地，13-Ⅴ-1986，木下賢司；1♂1♀，豊岡市上佐野，12-Ⅵ-1983，木下賢司；1♂，豊岡市三開山，1-Ⅶ-1986，木下賢司；1♂，同地，7-Ⅶ-1986，木下賢司；1♀，同地，21-Ⅶ-1987，木下賢司；1♂3♀♀，同地，30～31-Ⅶ-1987，木下賢司；1♀，豊岡市山本，4-Ⅵ-1989，上田尚志；1♀，豊岡市愛宕山，7-Ⅴ-1980，木下賢司；1♂，豊岡市伊賀谷，7-Ⅴ-1982，木下賢司；1♀，同地，10-Ⅴ-1982，木下賢司；12♂♂20♀♀，豊

図2．マヤサンオサムシの記録地点

岡市目坂（奈佐森林公園），7-Ⅷ-1993，上田尚志；1♀，豊岡市京町（豊岡高校内），Ⅶ-1978，高橋匡（豊岡高校）；1♂，豊岡市九日市，27-Ⅶ-1973，堀江光司（豊岡高校）；1♀，出石町奥山床ノ尾山，6-Ⅵ-1982，木下賢司；1♀，出石町床ノ尾山，21-Ⅵ-1987，黒井和之；2♀♀，出石町森井，1-Ⅵ-1986，上田尚志；1♂，出石町東條，5-Ⅳ-1989，山崎喜彦；1♀，和田山町竹ノ内，21-Ⅴ-1986，山下；1♂，同地，14-Ⅵ-1986，山下；1♂（テネラル），同地，21-Ⅶ-1987，山崎喜彦；1♀，同地，25-Ⅵ-1988，山崎喜彦；1♀，和田山町市場，13-Ⅷ-1985，木下賢司；1♂，和田山町玉置，9-Ⅴ-1981，上田尚志；1♀，同地，27-Ⅴ-1988，上田尚志；3♂♂5♀♀，和田山町竹田城跡 alt.200m，3-Ⅰ-1998，永幡嘉之・中峰空；1♀，生野町上生野，6-Ⅶ-1977，高橋匡（豊岡高校）.

但馬地方の南部・東部では全域に広く分布しているが，北西部で分布が途切れる．海岸部では，香住町余部，浜坂町本谷などに記録があることから，岸田川下流付近が分布の西限になっているようである．内陸部では，温泉町竹田と浜坂町諸寄との間に位置する山塊の竹田に近い場所（図２においてプロットに？を付した地点)で，本種のものと思われる銅色の上翅を１枚採集しており，温泉町鐘尾・千谷など岸田川中流域では，岸田川の西側にも生息している可能性が高い．扇ノ山より南では，鳥取県側にも分布が見られるようになる．

浜坂町や村岡町産の個体は，神戸市産の個体と比較すると，やや大型で，銅色の個体では背面の光沢や赤味がより強く，黒色の個体では緑色光沢が強いものが多いなどの特徴があるが，和田山町産の個体ではそれらの特徴は弱くなり，神戸市産の個体との区別が難しくなる．

5．オオオサムシ *Carabus* (*Ohomopterus*) *dehaanii*

1♂，浜坂町久斗山本谷 alt.350m，20-Ⅲ-1994，永幡嘉之；1♂4♀♀，同地 alt.240-260m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之・中峰空；6♂♂，浜坂町城山 alt.100m，4-Ⅰ-1992，永幡嘉之；2♂♂1♀，同地 alt.100m，31-Ⅰ-1993，永幡嘉之；1♂，同地 alt.100m，9-Ⅴ-1993，永幡嘉之；4♂♂7♀♀，同地 alt.100m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之・中峰空；1♂，浜坂町久谷 alt.100m，4-Ⅰ-1998，中峰空；2♀♀，温泉町牛ヶ峰山 alt.500m，8-XII-1994，永幡嘉之；7♂♂6♀♀，温泉町竹田（後山との間の稜線上） alt.440m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；3♂♂1♀，同地 alt.300m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；1♀，温泉町多子，1987，黒井和之；1♂，温泉町越坂 alt.300m，18-Ⅴ-1992，永幡嘉之；1♂，温泉町越坂（～蒲生峠） alt.440m，28-XI-1993，永幡嘉之；1♀，温泉町岸田菅原，1-Ⅵ-1986，黒井和之；1♂2♀♀，同地，14～15-Ⅵ-1986，黒井和之；7♀♀，同地，7-Ⅵ-1987，黒井和之；3♀♀，10-Ⅵ-1987，黒井和之；1♀，温泉町扇ノ山，16-Ⅵ-1987，上田尚志；1♂，同地，31-Ⅶ-1987，上田尚志；1♂5♀♀，温泉町春来峠 alt.420m，1-Ⅰ-1997，永幡嘉之；1♂，温泉町桧尾，26-Ⅵ-1986，黒井和之；1♀，同地（～春来） alt.420m，31-Ⅲ-1994，永幡嘉之；1♀，温泉町伊角（～桧尾） alt.300m，26-Ⅴ-1992，永幡嘉之；3♂♂2♀♀，村岡町相岡，6-Ⅵ-1982，谷角素彦・島田真輔；2♂♂2♀♀，同地 alt.500m，24-Ⅴ-1991，永幡嘉之；1♀，村岡町丸味，8-Ⅴ-1982，足立義弘；1♂1♀，村岡町大糠（～兎和野） alt.260-400m，12-XII-1993，永幡嘉之；2♂♂2♀♀，村岡町神坂（～村岡高原） alt.300-400m，9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；1♀，村岡町村岡坂中 alt.440m，12-XII-1993，永幡嘉之；3♀♀，村岡町板仕野（～兎和野） alt.550m，9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；1♀，村岡町和田 alt.300m，19-Ⅴ-1991，永幡嘉之；1♂，村岡町本谷奥 alt.600m，2-XII-1993，永幡嘉之；1♀，村岡町大笹鉢北，27-Ⅵ-1986，木下賢司；1♀，美方町久須部 alt.360m，10-Ⅴ-1992，永幡嘉之；1♂，香住町鎧 alt.60m，28-Ⅵ-1995，永幡嘉之；2♀♀，香住町御崎（サンジ谷） alt.60-160m，22-XII-1994，永幡嘉之；1♀，日高・香住町境三川山，3-Ⅴ-1974，本橋育美（豊岡高校）；1♂，関宮町氷ノ山，21-Ⅴ-1973，高橋匡（豊岡高校）；1♀，関宮町大久保（～鉢高原） alt.740m，13-Ⅶ-1991，永幡嘉之；1♀，関宮町丹戸 alt.520m，5-Ⅷ-1987，永幡嘉之；2♀♀，

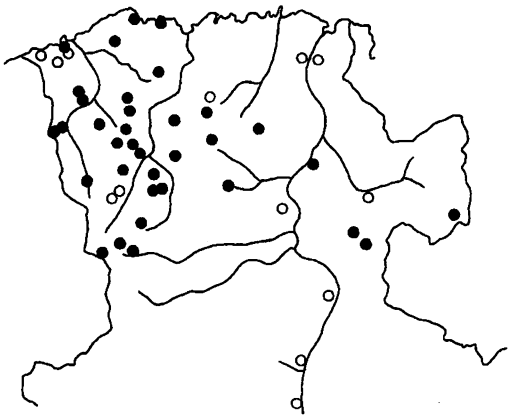


図３．オオオサムシの記録地点

日高町阿瀬渓谷，4-V-1989，上田尚志；1♀，日高町大岡山，15-V-1988，上田尚志；1♂，日高町上郷，12-V-1988，上田尚志；1♀，同地，15-V-1988，上田尚志；3♂♂3♀♀，豊岡市目坂（奈佐森林公園），7-VIII-1993，上田尚志；1♀，和田山町旭，13-VIII-1985，木下賢司；1♀，和田山町糸井，8-V-1983，上田尚志；1♀，但東町大河内，23-V-1981，足立義弘.

但馬地方の全域に記録が見られるが，局地的に分布の希薄な地域がある．まず，氷ノ山や扇ノ山の標高800～1000mを超える地域からの記録が見られない．また，豊岡盆地から和田山町にかけての円山川流域には産地が少なく，調査しても得られなかった例が多い．標高の高い地域については環境要因で分布が制限されるのではないかと考えられるが，円山川流域については地史的な要因，湿度条件などの環境要因，あるいは平野の二次林に優勢なヤコンオサムシとの種間関係など，様々な理由が分布の制限要因の可能性として考えられる.

6．ダイセンオサムシ

Carabus* (*Ohomopterus*) *daisen

1♀，浜坂町城山 alt.100m，15-VI-1986，谷角素彦；1♀，同地 alt.60m，22-VI-1991，永幡嘉之；1♀，同地 alt.100m，8-VIII-1991，永幡嘉之；2♀♀，同地 alt.100m，17-V-1992，永幡嘉之；6♂♂4♀♀，同地 alt.100m，7-V～9-VI-1993，永幡嘉之；4♂♂3♀♀12exs.，同地 alt.100m，7-IX-1997，永幡嘉之・中峰空；1♂1♀，浜坂町観音山 alt.220m，31-V-1992，永幡嘉之；1♀，同地 alt.220m，11-V-1993，永幡嘉之；7♂♂1♀，浜坂町久斗山本谷 alt.240-260m，7-IX-1997，永幡嘉之・中峰空；1♀，温泉町今岡 alt.80m，18-V-1991，永幡嘉之；1♀，温泉町井土，16-V-1988，黒井和之；1♀，温泉町海上 alt.400m，14-VI-1986，黒井和之；1♀，同地，6-VI-1988，黒井和之；1♂1♀，温泉町岸田菅原，15-VI-1986，黒井和之；1♀，同地，4-VII-1986，黒井和之；1♂5♀♀，同地，7-VI-1987，黒井和之；1♀，温泉町岸田霧ヶ滝入口 alt.420m，30-V-1992，永幡嘉之；1♂，温泉町岸田肥前畑 alt.580m，23-V-1994，永幡嘉之；1♀，温泉町岸田花口 alt.360m，22-V-1992，永幡嘉之；1♂，温泉町蒲生峠 alt.340m，14-VI-1986，足立義弘；1♀，温泉町扇ノ山上山高原 alt.920m，2-VII-1995，永幡嘉之；1♂，温泉町扇ノ山小ヅッコ，2-VI-1986，谷角素彦；1♀，同地，1-VII-1986，谷角素彦；1♂，同地，26-VIII-1984，山本一幸；1♀，同地，15-IX-1984，谷角素彦；1♀，同地，6-VI-1988，黒井和之；1♀，同地，19-VI-1988，黒井和之；2♀♀，同地（小ヅッコ小屋付近） alt.1080m，7-VI-1995，川端知江；2♀♀，同地（雨滝登山道合流点） alt.1100m，2-VII-1995，永幡嘉之；1♂2♀♀，同地（大石登山道合流点） alt.1160m，2-VII-1995，永幡嘉之；1♂，温泉町扇ノ山畑ヶ平（高原上） alt.980m，2-VII-1995，永幡嘉之；1♀，村岡町相岡（相大池）alt.500m，9-V-1982，足立義弘；3♂♂3♀♀，村岡町相岡，6-VI-1982，谷角素彦・島田真輔；2♀♀，同地，27-V-1986，黒井和之；1♀，同地，14-VI-1986，黒井和之；1♀，同地 alt.500m，24-V-1991，永幡嘉之；1♂，同地（相大池） alt.500m，23-V-1993，黒井和之；1♂，香住町余部市午アセビ谷 alt.80m，29-VIII-1995，永幡嘉之.

本種と次種ヒメオサムシは，但馬地方では異所的に分布しているようである．中国地方全域においても，同所的に生息している例はこれまでに知られていない.

但馬地方では，北西部に本種が，それ以外の地域に次種が生息している．標高の低い地域では，矢田川が分布の境界になっているのではないかと考えられるが，香住町・村岡町周辺でのトラップによる調査はほとんどなされていないので，今後確認する必要がある．また，氷ノ山から扇ノ山の一部にかけての標高の高い地域には次種が分布しており，扇ノ山では両種の分布が接近している可能性が高いが，詳しいことは明らかになっていない.

本種は，次種と代置関係にあると見なされており，分布に関しても従来は次種との関係に主眼が置かれてきたが，兵庫県北西部から鳥取県東部にかけての地域では，むしろマヤサンオサムシの分布の西限のラインと，本種の分布の東限のラインとがよく一致する．体サイズについても，扇ノ山では本種とマヤサンオサムシがかなり近く，ヒメオサムシは明らかに小型である．本種とマヤサンオサムシとの間に何らかの種間競争が存在し，それが分布に影響を与えている可能性がある．ただし，扇ノ山や浜坂町，香住町では，本種とマヤサンオサムシが同所でトラップに入ったことがあり，同所的に生息している地域も存在する.

背面の色彩には若干の地理的な変異が見られ，温泉町扇ノ山周辺の個体群は，例外なく暗銅色を帯びる．浜坂町・香住町の久斗山周辺の個体群は，銅色や緑色を帯び，変異が多い．浜坂町城山や観音山などの海岸部から村岡町相岡にかけての，岸田川流域の低標高地を中心に生息する個体群は例外なく黒色で，上翅側縁部のみが弱い緑色を帯びる．銅色を帯びる個体群が，扇ノ山や久斗山など，マヤサンオサムシと分布が重な

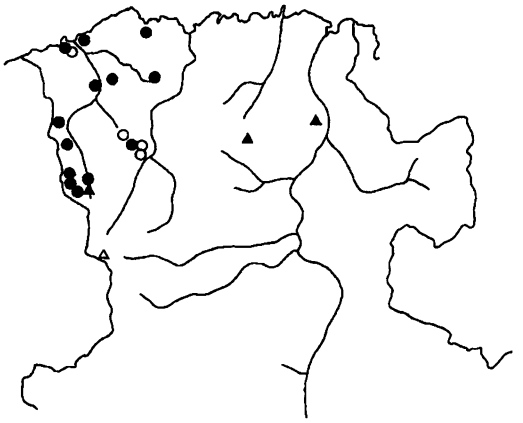


図4．ヒメオサムシ・ダイセンオサムシの記録地点
●○……ダイセンオサムシ
▲△……ヒメオサムシ

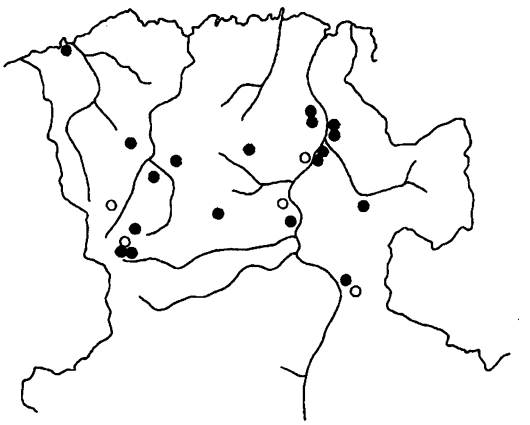


図5．ヤコンオサムシの記録地点

る地域においてのみ見られることは興味深いが，現在は被検個体数が少なく，分布調査とあわせて，いま一度多数の標本を蓄積する必要がある．

7．ヒメオサムシ *Carabus* (*Ohomopterus*) *japonicus*

1♂2♀♀，温泉町扇ノ山畑ヶ平（国有林入口付近） alt.800m，10-Ⅷ-1986，足立義弘；1♂1♀，同地 alt.800m，29-Ⅷ-1995，永幡嘉之；1♀，同地 alt.800m，1-Ⅹ-1995，永幡嘉之；1♀，日高町大岡山，23-Ⅷ-1992，上田尚志；1♀，豊岡市弥栄町，17-Ⅶ-1981，木下成生．

前種の項で述べたように，矢田川以東および，扇ノ山以南の地域に広く分布しているものと考えられるが，採集記録はごく少ない．前種と本種は，共に冬期の採集では得られにくい．また本種は前種と異なり，歩行中の個体を拾った例が極めて少なく，このことは本種の分布が局地的なことを示唆するのではないかと考えられる．

8．ヤコンオサムシ

Carabus (*Ohomopterus*) *yaconinus*

1♀，浜坂町城山，30-Ⅴ-1993，黒井和之；2♂♂1♀，村岡町柤岡，6-Ⅵ-1982，谷角素彦；1♂，同地 alt.500m，24-Ⅴ-1991，永幡嘉之；1♂，同地，5-Ⅶ-1992，黒井和之；1♂2♀♀，村岡町神坂（～村岡高原） alt.300-400m，9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；1♂，村岡町村岡坂中 alt.440m，12-XII-1993，永幡嘉之；1♀，村岡町大笹鉢北，6-Ⅷ-1987，上田尚志；1♀，同地（大沼湿原） alt.840m，31-Ⅶ-1993，上田尚志；1♂，日高町東河内，23-Ⅴ-1981，谷角素彦；1♀，日高町上ノ郷，14-Ⅷ-1982，上田尚志；1♂，同地，8-Ⅰ-1987，上田尚志；1♂，同地，20-Ⅲ-1988，上田尚志；1♂，関宮町大久保 alt.700-760m，26-Ⅶ-1986，松本正孝；1♂，関宮町丹戸 alt.620m，24-Ⅶ-1986，永幡嘉之；1♀，八鹿町妙見山，29-Ⅳ-1985，上田尚志；1♀，八鹿町栄町，2-Ⅴ-1981，上田尚志；1♂，豊岡市三開山，29-Ⅰ-1987，木下賢司；1♂，豊岡市妙楽寺，1-Ⅷ-1980，木下賢司；5♂♂4♀♀，豊岡市立野（円山川河川敷），11～12-Ⅴ-1996，上田尚志；1♂，豊岡市下陰，29-Ⅶ-1973，宮代真理子（豊岡高校）；1ex.，豊岡市中郷，28-Ⅶ-1989，上田尚志；1♀，豊岡市中筋，21-Ⅵ-1988，上田尚志；1♂，和田山町柳原，14-Ⅳ-1989，山崎喜彦；1♂，出石町東條，29-Ⅳ-1986，山崎喜彦；1♀，同地，5-Ⅳ-1989，山崎喜彦；1♀，同地，3-Ⅴ-1990，山崎喜彦．

但馬地方東部では広く分布しており，特に円山川河川敷の草原など非森林的環境において個体数が多い．西部ではやや分布が局地的になり，関宮町や村岡町の高原地帯に記録が多く見られるが，周辺に草原のない樹林内にも生息している．兵庫県の個体群は原名亜種*yaconinus*，鳥取県以西の個体群は山陰亜種*maetai*とされており（Ishikawa, R. and K. Kubota, 1994），但馬地方がその境界域にあたると考えられるが，但馬地方の個体群の形態に関してはこれまでに論じられたことはない．円山川流域，関宮町～村岡町，鳥取平野の個体群のそれぞれの分布域が連続しているのかどうか，また形態はどのように変化するのかを今後調査する必要がある．

背面全体が弱い銅色を帯びる例が，出石町の個体に

見られた．関宮町・村岡町産は，検した範囲では黒色で，側縁部が弱い緑色を帯びる．鳥取平野の個体群も多数を見ているが黒色で安定しており，銅色を帯びた個体は確認していない．日高町上郷付近や関宮町で採集された個体はかなり小型のものが多く，被検個体数は少ないが，地域的に安定した形質である可能性が高い．

9．アキタクロナガオサムシ

Carabus* (*Apotomopterus*) *porrecticollis

1♂，浜坂町城山，6-Ⅲ-1988，黒井和之；1♀，同地 alt.100m，31-Ⅰ-1993，永幡嘉之；1♀，同地 alt.100m，7-Ⅴ-1993，永幡嘉之；1♀，同地 alt.100m，30-Ⅴ-1993，永幡嘉之；4♂♂4♀♀，同地 alt.100m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之；3♂♂3♀♀，浜坂町久斗山本谷 alt.240-260m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之・中峰空；4♂♂7♀♀，温泉町竹田（後山との間の稜線上） alt.440m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；4♂♂2♀♀，温泉町竹田 alt.300m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；1♂，温泉町湯，12-Ⅴ-1987，黒井和之；1♂，温泉町湯谷 alt.200m，24-Ⅴ-1991，永幡嘉之；1♂1♀，温泉町春来峠 alt.420m，1-Ⅰ-1997，永幡嘉之；1♀，温泉町高山 alt.400m，1-Ⅰ-1997，永幡嘉之；6♂♂3♀♀，温泉町牛ヶ峰山 alt.500m，8-XII-1994，永幡嘉之；3♂♂1♀，村岡町柤岡，6-Ⅷ-1983，谷角素彦；2♂♂1♀，同地（柤大池） alt.500m，1-Ⅰ-1993，永幡嘉之；1♂1♀，同地 alt.500m，23-XI-1993，永幡嘉之；1♂3♀♀，村岡町萩山（～一二峠） alt.420m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；5♂♂4♀♀，村岡町村岡坂中 alt.440m，12-XII-1993，永幡嘉之；1♀，村岡町和田 alt.200m，19-Ⅴ-1991，永幡嘉之；3♂♂，村岡町兎和野高原 alt.620m，9-XII-1993，上田裕；2♀♀，村岡町大糠（～兎和野） alt.260-400m，12-XII-1993，永幡嘉之；1♂1♀，村岡町本谷奥 alt.600m，2-XII-1993，永幡嘉之；2♂♂6♀♀，村岡町神坂（～村岡高原） alt.300-400m，9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；1♂，美方町大谷（～小長辿） alt.550m，24-Ⅴ-1991，永幡嘉之；1♀，香住町御崎 alt.200m，4-Ⅰ-1992，永幡嘉之；1♀，日高・香住町境三川山，3-Ⅴ-1977，高橋匡（豊岡高校）；1♂，竹野町羽入，27-Ⅷ-1973，森上広己（豊岡高校）；2♂♂，城崎町来日岳大乗寺，21-Ⅲ-1982，木下賢司；1♀，日高町名色，4-Ⅴ-1981，谷角素彦；1♀，日高町上郷，22-Ⅶ-1989，上田尚志；1♀，豊岡市高屋金山，7-Ⅷ-1980，木下賢司；1♀，豊岡市上佐野（雷神社），19-XI-1985，木下賢司；1♂1♀，豊岡市中ノ郷大師山，3-Ⅲ-1981，木下賢司；1♀，豊岡市金剛寺，29-Ⅷ-1977，高橋匡（豊岡高校）；1♂，豊岡市三開山，24-Ⅲ-1985，木下賢司；1♂1♀，同地，6-Ⅷ-1986，木下賢司；1♀，同地，2-Ⅰ-1987，木下賢司；4♂♂1♀，同地，29-Ⅰ-1987，木下賢司；1♂，同地，21-Ⅱ-1987，木下賢司；1♂，同地，4-Ⅶ-1987，木下賢司；2♂♂，同地，10-Ⅳ-1988，上田尚志；3♂♂9♀♀，豊岡市目坂（奈佐森林公園），7-Ⅷ-1993，上田尚志；1♀，出石町袴狭，9-Ⅵ-1981，木下賢司；1♂，和田山町竹田城跡 alt.200m，3-Ⅰ-1998，永幡嘉之．

海岸部から山地にかけて，但馬地方全域に広く分布するが，標高800m以上のブナ林が広がる地域からはこれまで記録がない．

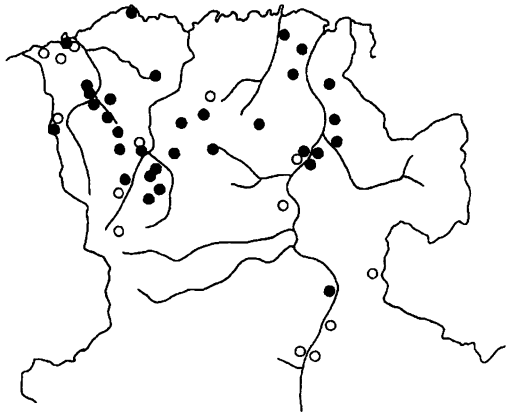


図6．アキタクロナガオサムシの記録地点

10．クロナガオサムシ

Carabus* (*Leptocarabus*) *procerulus

1♀，浜坂町城山，10-Ⅵ-1991，黒井和之；1♂，同地 alt.100m，4-Ⅰ-1992，永幡嘉之；3♂♂3♀♀，同地 alt.100m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之・中峰空；1♀，浜坂町田井 alt.50m，9-Ⅰ-1993，永幡嘉之；1♂1♀，浜坂町久斗山本谷 alt.240-260m，7-Ⅸ-1997，永幡嘉之；3♀♀，温泉町竹田（後山との間の稜線上） alt.440m，1-Ⅰ-1994，永幡嘉之；1♀，温泉町春来峠 alt.420m，1-Ⅰ-1997，永幡嘉之；1♂，温泉町高山 alt.400m，1-Ⅰ-1997，永幡嘉之；1♂，温泉町越坂（～蒲生峠） alt.440m，28-XI-1993，永幡嘉之；9♂♂10♀♀，温泉町牛ヶ峰山 alt.500m，8-XII-1994，永幡嘉之；1♂，温泉町扇ノ山，9-XII-1984，上田尚志；1♂，温泉町扇ノ山小ヅッコ，1-Ⅵ-1984，黒井和之；1♀，同地，15-Ⅸ-1984，谷角素彦；1♂1♀，同地，6-Ⅴ-1987，木下賢司；1♀，同地 alt.1100m，26-Ⅷ-1992，永幡嘉之；1♂，同地 alt.1100m，11-XII-1994，

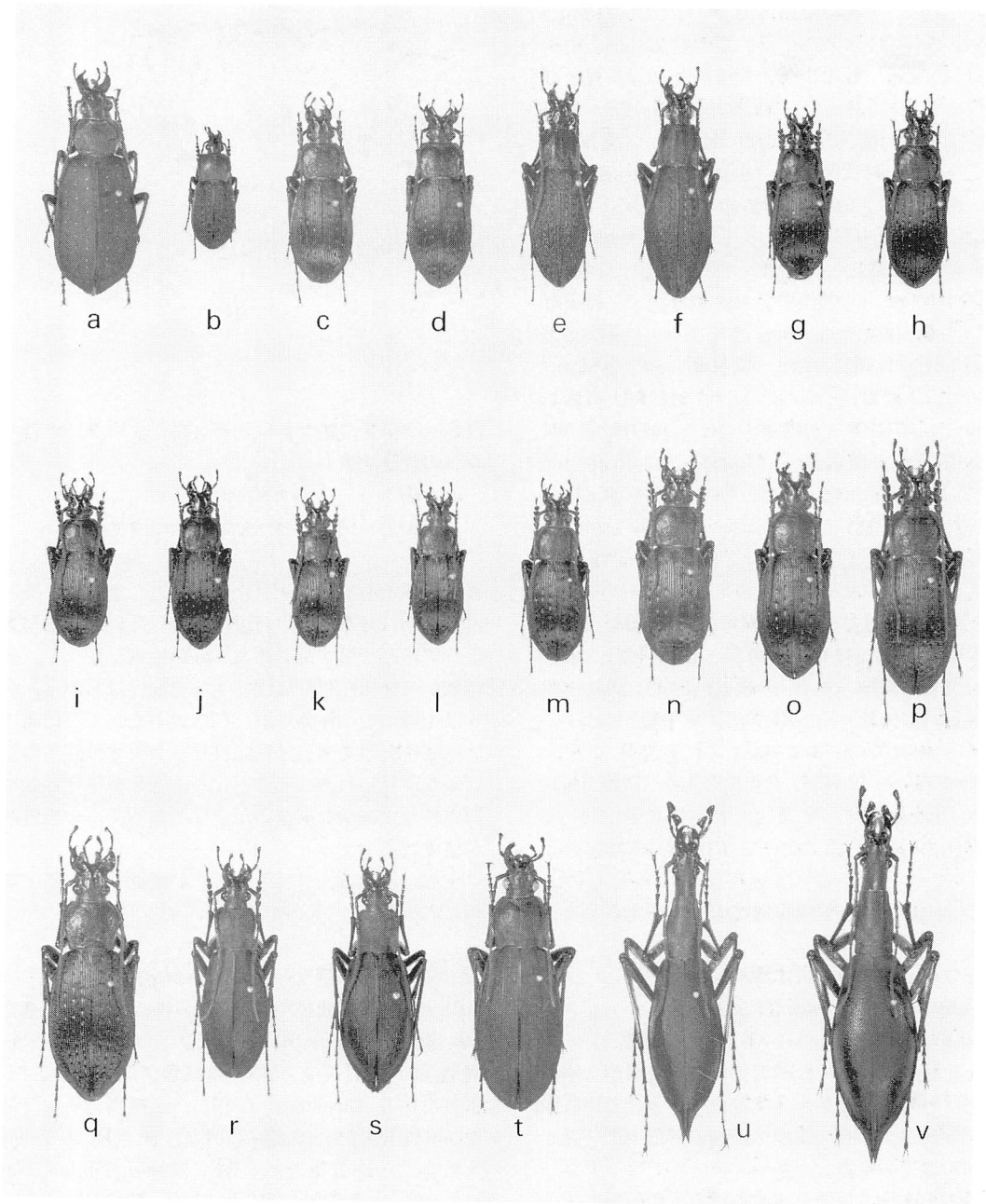


図7．但馬から記録されているオサムシ類

a．エゾカタビロオサムシ♀（浜坂町戸田）；b．セアカオサムシ♂（美方町備）；c．マヤサンオサムシ♂（村岡町萩山）；d．同♀（美方町石寺）；e．アキタクロナガオサムシ♂（温泉町竹田）；f．同♀（同地）；g．ダイセンオサムシ♂（浜坂町城山）；h．同♀（同地）；i．同♂（温泉町扇ノ山）；j．同♀（同地）；k．ヒメオサムシ♂（温泉町扇ノ山）；l．同♀（同地）；m．ヤコンオサムシ♂（日高町上郷）；n．同♂（村岡町村岡）；o．同♀（村岡町神坂）；p．オオオサムシ♂（温泉町竹田）；q．同♀（香住町御崎）；r．クロナガオサムシ♂（村岡町大笹）；s．同♀（浜坂町田井）；t．キュウシュウクロナガオサムシ♀（温泉町海上）；u．マイマイカブリ♂（温泉町竹田）；v．同♀（村岡町萩山）.

永幡嘉之；1♂1♀，温泉町扇ノ山大ヅッコ alt.1180m, 2-XI-1991，永幡嘉之；3♂♂1♀，温泉町扇ノ山上山～小ヅッコ alt.780m, 26-XI-1994，永幡嘉之；1♀，温泉町扇ノ山畑ヶ平（国有林入口） alt.800m, 1-X-1995，永幡嘉之；1♀，同地（扇ノ山登山道） alt.1020m, -IX-1996，永幡嘉之；1♂，村岡町柤岡（柤大池） alt.500m, 1-Ⅰ-1993，永幡嘉之；2♂♂，同地 alt.500m, 23-XI-1993，永幡嘉之；1♂1♀，村岡町萩山（～一二峠） alt.420m, 1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；2♂♂，村岡町村岡坂中 alt.440m, 12-XII-1993，永幡嘉之；1♂，村岡町板仕野（～兎和野） alt.550m, 9-XII-1993，永幡嘉之・上田裕；1♂，村岡町大糠（～兎和野） alt.260-400m, 12-XII-1993，永幡嘉之；7♂♂2♀♀，村岡町大笹鉢北 alt.800m, 27-XI-1993，永幡嘉之；1♂，美方町備 alt. 760m, 29-Ⅷ-1995，永幡嘉之；1♂，関宮町氷ノ山山頂 alt. 1510m, 15-Ⅷ-1988，永幡嘉之；2♂♂，関宮町氷ノ山，17-XI-1988，上田尚志；1♂，日高・香住町境三川山，3-Ⅴ-1977，高橋匡（豊岡高校）；5♂♂1♀，城崎町来日岳大乗寺，21-Ⅲ-1982，木下賢司・谷角素彦；1♀，豊岡市三開山，24-Ⅲ-1985，木下賢司；1♂，同地，29-Ⅰ-1987，木下賢司；1♂2♀♀，同地，21-Ⅱ-1987，木下賢司；1♂1♀，同地，10-Ⅳ-1988，上田尚志；1♂，豊岡市上佐野（雷神社），19-XI-1985，木下賢司；1♂，豊岡市中ノ郷大師山，3-Ⅲ-1981，木下賢司；1♂，豊岡市妙楽寺，16-Ⅳ-1976，久保田・辻井（豊岡高校）；1♂1♀，出石町桐野，21-Ⅲ-1981，谷角素彦；3♂♂8♀♀，和田山町竹田 alt.200m, 3-Ⅰ-1998，永幡嘉之・中峰空.

海岸から山地まで，但馬全域に広く分布する.

11. キュウシュウクロナガオサムシ
Carabus* (*Leptocarabus*) *kyushuensis

1♀，温泉町海上 alt.380m, 1-XI-1991，永幡嘉之.

前種と比較して大型で，♂では前肢の特徴から他種との区別は容易であるが，♀では決め手となる形質が乏しい．しかし，体長，体型，前胸の形などで一見して区別が可能である場合が多い.

中国地方および九州に分布する種で，中国地方での分布の東限は，山陽側では兵庫県佐用町，山陰側では鳥取平野とされていた．鳥取平野では，千代川下流では左岸（西側）のみに生息しており，中流の河原町，郡家町付近よりも上流において，右岸にも生息している地域がある（永幡，1995）．温泉町の西側にあたる鳥取県岩美町や福部村からは本種の記録はなく，今回の記録は飛び離れた分布の東限となる．鳥取県下では，

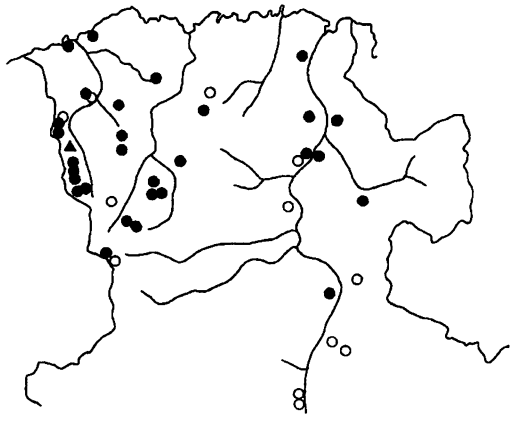


図8．クロナガオサムシ・キュウシュウクロナガオサムシの記録地点

●○……クロナガオサムシ

▲ ……キュウシュウクロナガオサムシ

通常本種と前種クロナガオサムシとは垂直的に棲み分けており，分布の接点付近で混棲していることが多いようである．扇ノ山の標高の低い地域に沿って，鳥取県側から分布が延びてきている可能性はあるが，海上では1個体しか採集されていないこと，より標高の低い地域を含めた周辺地域ではクロナガオサムシの記録ばかりが見られることなどから，土砂や植木と共に運搬された人為的な偶産の可能性も含めて，今後再調査が望まれる.

上記の個体は，11月であったが活動中で，路上を歩行していた.

12. マイマイカブリ *Damaster blaptoides*

1♂1♀，浜坂町居組 alt.10m, 10-Ⅳ-1991，永幡嘉之；1♀，浜坂町城山 alt.100m, 9-Ⅴ-1993，永幡嘉之；2♂♂，同地 alt.100m, 7-Ⅸ-1997，永幡嘉之・中峰空；1♂，浜坂町田井 alt.40m, 9-Ⅰ-1993，永幡嘉之；1♂1♀，温泉町竹田（後山との間の稜線上） alt.440m, 1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；1♀，温泉町竹田 alt.300m, 1-Ⅰ-1994，永幡嘉之；1♂1♀，温泉町牛ヶ峰山 alt.500m, 8-XII-1994，永幡嘉之；1♂，温泉町扇ノ山畑ヶ平（扇ノ山登山道） alt.1020m, 15-Ⅸ-1993，永幡嘉之；1♂，村岡町柤岡（柤大池） alt.500m, 1-Ⅰ-1993，永幡嘉之；1♂1♀，村岡町本谷奥 alt.600m, 2-XII-1993，永幡嘉之；2♂♂1♀，村岡町萩山（～一二峠） alt.420m, 1-Ⅰ-1994，永幡嘉之・四方圭一郎；1ex.，美方町秋岡 alt.340m, 30-Ⅸ-1995，永幡嘉之；1♀，香住町三川（三川山），

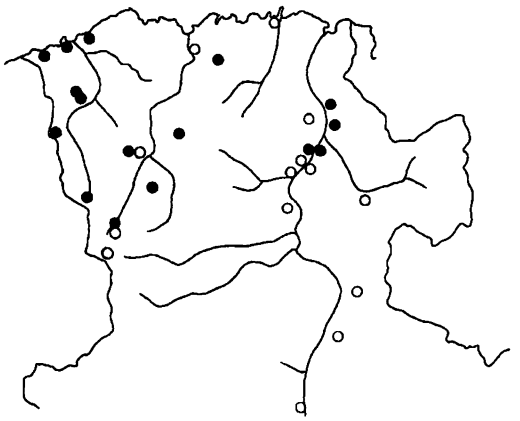


図9．マイマイカブリの記録地点

3-V-1982，木下賢司；1♂，豊岡市愛宕山，7-V-1981，木下賢司；1♀，豊岡市上佐野（雷神社），19-XI-1985，木下賢司；1♀，豊岡市中ノ郷大師山，3-Ⅲ-1981，木下賢司；1♀，豊岡市三開山，14-Ⅲ-1984，木下賢司；1♂，同地，14-Ⅲ-1985，木下賢司；1♀，同地，23-Ⅶ-1986，木下賢司；2♀♀，同地，29-Ⅰ-1987，木下賢司；2♂♂3♀♀，同地，21-Ⅱ-1987，木下賢司．

海岸から山地まで，但馬全域に広く分布する．

参考文献

高橋寿郎（1979）但馬地域のオサムシ，IRATSUME3：33-36.

近畿オサムシ研究グループ（1979）近畿地方のオサムシ，大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第11集.

永幡嘉之（1995）鳥取平野のオサムシの分布資料，すかしば41/42：1-9.

永幡嘉之（1996）扇ノ山のダイセンオサムシとヒメオサムシについて（1），IRATSUME20：44-45.

高橋　匡（1975-1978）豊岡高等学校昆虫標本目録（第1～5報），豊岡高等学校生物教室.

曽田貞滋・久保田耕平（1995）オサムシの種間交尾，昆虫と自然30(2)：13-19.

Ishikawa, R. and K. Kubota (1994) Geographical races of *Carabus yaconinus* Bates : A Tentative Revision, Proc. Japan. Soc. Syst. Zool., 50 : 28-40.

《 IRATSUMEの原稿募集 》

IRATSUME 23号（1999年5月発行予定）の原稿を募集します．
フィールドノートや標本箱に眠ったままになっている記録，
今シーズンの最新成果などを，どんどんお寄せください．
各昆虫のデータのまとめや生態観察記はもちろん，採集記や短報も歓迎します．
また，思い出の虫や懐かしの採集地，今後の抱負といったような内容でも結構ですから，
ぜひご投稿ください．バラエティーに富んだ誌面にしたいと思います．
原稿執筆に際しては，必ず投稿規定をお読みください．
なお，別刷りは有料で，50部単位で作成できます．
希望者は，投稿時に部数とあわせてご連絡ください．
原稿の締切は，1999年2月末です．
送付先・問合先は，〒567-0872 茨木市新中条町5-36-102，谷角素彦まで．

思い出の南の島採集記

木下　賢司

原稿を書くことになったいきさつ

むしの会の谷角さんから，IRATSUMEに原稿執筆をとのお勧めがあったのは，正月過ぎのことだった．

もともと怠け者の私には，これといった研究の成果があるはずもなく，珍しい虫の記録など記事になるものなどまるでなかったので，即座にお断りしたのは言うまでもなかった．しかし，研究発表や記録の報告ばかりでなく，西表島や与那国島などの採集記といった形の，たまには肩の凝らない記事もあっても良いというお勧めであった．その折は，運悪くと言おうか，毎度のことと言おうか，少々酒が入っていたし，それに今年もまた総会へは失礼してしまったすぐ後だったので，「それでは一昨年，２度にわたって行った八重山諸島のことを書きましょう」と，安請け合いをしてしまったのが運の尽きで，一夜明けての後悔も後の祭り．とっくの昔に忘れてしまった記憶を，採った蝶のラベルの日時だけを最後の頼りに呼び起こし，たどたどしく原稿を書くはめになってしまった．

転職の今が絶好のチャンス，南の島へ

私事で恐縮ではあるが，1996年は，長年勤めたＪＲを退職し，同じ列車の運転という仕事には変わりはなくとも，いわゆる第三セクターである北近畿タンゴ鉄道へ転職した年だった．

いくばくかの退職金も入り，この時とばかり，春３月と秋10月の２度，石垣島，西表島，竹富島，与那国島へと採集に行けた最良の年だった．しかしその年は，退職金は新築した家のローンの一括返済としてたちまちに消え，新入社員となって給料や年次有給休暇も大幅に減って，寂しい境遇に陥った年でもあった．年金制度は事あるごとに悪化していく中，近々には老人となり，年金だけを頼りに細々と生きていかなければならない私や妻のことを思うとき，もうとても行けそうもない南の島への断ち切れない思いと，楽しくも懐かしい思い出を次に綴った．

今度こそ無事着陸，与那国島へ

1996年10月21日，ＪＡＴ日本トランスオーシャン航空，ＹＳ865便は定刻の16時15分過ぎ，雲が厚く流れの速い，やや荒れ模様の与那国空港に無事着陸した．

その年の３月25日，ちょうど今日と同じ便だった飛行機は，濃い霧の中２度までも着陸を断念し，形ばかりの３度目の着陸体勢をとった後，そのまま石垣島に引き返した．命は助かったとはいえ，結局一番行きたかった与那国島へは行けず，以後の採集計画が大いに狂ってしまった苦い経験がある．

それにもまして，ほんの３ヶ月前の７月，ヒマラヤの高山植物，ブルーポピー（青いケシ）の花を見に旅立ち，インドの空に航空機事故で散った，３人の山仲間のことが頭をよぎって離れなかった．３人は私の生涯の山の仲間と思い，事情さえ許せば私もきっとインドに一緒に行き，あの世へも共に行っていたに違いない仲の良い仲間だったから，もしかして誘いにはこぬかと心配で，無事の着陸はとても嬉しかった．

だいたい，鉄が空を飛ぶ飛行機や，水に浮ぶ船よりも，地を走る列車の方がどれほど理にかなっていて安全か知れないのだが，南の島行きの列車はないのでどうしようもなかった．

列車よ，お前もか！　帰りのバスの大騒動

それほどまでに私が絶大なる信頼を寄せていた列車にも，春の嵐とかで見事に裏切られることになるとは，まだその時には知る由もなかった．

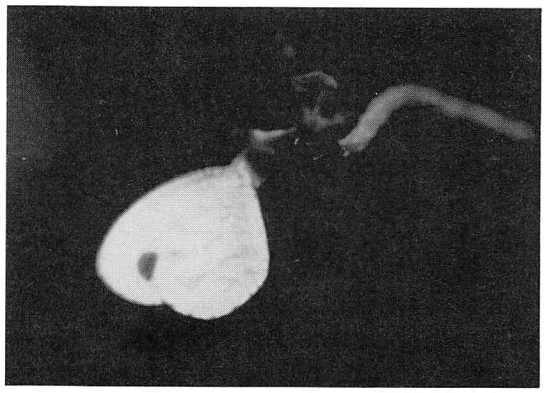
帰りの関西空港からの電車は，強風のため終日運転休止．30分に１本の大阪行きのバスには，何百人とも知れぬ人々の長蛇の列が続き大混乱で，翌朝に仕事を持つ私としては焦りに焦りまくって，順番のことであわや大喧嘩の大騒ぎをしながら，とにかく何とか大阪駅からの夜行列車に間に合うことができた．しかし，帰ったその朝は当然仕事で，大きな声では言えないが，その日の列車の運転の眠かったこと眠かったこと．そう言えば，勇んで立った与那国空港の悪天候は，前途暗たんたる運命を予感させるに十分な嫌な雰囲気ではあったが．

毎夜祝賀パーティー，前回の与那国島

与那国島へはこれが２度目で，その年より４年前の1992年６月，その時は同じＪＲの後輩であり，但馬むしの会会員でもある親友の福井丈嗣氏と一緒だった．

その時は全行程中晴天に恵まれ，夢によく見たほど採りたかったタイワンシロチョウをまずまず採り，当たり年だったのか，迷チョウのはずのヒメアサギマダラを大量に採集出来るなど上々の成果をあげて，毎夜にわたり泡盛による祝賀パーティーを催した楽しい思い

与那国空港にて



クロテンシロチョウ

出がある．

その時は，民宿さし向けの車に荷を託し，空港から宿のある祖内まで歩いて採集をして，祖内入口のテンダバナの崖下では，タイワンシロチョウやツマベニチョウの乱舞を見上げて狂喜したものだった．しかし，今日はタクシーで，まだ小雨のパラついている祖内の入口に，寂しく降りた私だった．

だが，もうここまで来れば少しも慌てないのが南の島のベテラン採集者で，先ずは宿を吟味した結果，『中たけ荘』という民宿に今日と明日の宿を予約をすませた．また，すぐその足で，近くのバイクの店でバイクの予約も忘れなかった．もちろん，チョウの採集をしているというその店の主人の，若い無口なお父さんからチョウの最近情報を聞き出しておくことも忘れなかった．もっとも，情報と言っても，「最近は雨ばかりでダメ，明日も多分雨でダメ」というだけのすげないものだったが．もっとも，あの時私があんなに落ち着いていたのは，この天気では今日はとてもチョウどころではなく，少しも慌てる必要はなしというだけのことだったが．

恐ろしくも悲しかった，前回の与那国島の宿

ただし，落ち着いて宿を特に吟味して選んだのにはそれだけの訳があった．宿は古くても安ければ良いというものでは決してない．

それは初めて与那国島にきて泊まった宿の，恐ろしくも悲しい出来事を思い出すからだった．と言って，幽霊が出た訳ではないのだが．

屋根裏から時折聞える「ケケケケケ…」という不気味で怪しい何やらの泣き声（あとで聞けばヤモリの鳴き声）に寝つかれぬまま，喉の渇きに真っ暗な炊事場に素足で踏み入れた途端，『グジョー』といった感じで，何かを踏んだ何とも言えない気持ちの悪い感覚が足に伝わってきた．「ヒエー」とばかりに慌てて点けた灯りの下で，虫を集める私ではあっても，一番怖いゴキブリの，しかも九州以南に棲むというあの大きなワモンゴキブリが，足の裏にべったりつぶれて張り付いているではないか．さらに恐ろしかったのは，気をとり直していった流し台に，隙間もないくらいにその虫が蠢いていて，水を飲む気力も失せ，部屋に逃げ帰ったものだった．

そして翌朝，もっとショックだったことは，昨日，宿に着くまでに採って展翅しておいたタイワンクロボシシジミや，こともあろうに，苦労して採ったタイワンアオバセセリまでも，どこから来たのか赤くて小さなアリに見事に胴体を跡形も残さずきれいに食べられていた辛い思い出があるからだった．

ああ無情，雨の中テンダバナへ

翌10月22日．あれほどに好天を祈り，お神酒も十分いただいて祈りつつ眠った私の耳に無情な雨の音．その日も朝から小雨で，風もかなり強い悪天候だった．

冗談ではない．休暇を無理を言ってもらい，楽でもない家計から，文句を言われつつやっと都合をつけて来たこの島で，「そうですか，では明日は是非良いお天気を」と，一日中宿で寝ていられるほど大らかな私では決してない．

仕方なく８時過ぎ，とりあえずバイク屋へと向かった．相変わらず無口で若いお父さんの主人から，「当分こんな天気が続くかも知れんけど，まあとにかくガンバッテね」といった意味の言葉と，哀れみとも励ましともとれる優しい微笑みに送られて，先ずは仕方なくテンダバナへと向かった．

テンダバナは祖内のすぐ上にそびえる100mほどの

岸壁で，岸壁が海に向かって長くの伸びている奇妙な地形である．その外見から，テンダバナとは天狗の鼻という意味ではないかと勝手に思っているが，なにしろ，与那国島に限らずチョウとは関係のない観光は二の次，三の次の私には分かるはずがない．

ただそのテンダバナの鼻の付け根辺りは，巨大な岩が庇状に大きくせり出ていて，雨宿りになると思ったことと，以前来た日のその場所は，ハイビスカスの花が咲き乱れ，幾らでも来るツマベニチョウに狂喜し，しかも，ブルーに輝く迷チョウ，マルバネルリマダラを初めて採って大感激した思い出の地でもあった．

クロテンシロチョウだけの寂しいテンダバナ

田原川にかかる橋を渡ると，すぐにテンダバナへと続く急なコンクリート道となる．小雨が降り続き，風も相変わらず強くて，とてもチョウの採集など考えられない悪天候だったが，ただ１種，クロテンシロチョウだけが林の中から地面すれすれにチョロチョロと幾らでも出てきた．４年前は，採集ガイドにも載っていないこのチョウを初めて採って大喜びをし，必死に捜し回ったチョウだけに，今度も大いに期待はしてきたが，こんなにこのチョウだけが沢山飛んでいてもどうしようもなかった．第一，このチョウは飛び方も頼りなく，見つけたら必ず採れてしまうという，採集には少しの緊張感も面白みもない．だが，このチョウのことを，悪天候の中を平気で飛んでいる変な奴だなどと決して思ってはいけない．実はこの悪天候の中，ネットを持ってうろついている奴の方がもっと変なのだ．悪天にたたられて収穫の少なかった与那国島の採集では，終始大変お世話になり，お礼は言っても，決して変などと言ってはいけない有り難いチョウであった．

庇の下は別天地，雨宿りのテンダバナ

テンダバナへの坂道を登り切ると，サトウキビ畑の広がる平坦な土地で，南からの強風と強い雨が一気に押し寄せてきて，とてもチョウなど採れるはずもない．ひとまずはテンダバナの付け根の，長くて巨大な岩の庇に雨宿りをすることとした．大きな庇の下は思っていたとおりに雨も風もなく別天地で，外の荒れ模様は嘘のようだった．しかし，「もしかしていろいろなチョウも雨宿りに来ているかも」という考えは余りにも楽観的で，当然ながら甘い夢に過ぎなかった．仕方なく，庇の下にある与那国島の伝説的な女傑サンアイイソバの碑や，民話などを刻んだ碑を読んだり瞑想に耽ったりして，人目には至極心穏やかに見えそうな私だった．

しかし庇に籠ること約２時間，我慢も限界を越え，雨が小降りになったのを見定めて，祖内の南，反対側の海岸にある比川へとバイクの音も高く飛び出した．

林内はチョウの吹き溜まりだったが

ザワザワと風の吹く広々としたサトウキビ畑を抜けると，道は林の中へと続いていた．

林の中は嘘のように静かで，いつの間にか雨も止み，リュウキュウアサギマダラとスジグロカバマダラがフワフワと幾らでも飛び回っていて，チョウの溜り場のようだった．現金なもので，今まで沈みがちだった私から鼻唄も飛び出し，「これでこそ与那国島だ！」とばかり上機嫌で，しばらくはせっせと三角紙にチョウを納めた．

しかし，こんなチョウばかりを採りにここに来たのではない．今回この島に来た真の目的は，タイワンシロチョウやツマベニチョウをもっと採り，前回に２～３頭ずつだけ採れたタイワンモンシロチョウやシロミスジをもっともっと採りたかったし，なによりも，秋には数を増すという，あのピカピカに輝くルリウラナミシジミを大量に採ることと，迷チョウのマダラチョウの類，特にあの紫に輝くツマムラサキマダラを是非手にすることであった．

同病相憐れむ，雨の中の採集者との出会い

再び南へ向かって発進，比川へ．しかし，比川へ向かう途中から，マダラチョウ科の迷チョウの記録の多いという満田原林道へ入った．

その頃から再び雨足が強くなってきた．その時，雨を避けて身を寄せた木の下の光景こそは，まさに呉越同舟と言うのだろう．同じように雨を避けて寄ってきた沢山のリュウキュウアサギマダラと一緒に木陰に身をすくめるという，実に情けないことになってしまった．だが，何時までもそんなことをしているつもりも暇もない．雨が小降りになるのも待たずに，再び比川への道へ引き返した．

引き返す途中の道の側の広場で，この島に来て初めて，チョウの採集者に会った．その人は私と同年輩くらいに見えたが，雨のために私よりもっと途方に暮れたといった感じの人だった．聞けばなるほど，この島は初めての広島県からの人で，しかも，３日も前から雨ばかり，明日には帰らなければならないという，私よりもっと気の毒な人だった．そこはこの島の先輩として，『天気さえよければ与那国島はいい所ですよ，

またいらっしゃい』と慰め，どうせお互いに雨の中，急ぐ旅でもなかったので，４年前の６月，晴天に恵まれて，あの輝かしい成果をあげた日のこの島でのことを長々と語り，お互いの健闘を祈って別れた．

天気も回復，勇んで西の久部良へ

比川まで行く元の広い道を走り，少し登り坂が続いたらそこは峠で，その向こうに白く煙った海が広がっていた．やがて，その海のすぐそばにある比川へ着いた．そこは家が何十軒あるだけの寂しい所だった．おそらく付近で一軒だけと思われる何でも屋で昼食を買い，今度は一路西へ向かった．

目指すは久部良．与那国島最西端というより，日本の最西端で，台湾から125kmしか離れていないという西崎のある所だ．因みに，西崎は「いりざき」と読み，与那国島の東の端にある東崎は「あがりざき」と読む．太陽の昇り沈みすることを言うのだろうが，よく分かって面白いと思った．

久部良港の近くの高台の岩礁の一角には，クブラバリという大地の引き裂かれたような地形がある．かつて人減らしのため，流産を目的として妊婦を飛ばせたという悲惨な話のある所だそうだが，雨も止み薄日の射し始めたその時，のんびりと観光をしていられるはずもなく，例によって先を急いだ．

お化けバッタが一杯，満田原林道

久部良岳への登り口は，満田原林道の途中にある．この林道の入口は，比川へ向かう途中に入った，雨のために泣いたあの満田原林道の反対側の入口である．天気も良くなってきて，ワクワクしながらバイクを進めた．

時間は午後１時過ぎ，薄日も射し，もう雨も風も心配はないことを見極め，どうした訳か馬も牛も見られず，人の姿もない牧場のような所で遅い昼食をとった．もちろん，比川の何でも屋で買った大漁祈願の泡盛のお神酒を戴くことも忘れなかった．

しかしその願いも空しく，タイワンクズとおぼしき藪を叩いてみてもルリウラナミシジミはおろか，他のシジミやセセリ，ジャノメチョウ科に至るまでチョウはさっぱり飛ばず，第一ツマベニチョウの姿などは一度も見かけない寂しさだった．相変わらずリュウキュウアサギマダラとスジグロカバマダラ，それに例のクロテンシロチョウばかりが飛んでいて，どうやら今回の与那国島はとてもガイドブックにあるほどの夢の島でなさそうで，次第に夢がしぼんでいく私だった．

それに，以前この島に来た時にも気になっていたのだが，前回にも増して，トノサマバッタの羽をずっと長くしたようで，もっと色が濃く，飛んだらスズメほどに見える大きいバッタが島中どこでも見られ，この林道沿いの草原にも何百とも知れないほど多く群れ飛んでいた．もしかして，あの悪名高い飛蝗ではないかと思った．いずれにしてもこんな奴があんなにいては，農作物の被害は大きいに違いないと思った．まさか今回のチョウの不作とは関係ないのだろうが，憎らしくなり，どうせ暇でもあったから，一体どんな顔をしているのか見てやろうと１匹捕まえると，やっぱり非行少年といった怖い顔をしていて，慌てて放りだしてしまった．

久部良岳への道は，林道から分かれて右に大きくカーブして伸びていて，500mほど登った所には車が入れぬようにコンクリートの杭を何本も立てたゲートがあり，そこには，「これより先，車は乗り入れ禁止」の表示があった．久部岳の山頂はすぐ先に見えていたが，どうせ何も採れそうもなく，歩いて行く気にはなれず，そこから引き返してしまった．

35年来の初恋のツマムラサキマダラとの出会い

下り始めてすぐ，例のお化けバッタが特に沢山飛んでいた牧場跡のような広場のあたりで，パアッと突然に飛び出した黒っぽいチョウを見つけた．「なぁんだ，リュウキュウムラサキか」と，それでもこの島に来てから初めてのチョウでもあり，「しめしめ」とばかりにバイクを止めて，チョウの止まるのを待った．しかしそのチョウは，いやにゆっくりとフワフワと舞っていた．その羽ばたきは明らかにマダラチョウのものだった．そして，その翅の紫の輝き．「ああ，もしかしてこれがツマムラサキマダラでは」と，高鳴る胸を抑え，慌てて出そうになる手をじっとこらえ，やっと下草に止まったそのチョウ目がけて，径50cmのネットを力いっぱい振り下ろした．ネットの中の紛れもないツマムラサキマダラのその胸を，震える指で何度も何度も抑える私だった．もしその一部始終を見ている人がいたら，私がとてもチョウ採集歴35年のベテランには見えなかったことだろう．

「嗚呼，その私の慌てふためきを笑うことなかれ」．このチョウこそは35年余り前，まだ高校生だった私が，ただその本だけを見たさに学校の図書室に通い，ため息をついては帰った横山光夫著「原色日本蝶類図鑑」850円也の，必ず開いたページの中のチョウ，ツマムラサキマダラだったのだ．

当時でもこのチョウは，迷チョウとして記されていたが，特に『雄は前翅の発光する藍紫の灯色もあざやかに，本邦に産する，オオムラサキ，コムラサキの雄の比ではなく，いかにも熱帯特有の毒々しいほどの美しさである』といったくだりは，何十回読んでもその度に私を興奮させずにはおかなかった．

「ああ，南の島にはこんなに美しいチョウが本当にいるのだろうか」．もちろん本物を採ることなど夢のまた夢，せめて本でもと思っても，当時の850円が我が家の会計でどれほどのものかよく知っていては，とても買って欲しいなど言えるはずもなかった．就職をして初めての給料でその本を買った時の喜びは，今でも忘れることはない．

今ごろになって悔やまれる久部良岳のこと

35年来の初恋のチョウとの出会いを果たして勇気百倍，しばらくは付近の草原を勇んで駆け回る私だったが，そんなには甘くないのが世間の常で，柳の下のドジョウはやっぱり１匹だけで，あの憎らしいお化けバッタが幾らでも空しく空に舞うだけだった．

この文を書いているうちに気が付き，今頃になって悔やむのは，ずいぶん間の抜けた話ではあるが，なぜあの時，久部良岳へ登らなかったのだろうかということである．いろいろなチョウが山頂に集まることは，誰でも知っている常識である．きっとツマムラサキマダラも沢山飛んでいたに違いなかったのだ．ツマムラサキマダラを１匹採った時点でも，バイクでのことだからゲートまで引き返せば良かったのだ．車は乗り入れ禁止とあったが，バイクまで禁止とは書いてなかったし，杭の間を楽に抜けて行けたはずだったのだ．２年も前のことを思い出し，「とにかくあの日は，朝から雨と風に疲れ，ツマムラサキマダラとの出会いで興奮していたもんなぁ」と，何度も自分自身に言い訳をしているおかしな私であった．

ああ，思い出の南の島

こんな調子で23日は，竹富島から西表島へ．24日は，西表島の白浜林道．25日は，仲間川林道．最終の26日は石垣島でと採集は続いた．西表島に着いたその夜の宿では，１年に１度だけ夜に一斉に咲き，朝にはしぼんでしまうという月下美人の花が，私を歓迎してくれるかのよう咲いて，その見事さに，「西表島は縁起がいいぞ」と大感激したが，その割には成績の良くなかったこと．それでも，白浜林道，仲間川林道ではツマムラサキマダラやマルバネルリマダラが少々採れ，たった１頭だけだがやっぱりピカピカのルリウラナミシジミも採れて，感激したことなど，まだ書きたいことは沢山ある．しかし，とても書き切れず，思っていたとおり，とうてい採集の案内の役に立つようなものは書けそうもないので，このへんで筆をおきたいと思う．

これは南の島に来ていつも思うことであり，是非書き加えておきたいと思うのは，南の島の人達のみんながとても明るくてとても優しく，心温まる人達ばかりだったということだ．こんなに南の島が私を引きつけるのは，美しいチョウが棲む島というだけでなく，きっと忘れかけている人間の優しさを思い出させてくれる人達の住む島だからに違いないと思っている．仲間川林道の奥で食べた，黄色い実のついたトケイソウの実，パッションフルーツのほのぼのと甘く，なにやら切なく懐かしい味と共に，私は南の島でのことを決して忘れることはない．

ああ，南の島に永遠の幸あれ．願わくばいつの日かまた，この我にあなたの地を訪れる幸せを与えたまえ．

但馬むしの会の年会費は3000円です．
会費未納の会員は速やかに
お支払いください．
また，本誌に寄稿された方は，
原稿掲載料として
1000円をお支払いください．
23号に向けて，カンパも募ります．
郵便振替は，
01120-3-16245，但馬むしの会，です．

但馬むしの会 会員募集

但馬むしの会では新入会員を募集しています．
但馬の自然環境とそこで生活している昆虫，
様々な生き物たちに興味のある方，
是非入会してください！
あなたのお友達や，お知り合いにも
入会をおすすめください！
入会の申し込みは，事務局
〒669-6801 美方郡温泉町井土932-10，
黒井和之まで．

兵庫県のハムシ(2)
(兵庫県甲虫相資料・337)

高橋　寿郎

Subfamily Clytrinae　ナガツツハムシ亜科

Genus *Clytra* Laicherting

34. *Clytra arida* Weise, 1889

ヨツボシナガツツハムシ

本種が日本で初めて記録されたのは，Baly (1873) によって*Clythra laeviuscula* Ratzebergなる学名で "Hab. Hiogo. oak" として発表したものである (Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with description of the species new to science. Trans. ent. Soc. London, 1873-Part I :80)．すなわち、神戸産で日本初記録されたハムシである．長い間上記の学名で扱われてきたが，木元 (1983) は，アムール原産でシベリア，モンゴル，中国北部，朝鮮半島，日本 (本州，四国，九州) に分布しており，ヨーロッパにはいない*Clytra aride* Weiseなる学名をあてるべきであるとした (Entom. Rev. Japan, Vol.38, No.1, p.18)．現在では，♂の交尾器の形態などからして，この学名が用いられている．

分布は上記のとおりで，ほとんどの図鑑に図説されているハムシである．

兵庫県下でも分布は広く，特に六甲山系付近で多く見ることができる．食草はカンバ，ブナ，ヤナギの類とあるが，六甲山系ではハギから比較的多く得られる．

産地：猪名川町杉生新田 [仲田，1979，1982]．芦屋市城山．芦屋川上流 [西，1989]．Hiogo [Baly, 1873; Heyden, 1879]．神戸市御影 [関, 1933]，六甲山 (1♀，3-Ⅶ-1950)，北区唐櫃 [岩田，1978]，北区逢山峡 (4♂2♀，2-Ⅶ-1992 etc.)．北区淡河町芦谷渓谷 (2♂，11-Ⅵ-1982)．青垣町粟鹿峯 [山本，1953, 1958]，豊岡市大磯 [高橋，1975]．関宮町氷ノ山 [高橋，1975]．温泉町扇ノ山 [辻，1963；辻・岸田，1972]

Genus *Coptocephale* Chevrolat

35. *Coptocephala orientalis* Baly, 1873

ヨツボシアカツツハムシ

Baly (1873) により，Hiogo (神戸) を原産地として，上記の学名で新種記載された種である．

分布は，本州，四国，九州，朝鮮半島，中国，モンゴルとなっている．

兵庫県下では原記載の神戸 (複数採集されていると思われる．記載文に♂♀の違いが記されている) のほか，和田義人博士が西宮市武庫川畔で採集した (5 exs., 7-Ⅷ-1957) 記録 (木元，1964) と，筆者が神戸市烏原貯水池畔で採集した1頭 (1-Ⅸ-1942) があるだけで，他に全く記録がない．分布状況がよくわからないが，8～9月頃が成虫の見られる時期と思われ，調査が不十分な種のように思われる．食草は，カワラヨモギが知られている．

産地：Hiogo [Baly, 1873]．西宮市武庫川 [木元, 1964]．神戸市兵庫区烏原 (1 ex., 1-Ⅸ-1942)．

Genus *Physomargdina* Medvedev

36. *Physomargdina nigrifrons* (Hope, 1842)

クロオビツツハムシ

Baly (1873) により，"Nagasaki" 産で*Clythra japonica* として記載された種である．湯浅啓温博士 (1950) は，*Cyanirius japonica*として図説．九州ではやや普通種で，7～8月頃に多いとされている．1961年，木元新作博士はタイプ標本を検した結果，*Clytra japonica* Baly, *Coptocephala kiotoensis* Pic, *Gynadrophthalma pallen* Balyはすべて，*Smargdina nigrifrons* (Hope)のシノニムであるとした．

Kimoto・Gressitt (1981) は，Medvedev (1971) が*Clythra nigrifrons* Hopeをタイプとして創設した新属*Physomargdina*に本種は含まれることを示した．したがって，現在は上記学名が使用されている (Hopeの記載した*Clythra nigrifrons* Hopeは中国産で，1842年の新種記載である)．

分布は，本州，四国，九州，対馬，五島，平戸島，慶良間諸島，石垣島，朝鮮半島，中国，台湾，インドシナで，広い地域に産する．

兵庫県下の分布については，筆者が何回か報告している (1981, 1988, 1991, 1992, 1993, 1995)．

1902年に名和靖が兵庫県 (地名不詳) で採集したという記録があり，これが県下からの初めての記録にな

るかと思う．現在わかっている記録からすれば，県南部の海岸線沿いの地域にはわりと広く分布しているようである(現在一番北の地点は，神崎郡神崎町笠形山)．恐らく県中央部あたりまで分布しているように思われる．6月下旬から8月上旬に成虫が見られるハムシのようである．

産地：神戸市須磨区多井畑（1 ex., 26-VII-1990)，西区寺谷（1 ex., 29-VII-1992)，西区前開（1 ex., 4-VIII-1993)，北区藍那（3 exs., 15-VII-1993)．兵庫県［17-VIII-1908, 名和靖，1935]．夢前町我孫子（1 ex., 1-VIII-1980)．神崎町笠形山［真野，1992]．龍野市神岡町（2 exs., 21-VII-1988)．相生市三濃山（7 exs., 20-VII-1974)．

Genus *Smaragdina* Chevrolet

37. *Smaragdina aurita nigrocyanae* (Motschulsky, 1866)
キボシルリハムシ

前胸背板は中央部が黒色，側方部が黄褐色，上翅・小楯板・頭部・体腹部は一般に黒青色～黒色．触角は黒褐色，基部数節は赤褐色，肢は黄褐色．

本種はヨーロッパ原産の*Smaragdina aurita* (Linnaeus,1766)の学名で知られていたが，滝沢春雄博士（1990）は日本産の本種はヨーロッパ産のものと♂交尾器の形状が相違するとして日本種を亜種に扱われた（Akitsu (n.s.), No.114:1-2, 1a,b.)．

Subsp. *nigrocyanae* (Motschulsky, 1866)という亜種名は，Motschulskyが日本から記載した*Gymandrophalma nigrocyanae* Motschulsky, 1866によっている．この種は従来，*Smaragdina aurita* (Linnaeus)のシノニムとされたものである．したがって，日本産亜種の分布は，北海道，本州，四国，九州となる．

兵庫県下では分布も広く，わりと多く見られる．成虫は6月に現れる．卵は糞で包まれ，幼虫は糞ケースに入って成長して越冬する．

食草はカンバ類，ヤナギ類，ハギなど．

産地：猪名川町上阿古谷［仲田，1978, 1982]．宝塚市玉瀬［水野，1993]．西宮市船坂（1 ex., 28-V-1987)．神戸市中央区二十渉（1 ex., 26-VI-1955)，兵庫区烏原（1 ex.,18-VI-1938, etc.)，北区藍那（3 exs., 21-V-1993, etc.)，北区山の街（1 ex., 26-VI-1941, etc.)，北区逢山峡（1 ex., 2-VII-1982)，北区八田町屏風（1 ex., 4-VI-1993)．三木市細川中（1 ex., 30-V-1985)．吉川町（1 ex., 6-VI-1985)．社町三草（1 ex., 17-VI-1987, etc.)．氷上郡山本［山本，1953, 1958]．加美町三谷（1 ex., 9-VI-1975)．家島町家島［上田，1981]．新宮町福原（1 ex., 10-VI-1992)．相生市三濃山（1 ex., 1-VI-1974)．関宮町氷ノ山（7 exs., 27-VII-1956, etc.)．浜坂町城山［礒野，1985]，温泉町扇ノ山［辻・岸田，1972；高橋，1975；上田，1996]．

38. *Smaragdina nippoensis* (Chûjô, 1935)
キイロナガツツハムシ

体背面・頭部は全体黄褐色，やや光沢があり，体腹面と肢の色彩は変異がある．

本種は中條道夫博士（1951）が，*Gynandrophthalma nipponensis* Chûjôとして記載した種（Trans. Shikoku Ent. Soc., 2(3), p.33, fig.1）で，そのcotypeの1つにMt. Maya-san (altitude about 600m), Hyogo-ken, Honshu, 1♂, 19-V-1949, S. Iwao leg.が含まれている．

Gressitt・Kimoto（1961）によって*Smaragdina*属の種とされた（Pac. Ins. Mon. 1A:99). Baly（1873）がKawachi産で*Gynandrophthalma chrysomeloides*とした種（Trans. ent. Soc. London:81)，およびChûjô博士（1935）が石垣島から*Cyairis fuscitarsus*として記録した種（Nat. Hist. Soc. Formosa, Trans. 25:71）も本種のことである．

分布は広く，日本以外では中国，台湾にも分布している．

兵庫県下にも広く産し，神戸市内では戦前から採集しており，個体は大変多い．

食草はエノキ，ミズキ，イヌシデ，クリ，クヌギ，コナラなどが知られており，神戸市内ではコナラから多く得られる．

産地：洲本市先山［大野，1969]．三原町成相峠［大野，1969]．猪名川町民田，上阿古谷，木間生［仲田，1978, 1982]．川西市笹部［仲田，1970, 1978, 1982]．宝塚市売布が丘［水野，1993]．神戸市六甲山（1 ex., 5-VI-1943)，摩耶山［中條，1951]，保久良山（1 ex., 1-V-1975, etc.)，中央区布引（1 ex., 17-V-1959)，中央区二十渉（1 ex., 1-V-1975, etc.)，兵庫区烏原（2 exs., 16-V-1971, etc.)，北区山の街（2 exs., 19-V-1959,etc.)，北区藍那（1 ex., 28-IV-1993, etc.)，北区丹生山（3 exs., 5-V-1956)，須磨区多井畑（10exs., 23-V-1970)，西区伊川谷（1 ex., 13-V-1988, etc.)．東条町森（1 ex., 18-V-1988)．加美町白山（2 exs., 3-V-1973)，加美町三谷（1 ex., 8-VI-1975)．龍野市神岡町（3 exs.,19-V-1988, etc.)．新宮町福原（1 ex., 10-VI-1992, etc.)，和田山町宝山（1 ex., 16-VI-1994)．豊岡市妙楽寺［高橋，1975]．日高町奈佐路（1 ex., 22-V-1986)，日高町上郷［上田，1996]．浜坂町［礒野，1980]．

39. *Smaragdina semiaurantiaca* (Fairmaire, 1888)
ムナキルリハムシ

体は黒色で青藍色を帯びた光沢があり，前胸背板・触角・口器・肢は赤褐色の美しい種である．

本種ははじめヨーロッパからシベリアにまたがって分布する*Gynandrophthalma cyanea* (Fabricius, 1916)と考えられていたが，A. Fleischer (1916) が日本のものはそれと別種であるとして播磨産の標本で*Gynandrophthalma japonica* Fleischerとして新種記載した (Wien. Ent. Ztg., 35, p.223)．

その後，Achard (1921) は上記 *japonica*に対して，*Gynandrophthalma garretai* Achardを与えた (Bull. Soc. Ent. France, p.61)．

木元新作博士の1964年の論文では，*G garretai* (Achard)となっている．さらに同博士は，1966年の論文で*Smaragdina semiaurantiaca* (Fairmaire, 1888) (Pekin原産) に扱うべきであるとし，現在もこの学名が用いられている．食草はヤナギ・カンバ類が知られている．

分布は，日本以外に朝鮮半島，中国となっている．兵庫県下の分布はわりと広く，場所によっては多数の個体に遭遇する．神戸市道場や多可郡鳥羽で，道端のヤナギに非常に多くいるのを見たことがある．

産地：洲本市先山 [大野，1963]．川西市笹部 [仲田，1978, 1982]．宝塚市上佐曽利 [水野，1993]．神戸市北区道場 (8 exs., 5-V-1958)．Harima [Fleischer, 1916]．加美町三谷 (5 exs., 24-V-1975)，加美町鳥羽 (30exs., 8-V-1976)．大河内町川上 (1 ex., 7-V-1977)．佐用町大撫山 (2 exs., 2-V-1978)．波賀町原 (1 ex.,11-V-1979)，波賀町音水 (7 exs., 13-V-1973)．氷上郡神楽村 (青垣町) [山本，1953, 1958]．和田山町牧田岡 [上田，1996]．日高町三川山 [高橋，1976]．竹野町坊岡，日高町赤崎 [上田，1996]．関宮町氷ノ山 (1 ex., 5-V-1958)．浜坂町清富 [礒野，1985]．

Subfamily Cryptocephalinae　ツツハムシ亜科

Genus *Adiscus* Gistl

40. *Adiscus lewisiii* (Baly, 1873)　タマツツハムシ

長崎を原産地として，Baly (1873) が*Dioryctus*属で記載した種である (Trans. Ent. Soc. London, p.87)．Roubal (1929) がKobe産で*Dioryctus ogloblini*として記載した種 (Bull. Soc. Ent. Italiana, 61(5-6), p.97) は，本種のシノニムである．さらに，Pic (1922) が日本産で*Dioryctus testaceipes*として記載した種 (Mel. Exot. Ent., 35, p.14) も，本種のシノニムである．

成虫は，クリ，クヌギ，コナラなどの葉を線状にかじる．卵は糞で包まれ，幼虫は糞ケースに入って成長し，越冬することが知られている．

♂は頭・前胸背板が黄赤色，♀は黒い．

兵庫県下には広く分布し，個体数も多い．

産地：洲本市先山 [久松，1974]．猪名川町内馬場 [仲田，1978, 1982]，猪名川町能勢妙見山 (2♀, 30-VII-1982)．川西市笹部 [仲田，1978, 1982]．Kobe [Roubal, 1929]，神戸市鈴蘭台大山公園 (3♂3♀, 23-VII-1982, Hachitani leg)，須磨区須磨 (1♂, 9-VII-1982, Hachitani leg)，須磨区多井畑 (1 ex., 19-VI-1990, etc.)，兵庫区烏原 [Chûjô, 1957] (4♂4♀, 6-VII-1941, etc.)，西区木津 (1♀, 27-VIII-1984)，西区伊川谷 (1 ex., 6-VII-1988, etc.)，北区逢山峡 (1♀, 1-VII-1986, etc.)，北区八田町屏風 (1 ex., 22-VII-1993)，北区藍那 (3 exs., 28-VI-1993)．三木市細川中 (1♀, 11-VII-1985, etc.)，三木市口吉川町 (2♂4♀, 14-VII-1986, etc.)，三木市口吉川町笹原 (1♀, 26-IX-1986)．小野市山田町 (4♂5♀, 8-VII-1987, etc.)．東条町森 (5♂1♀, 4-VII-1984)，社町三草 (1♂, 12-V-1987, etc.)．波賀町音水 (1♂, 20-VII-1959)．山南町 (1 ex., 5-VII-1990, etc.)．関宮町氷ノ山 (2♂3♀, 27-VII-1957)，大屋町杉ヶ沢 [礒野，1985]．温泉町扇ノ山 [辻・岸田，1972；高橋，1975]，浜坂町味原，観音山 [礒野，1985]．

Genus *Coenobius* Suffrian

41. *Coenobius piceipes* Gressitt, 1942
クロアシヒメツツハムシ

中国南部産で記載された種である (Lingnan Sci. J., 20(2-4), p.336, fig.4)．

一般に黒褐色．触角は黒褐色，基部数節は赤褐色，肢は赤褐色，前胸背板には顕著な横溝を欠き，基部に平行な点刻列を除き顕著な点刻を欠く．体長は，クロヒメツツハムシとほぼ同じ．食草などは不明．

分布は日本 (本州，四国，九州，沖ノ島，対馬) と中国南部．

兵庫県からは1例のみしか記録が見られない．

産地：浜坂町味原 [礒野，1985]

42. *Coenobius piceus* Baly, 1874 クロヒメツツハムシ

全体黒色．触角は黒褐色，基部4・5節は赤褐色，肢は大部分が黒褐色，前胸背板には全面に顕著な点刻を装い，その表面には顕著な横溝を欠く．体長1.6-1.9 mmの小型種．食草などはよくわかっていない．分布は広い．

兵庫県下には全般に分布しているようだが，特に神

戸市内ではわりと多く見られる.
産地：神戸市兵庫区烏原（1 ex., 31-VII-1966, etc.), 北区山田町谷上（2 exs., 4-VI-1986), 西区伊川谷（3 exs., 21-IX-1988, etc.), 須磨区多井畑（1 ex., 26-VII-1990, etc.), 北区藍那（2 exs., 12-X-1993). 三木市細川中（1 ex., 11-VII-1985), 三木市口吉川町（2 exs., 4-IX-1986). 吉川町（1 ex., 13-IX-1985). 小野市山田町（1 ex., 2-VII-1987). 東条町森（1 ex., 21-VII-1988, etc.). 龍野市神岡町（1 ex., 21-VIII-1988, etc.). 柏原町［山本, 1953, 1958].

Genus *Cryptocephalus* Geoffroy

43. *Cryptocephalus aeneoblitus* Takizawa, 1975
ルリツツハムシ

滝沢春雄博士（1975）は，ルリツツハムシのグループを検討し，バラルリツツハムシの中に新しい種が混じっていることを見出し，命名したのが本種である（Kontyu, Tokyo 43(3), p.429). ♂の交尾器の形状は，明らかにバラルリツツハムシと異なる．お互いによく似ていて，外観上の区別は困難であるが，尾節板の形状が異なるので慣れれば見分けられる.

生態などは，よくわかっていない．筆者の所有標本を1頭ずつ調べてみて，県下にも広く分布していることがわかった．記載に用いられた標本の中に六甲山産がある旨記録されている.
産地：神戸市六甲山［Takizawa, 1975], 兵庫区烏原（1 ex., 2-VII-1972), 北区山の街（3 exs., 10-V-1959, etc.), 北区丹生山（6 exs., 5-V-1956), 北区谷上（1 ex., 7-V-1961), 北区藍那（1 ex., 28-V-1961), 北区箕谷（1 ex., 9-V-1948), 北区有馬（1 ex.,14-V-1967). 柏原町（1 ex., 10-V-1953). 神崎町笠形山（4 exs., 12-V-1966, etc.). 相生市三濃山（1 ex., 3-V-1969). 波賀町音水（1 ex., 23-VII-1959), 波賀町坂ノ谷（1 ex., 28-VI-1973). 関宮町氷ノ山（1 ex., 27-VII-1957).

44. *Cryptocephalus amiculus* Baly, 1873
キアシツブツツハムシ

Baly（1873）により，Lewisのコレクションの中にある，長崎産1頭の標本で新種記載された種である．同時に東シベリアのAngara産の2頭の標本も所有しているとある（Trans. Ent. Soc. London, p.98). 体背面の色彩・斑紋には変異が多い（木元, 1984).

食草はマルバハギ，コナラなどとある.

分布は，日本（本州，四国，九州）である.

兵庫県下の記録は，意外と少ない.
産地：神戸市北区逢山峡（1 ex., 27-VI-1987, etc.), 北区八田町屏風（1 ex., 4-VI-1993, etc.), 北区藍那（2 exs., 21-VI-1993). 新宮町福原（1 ex., 22-VI-1992). 温泉町扇ノ山［高橋, 1975].

45. *Cryptocephalus approximatus* Baly, 1873
バラルリツツハムシ

本種はBaly（1873）により，長崎を原産地に記載された種である（Trans. Ent. Soc. London, p.93).

体背面は一般に黒青色．紫青色，緑青色で，兵庫県下ではごく普通に見られる種である.

分布は，本州，冠島，四国，九州.

食草は，バラ，コナラ，ハギ，フジなど.
産地：津名郡開鏡（1 ex., 24-V-1942), 愛宕山［大野, 1969]. 洲本市先山［大野, 1969；堀田, 1978], 洲本市安乎町［堀田, 1959]. 三原町成相峠［大野, 1969]. 猪名川町上阿古谷，木間生［仲田, 1978, 1982]. 川西市山原，笹原［仲田, 1978, 1982]. 宝塚市北佐曽利（3 exs., 13-V-1983), 宝塚市武庫川畔（1 ex., 24-IV-1992), 宝塚市長谷，鳥ヶ脇，武庫川畔［水野, 1993]. 西宮市船坂（3 exs., 28-V-1987). 神戸市御影［関, 1933], 六甲山（1 ex., 23-V-1987, etc.), 兵庫区烏原（1 ex., 18-VI-1939, etc.), 垂水区垂水（11exs., 10-V-1985), 須磨区多井畑（6 exs., 23-V-1990), 北区小部（1 ex., 10-V-1942), 北区山の街（1 ex., 2-V-1954, etc.), 北区箕谷（1 ex., 6-V-1948, etc.), 北区山田町丹生山（1 ex., 5-V-1956,etc.), 北区山田町谷上（2 exs., 25-V-1958), 北区五社（1 ex., 28-VI-1959), 北区淡河町芦谷渓谷（1 ex., 11-VI-1982), 北区八田町屏風（7 exs., 6-V-1993, etc.), 北区藍那（7 exs., 28-IV-1993, etc.), 北区逢山峡（1 ex., 27-VI-1937), 西区木津（9 exs., 11-V-1984, etc.), 西区伊川谷（9 exs., 13-V-1958). 三木市口吉川町（2 exs., 30-V-1985, etc.). 吉川町（1 ex., 16-V-1986), 吉川町奥山（5 exs., 8-V-1986, etc.). 東条町（1 ex.,11-V-1984, etc.), 社町三草（4 exs., 1-VI-1989, etc.), 加美町三谷（1 ex., 6-VI-1975, etc.), 加美町鳥羽（2 exs., 1-VI-1975). 神崎町笠形山（1 ex., 12-VI-1975), 大河内町川上（1 ex., 21-V-1977, etc.). 小野市山田町（1 ex., 16-V-1987), 小野市来住町（1 ex., 26-VI-1991). 龍野市神岡町（1 ex., 26-V-1968). 新宮町福原（1 ex.,15-V-1992, etc.). 相生市三濃山（1 ex., 3-V-1969, etc.). 波賀町水谷（3 exs., 17-VII-1981), 波賀町音水［Kimoto et Hiura, 1964]（2 exs., 11-VI-1972, etc.), 波賀町坂ノ谷（1 ex., 10-V-1953), 一宮町福知渓谷（3 exs., 20-VI-1976). 篠山町雨石山［林ほか, 1995]. 氷上郡［山本, 1953, 1958], 柏原町（2 exs.,

10-V-1953). 和田山町牧田岡, 和田山町玉置 [上田, 1996]. 出石町寺坂 [高橋, 1963]. 豊岡市大岡山, 愛宕山 [高橋, 1975]. 日高町奈佐路 (5 exs., 22-V-1986, etc.), 日高町上郷, 竹野町坊岡 [上田, 1996]. 関宮町氷ノ山 (1 ex.,25-VII-1955, etc.) [高橋, 1975; 秋山・日暮, 1995; 上田, 1996]. 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 高橋, 1975; 上田, 1996], 浜坂町味原, 護国神社, 宇都野神社, 城山, 観音山, 清富 [礒野, 1985], 村岡町鉢北高原 [上田, 1996].

46. *Cryptocephalus confusus* Suffrian, 1854

チビルリツツハムシ

従来, Baly (1873) により変種Bは対馬産, タイプと変種AはChusan産で, どちらもAdamsの採集品で記載された*Cryptocephalus diseretus*として扱われた種である (Trans. Ent. Soc. London, p.97).

1983年, 木元新作博士はSuffrian (1854) がDauria産で記載した*Cryptocephalus confusus*のシノニムになるとして, この学名が現在使用されている. 体は一般に黒青色, 個体により前胸背板の前縁は黄褐色, 腹部は一般に黒色, 肢は一般に赤褐色, 後肢腿節は黒色, 前胸背板の点刻は, 強く密に装う. 上翅の点刻は, 規則的な列状をなす.

県下には広く産する種である. 生活史その他について, 詳しい報告は見当たらなかった. 食草はコナラとなっている.

産地: 洲本市鮎屋 [大野, 1969]. 猪名川町民田 [仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 神戸市六甲山 (1 ex., 5-VII-1956), Mt. Maya [Kimoto,1964], 中央区二十渉 (1 ex., 26-VI-1955), 北区山の街 (1 ex., 30-V-1954, etc.), 北区金剛童子山 (2 exs., 24-V-1956), 北区丹生山 (1 ex., 5-V-1956), 北区藍那 (1 ex., 9-VI-1978, etc.), 北区逢山峡 (1 ex., 2-VII-1982), 北区谷上 (1 ex., 1-VI-1986), 兵庫区烏原 (1 ex., 26-VI-1983). 龍野市神岡町 (2 exs., 4-VI-1988, etc.). 篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 生野町 (5 exs., 8-VII-1956). 関宮町氷ノ山 (4 exs., 27-VII-1956, etc.). 浜坂町城山 [礒野, 1985. *C. discretus*].

47. *Cryptocephalus exiguns* Schneider, 1792

モモグロチビツツハムシ

1966年, 木元新作博士により, 北海道・栃木・山梨・長野・鳥取・大阪・青森産で *Cryptocephalus kiyosatonus* Kimotoとして記載された (J. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13·1:153) が, 1986年に同博士がヨーロッパから東アジアに分布する*Cryptocephalus exiguns* Schneiderのシノニムにした種である (Entom. Rev. Japan 41·2:125).

本種は*C. amiculus*ときわめてよく似ており, ♂交尾器は明らかに異なるが, ♀においては形態上で明確に区別するのは大変難しい. ただ, 後腿節はほとんどの場合, 黒色味を帯びていることがあげられている.

兵庫県下のでは, 氷ノ山から記録されているだけで, 調査の必要のある種といえる.

産地: 関宮町福定～氷ノ山 [木元・日浦, 1971].

48. *Cryptocephalus fortunatus* Baly, 1873

キアシルリツツハムシ

Baly (1873) によって, A. Adamsが持ってきた"Hiogo, Japan, also China" 産の標本に基づいて, 命名記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, p.94).

背面は金緑色で光沢が強く, 触角・肢・頭が黄褐色の美しい種である. 個体数はそれほど多くはないが, 広く分布しているようである. バラ, イタドリなどを食べる. 卵を糞で包む. 幼虫は, 糞ケースに入って成長する. 2月下旬に蛹化し, 4月初旬に羽化した記録がある (竹中, 1975).

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 宝塚市売布ヶ丘 [水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1873]. 神戸市六甲山 (1 ex., 15-VII-1956 etc.), 兵庫区烏原 (3 exs., 2-VI-1957), 北区山の街 (1 ex., 13-VI-1954, etc.), 北区丹生山 (1 ex., 18-V-1958), 北区箕谷 (2 exs., 23-V-1938, etc), 北区逢山峡 (1 ex., 7-VII-1987), 須磨区多井畑 (1 ex., 19-VI-1990). 三木市大村 (1 ex., 10-V-1987). 社町三草 (1 ex., 20-VI-1987), 東条町森 (1 ex., 22-VI-1984, etc.). 青垣町稲土 [高橋, 1960]. 波賀町音水 (1 ex., 20-VII-1959, etc.), 波賀町赤西 (1 ex., 31-VII-1987, M. Nishida leg.). 関宮町氷ノ山 (1 ex., 21-VII-1958) [高橋, 1975]. 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 礒野, 1985; 上田, 1996], 浜坂町観音山 [礒野, 1985], 村岡町鉢北高原 [上田, 1996].

49. *Cryptocephalus fulvus* Goeze, 1777

ウスグロスジツツハムシ

Goeze (1777) が, ヨーロッパから記載した種である (Ent. Beytr. 1:321). Gressitt・Kimoto (1961) は, 分布をヨーロッパ, シベリア, 中国北部とした論文 (Pac. Ins. Mon. 1A:128, 129, 151) の中で, 中條 (1940) が朝鮮半島から記載 (Nat. Hist. Soc. Formosa, Trans. 30:385, fig.5) した*C. fuscolimeatus*を本種のシノニムとしている. 中條博士は, この*fulvus*を新潟県 (Kinoto-Seashore) より日本初記録種として発表した

(Rep. Nagaoka Municipal Sci. Mus. Niigata Pref. 5). これによって，本種が日本の本州に分布していることになった．

その後，木元（1964）は，和田義人博士が西宮市武庫川畔で採集した7 exs. (11-Ⅷ-1951) を記録した (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., 13・1:155).

兵庫県下での分布記録は，大変少ない．もっと調査する必要がある．

産地：揖保川流域［リバーフロント，1994］．西宮市武庫川［Kimoto, 1964］．三木市口吉川町（1 ex., 14-Ⅶ-1986).

50. *Cryptocephalus japanus* Baly, 1873

ヤツボシツツハムシ

Baly (1873) により，横浜産と産地のはっきりしない標本，他にMoorから入手した標本，Chusan (A. Adams より）の標本によって新種記載された（Trans. .Ent. Soc. London, p.92. Chusan産は変種としている).

黄褐色に黒紋がある顕著な種である．成虫は4月頃から出現するが，県下では個体数がそれほど多くないようである．

クリ，クヌギ，カシワ，コナラ，イタドリの葉を食べて，糞で卵を包んで地上に産み落とす．野外の幼虫は，糞ケースに入り，主にイタドリの枯れ葉などを食べて成長している．

産地：宝塚市武田尾［木元・日浦，1971］，宝塚市境野［森，1991；水野，1993］．神戸市御影［関，1993］，六甲山（1 ex., 10-Ⅶ-1938)，北区有馬（1 ex., 4-V-1967)．柏原町，神楽村（青垣町）［山本，1953, 1958］．関宮町氷ノ山（1 ex., 24-Ⅶ-1955)．村岡町鉢北高原［上田，1996］．

51. *Cryptocephalus limbatipennis* Jacoby, 1885

キスジツツハムシ

Jacoby (1885) が，"Schimonosuwa (Suwa Lake)" 産1頭で記載した種である (Proc. Zool. Soc. London, p. 199). 東 (1940) が，*C. bilineatus* Linnaeus var. *moriwaki* として岩湧山産で記載した変種 (Konchu Kenkyu 3・2: 29, f.1) は，本種のことである．

兵庫県産の本種については，筆者（1982）が詳しく報告している．県下では比較的少ない種のようである．

産地：猪名川町杉生新田［仲田，1979, 1982］．波賀町音水（1 ex., 21-V-1972)．柏原町［山本，1953, 1958；Kimoto, 1964］，関宮町氷ノ山（1 ex., 25-Ⅶ-1950)．浜坂町［高橋，1975］．

52. *Cryptocephalus nigrafasciatus* Jacoby, 1885

タテスジキツツハムシ

"Nowata, Matsuida, Fukin, road to Oyama, Wada toge" のそれぞれを原産地として新種記載された種である (Proc. Zool. Soc. London, p.200).

兵庫県下での記録は少ない．調査が不十分だと思われる．

食草は，ハシバミ，ヤマハギ，ヤナギの類が知られている．

産地：猪名川町杉生新田［仲田，1979, 1982］．神戸市六甲山（4 exs., 10-Ⅶ-1955)，北区逢山峡（1 ex., 1-Ⅶ-1986, etc.)．新宮町福原（2 exs., 7-Ⅶ-1992)．柏原町［山本，1953, 1958］．日高町金山［高橋，1975］．関宮町氷ノ山（1 ex., 2-Ⅷ-1955, etc.）［木元・日浦，1971］．浜坂町味原，清富［礒野，1985］，村岡町鉢北高原［上田，1996］．

53. *Cryptocephalus nobilis* Kraatz, 1879

ヨツモンクロツツハムシ

Kraatz (1879) によってシベリアから記載された種である (Dtsch. Ent. Ztschr, 23・2:192).

日本からはJacoby (1885) が，G. Lewisが "Kiga, Suyama and Subashiri" から得たものを図示したのが初記録になる (Proc. Zool. Soc. London, p.203). 大変はっきりした斑紋を有しているので（黒色で触角基部は黄褐色，上翅の4紋は黄色），きわめて区別しやすい．食草としては，コナラやウワミズザクラなどが知られている．ハンノキの葉を食べても成長するといわれている．卵は糞ケースに入って成長し，幼虫で越冬し，翌春に羽化する．兵庫県下の記録は意外と少ない．

産地：猪名川町杉生新田［仲田，1979, 1982］．神戸市北区谷上（1 ex., 3-V-1957)，北区有馬（1 ex., 14-V-1967)，北区八田町屏風（2 exs., 12-V-1993)，西区太山寺（1 ex., 6-V-1957)．篠山町雨石山［林ほか，1995］．日高町三川山［高橋，1976］．

54. *Cryptocephalus parvulus* Müller, 1776

セスジツツハムシ

Motschulsky (1866) により，日本から*Cryptocephalus obliquostriatus* Motschulskyと記載された種である (Bull. Soc. Imp. Natur Moscou, 39・1:176). Baly (1873) が，長崎から記載した*C. permodestus*，同時に記載した*C. amatus*（日本産，Trans. ent. Soc. London, p.95)，*C. inurbanns*の名を与えたHaroldの報文（1874, Coleop.

Heft. 12:152) の種はすべて，本種のシノニムになる．また，*C. consalanus* Baly, 1874 (Trans. ent. Soc. London, p.217)，Jacoby (1885) が記録した*C. fuleratus* (Proc. Zool. Soc. London, p.203)，Clavareau (1913) の*C. parvulus*も共に本種と同一種である．

ハンノキ，シデ，ポプラ，ハギなどを食べ，飼育ではイタドリ，ハギの枯れ葉を食べて生活したとある．幼虫は，糞ケースに入って生活する．

産地：三原町成相峠[大野, 1969]．猪名川町槻並（1 ex., 4-V-1979)．川西市芋生［仲田，1982]．宝塚市武庫川町（3 exs., 24-IV-1983）[水野，1993]．神戸市保久良山（1 ex., 1-V-1975)，兵庫区烏原（1 ex., 16-V-1971, etc.)，垂水区垂水（11exs., 10-V-1985)，北区山の街（1 ex., 30-V-1954)，北区金剛童子山（1 ex., 24-VI-1956)，北区八田町屏風（1 ex., 6-V-1993, etc.)，北区藍那（1 ex., 18-V-1984, etc.)．社町三草（12exs., 15-V-1987)．小野市来住町（1 ex., 9-V-1991, etc.)．加美町白山（3exs., 27-V-1973)．大河内町川上（1 ex., 4-VI-1977)．龍野市神岡町（11exs., 26-V-1988, etc.)．波賀町坂ノ谷（1 ex., 22-VII-1979)．

55. *Cryptocephalus pereleganss* Baly, 1873

キボシツツハムシ

長崎産でBaly (1873) によって記載された (Trans. ent. Soc. London, p.88)．中條（1935）は，奄美大島，石垣島，西表島のものをvar. *insulamus*と記載 (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 25, p.721)，その後，亜種に扱った（1954)．与那国島にも亜種subsp. *yonaguninensis* Kimoto (Kontyu, Tokyo 42·3:281, 1974) を産する．南西諸島に分布している本種は，斑紋の変化が多く，木元新作博士は図入りで詳しく報告している（1974, 1979)．

食草として，クスノキ，ナラ類，カエデ，モクタチバナ，イタドリが知られている．竹中英雄（1975）は，イタドリ，クリの枯れ葉，新葉をとわず食べて成長したと述べている．

県下での分布記録は，神戸市と家島が知られている．神戸市内ではごく普通に見られるので，恐らく県下に広く分布していると考えられる．

本種については，筆者（1982, 1987）が詳しく報告したことがある．

産地：家島町家島［上田，1981]．神戸市六甲山［柴内・中畔，1950]，兵庫区烏原（1 ex., 3-VIII-1966, etc.)．

56. *Cryptocephalus scitulus* Baly, 1873

カシワツツハムシ

"Hiogo (on oak)" 産で，Baly（1873）が記載した種である（Trans. ent. Soc. London, p.98)．かなりはっきりした色彩をしており，同定に困ることはない．食草は，コナラ，カシワが知られている．日本特産種のようである．

兵庫県下には広く分布している．

本種については，筆者（1982）がかつて報告したことがある．

産地：南淡町諭鶴羽山［久松，1974]．川西市大和［仲田，1978, 1982]．Hiogo [Baly, 1873]．神戸市六甲山（1 ex., 10-VII-1955)，中央区布引（1 ex., 17-V-1959)，兵庫区烏原（1 ex., 27-VII-1974, etc.)，北区鈴蘭台大山公園（1 ex., 16-VII-1974, etc.)，北区逢山峡（1 ex., 28-VII-1987)，北区八田町屏風（1 ex., 22-VII-1993)，西区伊川谷（2 exs., 6-VII-1978)．三木市口吉川町（1 ex., 14-VII-1986)．小野市来住町（1 ex., 26-VI-1991)．龍野市神岡町（1 ex., 21-VII-1988)．柏原町，神楽村（青垣町）[山本，1953, 1958]．但馬（データ不詳）[高橋，1975]．波賀町水谷（6 exs., 17-VII-1981)，波賀町音水（1 ex.,15-VII-1973)．関宮町氷ノ山（1 ex., 24-VII-1956)，大屋町杉ヶ沢［礒野，1985]．浜坂町味原，宇都野神社，城山，観音山［礒野，1985]，温泉町扇ノ山［辻，1963；辻・岸田，1972；礒野，1985；上田，1996]．

57. *Cryptocephalus signaticeps* Baly, 1873

クロボシツツハムシ

本種は "Nagasaki, China" 産でBaly（1873）によって記載された種である（Trans. ent. Soc. London, p.91)．よく目につく普通種で，県下にも広く分布する．

食草として，クヌギ，クリ，ハンノキなどが知られている．

産地：津名郡開鏡（5 exs., 24-V-1942)，愛宕山［大野，1969]，津名町大町［堀田，1978]．南淡町諭鶴羽山［大野，1969；堀田，1978]，南淡町大日ダム［堀田，1978]，三原町成相峠［大野，1969]．洲本市先山［大野，1969；堀田，1978]，洲本市鮎屋［大野，1969]．猪名川町木間生［仲田，1978, 1982]．川西市笹部，横地［仲田，1978, 1982]．宝塚市宝山寺［木元・日浦，1971]，宝塚市武庫川畔（1 ex., 24-IV-1983)，宝塚市玉瀬，鳥ヶ脇［水野，1993]．西宮市香櫨園（3 exs., 1-V-1941)．神戸市摩耶山［後藤，1955]，神戸市保久良山（2 exs., 1-V-1975)，兵庫区烏原（2 exs., 18-VI-1939, etc.)，須磨区多井畑（1 ex., 23-V-1990)，北区山の街（2 exs., 29-IV-1957, etc.)，北区箕谷（3 exs., 18-V-1948, etc.)，北区丹生山（4 exs., 5-V-1956)，北区谷上（2 exs., 3-V-1959)，北区小

部（5 exs., 10-V-1942），北区藍那（2 exs., 28-IV-1993, etc.），西区木津（7 exs., 11-V-1984），西区伊川谷（2 exs., 19-V-1988）．吉川町（2 exs., 16-V-1996），吉川町奥山（5 exs., 8-V-1986, etc.）．小野市来住町（2 exs., 9-V-1991, etc.）．東条町（6 exs., 11-V-1984），社町三草（1 ex., 7-V-1987, etc.）．加美町白山（1 ex., 3-V-1973），加美町三谷（1 ex., 24-V-1975），加美町鳥羽（1 ex., 12-VI-1975）．神崎町笠形山（1 ex., 12-VI-1975），大河内町川上（3 exs., 7-V-1977, etc.）．家島町家島［上田，1981］．龍野町神岡町（3 exs., 26-V-1988）．新宮町福原（4 exs., 15-V-1992）．相生市三濃山（2 exs., 3-V-1969, etc.）．波賀町水谷（1 ex., 17-VII-1981），波賀町音水（1 ex., 20-VI-1959, etc.）［木元・日浦，1964］，波賀町坂ノ谷（2 exs., 5-VI-1973），一宮町福知渓谷（2 exs., 20-VII-1976）．篠山町雨石山［林ほか，1995］．氷上郡［山本，1953，1958］．和田山町牧田岡［上田，1996］．出石町寺坂［高橋，1965］．日高町奈佐路（1 ex., 22-V-1986），日高町神鍋山，上郷，三川山［上田，1996］．関宮町氷ノ山［高橋，1959，1975；上田，1996］．浜坂町味原，宇都野神社，城山［礒野，1985］，温泉町扇ノ山［辻，1963；辻・岸田，1972；高橋，1971；上田，1996］，村岡町鉢北高原［上田，1996］

58. *Cryptocephalus tetradecaspilotus* Baly, 1873

ジュウシホシツツハムシ

本種はBaly（1873）により，"Nagasaki" 産で記載された種である（Trans. ent. Soc. London, p.89）．かなりはっきりした斑紋を有するので，同定は困難でない．

県下の本種については，筆者（1982，1987）も解説している．

食草は，マルバハギが知られている．

県下の分布は広いようであるが，一度に多くの採集は難しいようである．ただ，川西市内では多産する報告がある（仲田，1979）．

産地：洲本市安乎町［堀田，1959］．川西市一の鳥居寒天干場［木元・日浦，1971］，川西市東睦野寒天干場［仲田，1979］．宝塚市西谷境野［小田中，1994］．Kobe［木元，1964］，神戸市兵庫区烏原（1 ex., 25-VII-1958），北区大池（1 ex., 3-VIII-1940）．三木市口吉川町（1 ex., 14-VII-1986）．吉川町（1 ex., 13-IX-1985）．小野市来住町（3 exs., 4-IX-1991）．東条町（1 ex., 20-VII-1984）．大河内町川上（1 ex., 23-VI-1977）．揖保川流域［リバーフロント，1994］．生野町段ヶ峰［木元・日浦，1964］．柏原町［山本，1953，1958］．出石町床尾山［高橋，1963］．関宮町氷ノ山（2 exs., 25-VII-1955, etc.），関宮町鉢伏山［高橋，1975］，大屋町杉ヶ沢［礒野，1985］．

Genus *Pachybrachys* Redtnbacner　ハギツツハムシ属

59. *Pachybrachys eruditus* (Baly, 1873)

ハギツツハムシ

Baly（1873）により，"Nagasaki" を原産地として記載された（Trans. ent. Soc. London, p.98）．

上翅は黄褐色，黒条がある．体腹面は黒色，肢は黄褐色，触角は細い．体背面の色彩・斑紋に変異がある．全体ほぼ黒色の個体や，黄褐色のものがある．食草はハギ・ヤナギの類．

兵庫県下では広く分布しているように思われる．特に神戸市内では，ハギで多く見られる．

産地：川西市妙見山［仲田，1972，1978，1982］．神戸市六甲山（1 ex., 10-VII-1955, etc.），北区逢山峡（1 ex., 2-VII-1955, etc.），北区鈴蘭台大山公園（1 ex., 23-VII-1982），須磨区須磨（2 exs., 9-VIII-1982），西区伊川谷町前開（8 exs., 6-VII-1988）．氷上郡神楽村（青垣町）［山本，1953，1958］．生野町段ヶ峰［木元・日浦，1964］．関宮町大久保～鉢伏高原［木元・日浦，1971］，関宮町鉢伏山［高橋，1975］．温泉町扇ノ山［辻・岸田，1972］，村岡町相岡，鉢北高原［上田，1996］．

Subfamily Chlamisinae　コブハムシ亜科

Genus *Chlamisus* Rafinesque

60. *Chlamisus interjectus* (Baly, 1873)

ミズキコブハムシ

Baly (1873) により，"Nagasaki" 産で記載された (Trans. ent. Soc. London, p.84)．

ミズキを食草として日本全国に分布している．兵庫県下の記録はほとんどなく，調査不十分と考えられる．

産地：浜坂町城山［礒野，1985］．

61. *Chlamisus japonicus* (Jacoby, 1885)

ハバビロコブハムシ

Jacoby（1885）により，"Kiga, Fukushima" 産で記載された（Proc. Zool. Soc. London, p.198, pl.11, fig.5）．

分布は日本全土（ただし，四国の分布は知られていない）．体型はやや幅広い．食草はカシ．兵庫県下の記録は少ない．調査不十分のようである．

産地：関宮町氷ノ山［高橋，1975］．浜坂町宇都野神社［礒野，1985］．

62. *Chlamisus laticollis* (Chûjô, 1942)

ツツジコブハムシ

中條（1942）により，"Mt. Hiko in Fukuoka Pref., Tsushima" 産で記載された（Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 32:82, fig.1）.

一般に黄褐色．体背面は，多少とも淡色の斑紋を有する．

分布は本州，九州，対馬．食草は，ツツジが知られている．

県下の記録は大変少なく，調査の必要がある．

産地：神戸市西区太山寺（1 ex., 6-V-1957）．篠山町篠山［岩田，1978］.

63. *Chlamisus lewisi* (Baly, 1873)

ツバキコブハムシ

Baly (1873) により，"Nagasaki" 産で記載された (Trans. ent. Soc. London, p.83).

前胸背板，上翅は少なくとも部分的に赤褐色～黄褐色．体型は縦長，前胸背板にはその前方部に三角形に位置する３個のすす色の斑紋を装う．

食草はツバキ．分布は本州，四国，九州，対馬，五島，平戸島，台湾．

兵庫県下では本種の記録も少ない．調査不十分の種と考えられる．

産地：猪名川町木間生［仲田，1978，1982］．篠山町雨石山［林ほか，1995］．浜坂町観音山［高橋，1975］，浜坂町宇都野神社，観音山［礒野，1985］.

64. *Chlamisus spilotus* (Baly, 1873)　ムシクソハムシ

Baly (1873) により，"Japan" 産で記載された (Trans. ent. Soc. London, p.85).

一般に黄褐色～赤褐色．体背面は多少とも淡色の斑紋を有する．

分布は北海道を除く日本全土．海外では朝鮮半島，中国東部に分布する．

兵庫県下には分布も広く，極めて普通に見られるハムシの一種である．

食草は，コナラなどが知られている．

産地：南淡町諭鶴羽山［大野，1969］，南淡町福良［酒井，1973］．洲本市先山［大野，1969］，洲本市三熊山［堀田，1978］．猪名川町木間生［仲田，1978，1982］．宝塚市下佐曽利（1 ex., 13-V-1983），宝塚市玉瀬［水野，1983］．西宮市船坂（1 ex., 5-VI-1987, etc.）．神戸市六甲山（1 ex., 8-V-1955, etc.），兵庫区烏原（1 ex., 2-V-1954, etc.），須磨区妙法寺（1 ex., 19-IV-1979），垂水区垂水（2 exs., 10-V-1985），北区藍那（1 ex., 5-V-1969, etc.），北区箕谷（1 ex., 16-V-1948, etc.），北区丹生山（1 ex., 5-V-1956, etc.），北区石井ダム（1 ex., 22-X-1991），北区鈴蘭台大山公園（2 exs., 7-V-1982, etc.），北区谷上（1 ex., 1-VI-1986），北区淡河町芦谷渓谷（1 ex., 5-VI-1982），北区八田町屏風（1 ex., 6-V-1993, etc.），西区広野（1 ex., 16-IV-1956），西区伊川谷（2 exs., 7-VI-1988, etc.），西区太山寺（1 ex., 6-V-1957），西区木津（1 ex., 11-V-1984）．小野市来住町（1 ex., 9-V-1991）．三木市口吉川（1 ex., 7-V-1986, etc.）．吉川町（2 exs., 6-VI-1985）．東条町森（6 exs., 11-V-1984, etc.）．社町三草（1 ex., 6-VII-1989）．龍野市神岡町（1 ex., 8-IX-1988, etc.）．篠山町雨石山［林ほか，1995］．氷上郡［山本，1953，1958］，山南町（1 ex., 5-VII-1990）．加美町白山（2 exs., 3-V-1973）．出石町寺坂［高橋，1963］．生野町（1 ex., 8-VII-1956）．浜坂町味原，城山［礒野，1985］.

Subfamily Lamprosominae　ツヤハムシ亜科

Genus *Oomorphoides* Monros

65. *Oomorphoides cupreatus* (Baly, 1873)

ドウガネツヤハムシ

Baly（1873）により，"Nagasaki" 産で記載された種である（Trans. ent. Soc. London, p.82）.

一般に銅黒色．体背面は銅黒色，個体によって青藍色．上翅は小楯板，会合線沿いに幅広く明瞭な点刻を欠く．

分布は広く，日本全国ならびに朝鮮半島．

兵庫県下にも分布は広く，極めて普通に見られるハムシである．

食草はタラノキ．

産地：津名郡愛宕山［大野，1969］．洲本市先山［大野，1969；久松，1974；堀田，1978］，洲本市鮎屋［大野，1969］．南淡町諭鶴羽山［大野，1969；久松，1974；堀田，1978］，三原町成相峠［大野，1969］．猪名川町木間生，上阿古谷［仲田，1978，1982］．川西市一の鳥居，笹部［仲田，1978，1982］．宝塚市武田尾（4 exs., 25-VII-1954），宝塚市玉瀬［水野，1993］．西宮市船坂（1 ex., 21-V-1987, etc.），西宮市盤滝（1 ex., 29-V-1987）．神戸市六甲山（1 ex., 22-V-1987, etc.），中央区布引（1 ex., 17-V-1959），兵庫区烏原（1 ex., 8-V-1981），須磨区妙法寺（2 exs., 23-V-1982），須磨区多井畑（1 ex., 19-VI-1990, etc.），垂水区垂水学園都市（6 exs., 10-V-1955），北区藍那（4 exs., 28-IV-1993, etc.），北区山の街（1 ex., 16-V-1954,etc.），北区箕谷（7 exs., 30-V-1943），北区丹生山（1 ex., 15-V-1955），北区逢山峡（1 ex., 2-VIII-1985），北区八田町屏風（1 ex., 6-V-1993, etc.），北区淡川町芦

谷渓谷（1 ex., 11-VI-1982），西区木津（1 ex., 30-V-1984），西区伊川谷前開（3 exs., 13-V-1988, etc.）．三木市細川町（1 ex., 30-V-1985），三木市口吉川町（1 ex., 7-V-1986,etc.）．吉川町奥山（1 ex., 20-V-1986）．三田市永沢寺（1 ex., 3-VI-1978），三田市（1 ex., 28-V-1983）．夢前町雪彦山（1 ex., 14-VII-1957）．社町三草（1 ex., 22-V-1989）．神崎町笠形山（1 ex., 12-VI-1966），大河内町川上（2 exs., 7-V-1977, etc.）．加美町白山（8 exs., 3-V-1973），加美町鳥羽（2 exs., 5-VII-1975, etc.）．朝来町須留ヶ峰（2 exs., 9-VI-1975）．新宮町福原（1 ex., 15-V-1992, etc.）．相生市三濃山（3 exs., 3-V-1969, etc.）．一宮町福知渓谷（5 exs., 20-VI-1976），波賀町水谷（2 exs., 17-VII-1981），波賀町音水（1 ex., 20-VII-1959, etc.），波賀町坂ノ谷（2 exs., 9-VI-1973）．篠山町雨石山［林ほか, 1995］．柏原町［山本, 1953, 1958］，山南町（3 exs., 5-VII-1990, etc.）．出石町［高橋, 1963］．日高町三川山［高橋, 1975］．関宮町氷ノ山（1 ex., 24-VI-1955, etc.）［高橋, 1975］，八鹿町妙見山［上田, 1996］．温泉町扇ノ山［辻, 1963；辻・岸田, 1972；高橋, 1975；礒野, 1985］．浜坂町宇都野神社，城山，村岡町兎和野［礒野, 1985］．

66. *Oomorphoides nigrocoeruleus* (Baly, 1873)
アオグロツヤハムシ

Baly (1873) により，"Japan : Nagasaki" 産で記載された種（Trans. ent. Soc. London, p.83）．

黒藍色．前胸背板の点刻間室は微細な点刻を装い，頭部のさめ肌状印刻は弱い．上翅は小楯板，会合線沿いに明瞭な点刻を装う．

分布は日本全土．兵庫県下にも広く分布している．

食草はタラノキ．

産地：南淡町諭鶴羽山，三原町成相峠［大野, 1969］．洲本市鮎屋［大野, 1969］．神戸市六甲山（1 ex., 8-V-1955），兵庫区烏原（2 exs., 2-VI-1957），北区山の街（1 ex., 11-IV-1954, etc.），北区箕谷（1 ex., 30-V-1943, etc.）．北区丹生山（1 ex., 15-V-1955）．社町三草（1 ex., 15-V-1987）．相生市三濃山（1 ex., 18-V-1974）．波賀町音水（1 ex., 10-V-1970, etc.）．篠山町雨石山［林ほか, 1995］．柏原町（1 ex., 10-V-1953）．出石町［高橋, 1963］．日高町三川山［高橋, 1975］．日高町上郷［上田, 1996］．関宮町氷ノ山［高橋, 1959］，大屋町杉ヶ沢［礒野, 1985］．温泉町扇ノ山［辻, 1963；辻・岸田, 1972；上田, 1976］．浜坂町観音山［礒野, 1985］．

Genus *Oomorphus* Curtis

67. *Oomorphus japanus* Jacoby, 1885　ヒメツヤハムシ

Jacoby (1885) により，"Japan : Oyama, Ichiuchi" 産で記載された種（Proc. Zool. Soc. London, p.197）．複眼の内線は完全で，ツヤハムシ属*Oomorphoides*と区別される（ツヤハムシ属の複眼の内線はくぼむ）．

上翅の点刻は列状をなし，銅黒色．個体によって青藍色．食草はツワブキ．分布は北海道を除く日本全国．

兵庫県下の分布は全般．

産地：神戸市中央区布引（2 exs., 17-V-1956），北区藍那（3 exs., 28-IV-1993, etc.），加美町白山（1 ex., 3-V-1973），加美町鳥羽（1 ex., 5-VII-1975）．大河内町砥ノ峰830m［木元・日浦, 1971］．相生市三濃山（1 ex., 3-V-1969）．波賀町音水（1 ex., 20-VII-1959, etc.），波賀町坂ノ谷（1 ex., 9-VI-1973）．青垣町粟鹿峯［高橋, 1960］．関宮町氷ノ山（1 ex., 27-VII-1956）．浜坂町味原，宇都野神社，観音山［礒野, 1985］．

〔付記〕本報文（1）の冒頭で，筆者が初めてキベリハムシを神戸市の烏原で採集したのは昭和17年（1942）7月24日であるとしたが，これはどうも筆者の思い違いで，実際は昭和11年（1936）7月24日のことで（昆虫界Vol. 8，No.72, p.40, 1940），ここに訂正させて頂きたい．

IRATSUMEバックナンバー価格表　1998年

No. 1	絶版	
No. 2 ～No. 7	但馬むしの会会員	各1100円
	一般	各1400円
No. 8/9 ～No.21	会員	各1300円
	一般	各1600円

※8/9，13/14，15/16は合併号
いずれも送料300円を加算のこと
ご注文は但馬むしの会事務局まで

但馬のクモ類２件

山本　一幸

１．ひのそ島のシッチコモリグモ

円山川の下流部にある「ひのそ島」（豊岡市赤石）と呼ばれる中州から，1994年７月に本庄四郎氏によって，西日本では極めて稀なコモリグモ科のシッチコモリグモが兵庫県で初めて採集され，生息が確認された．島内からは，絶滅が危惧される湿地性の貴重な植物も発見されており，ひのそ島の自然環境を保全することは重要な意味をもっている．しかし，河川の氾濫の原因になるなどの理由から，管理者の建設省および豊岡市は中州を撤去する方針を打ち出しており，治水と自然保護の両面で問題となっている（神戸新聞）．

筆者は，1995年７月15日，「但馬学研究会」（島垣晃会長）による島内の自然観察会に加わる機会を得た．本庄氏の案内のもとにシッチコモリグモの生態について若干の知見を得るとともに，数種のコモリグモ類を採集することができたので，その結果を報告する．

［採集データ：1995年７月15日，豊岡市赤石ひのそ島，筆者採集（全て成熟個体）］．

コモリグモ科　Lycosidae

1．シッチコモリグモ　*Hygrolycosa umidicola*
　２♂，１♀，卵のう．

2．ハリゲコモリグモ　*Pardosa laura*　１♂，１♀．

3．ミナミコモリグモ　*Pirata meridionalis*
　１♂，３♀，卵のう．

4．クラークコモリグモ　*P. clercki*　１♀．

5．カイゾクコモリグモ　*P. piraticus*　１♀．

6．キバラコモリグモ　*P. subpiraticus*　７♀，卵のう．

シッチコモリグモの分布および生態

本種は，札幌の北海道大学構内から採集された標本により，田中（1978）が記載した．分布は北海道と，東北から関東にかけての東日本に広く認められ，西日本では，田中（私信）によれば「ひのそ島」と島根県平田市斐伊川河口の２か所でしか確認されていない．

今回，成熟した♂と卵のうを腹部に付けた♀が観察され，さらに２～３齢の幼体もみられた．このことから，成熟個体の出現時期は６月から７月にかけて幅があると推測される．田中（1978）によれば，卵のう形成は６月頃と９月頃の年２回みられるとあり，あるいは東日本のものと比較して若干のずれがあるのでは，と思われる．クモは放置された湿田に群生する湿地性植物の根元付近でみつかり（写真１：♂，写真２：♀），

写真１．シッチコモリグモ♂

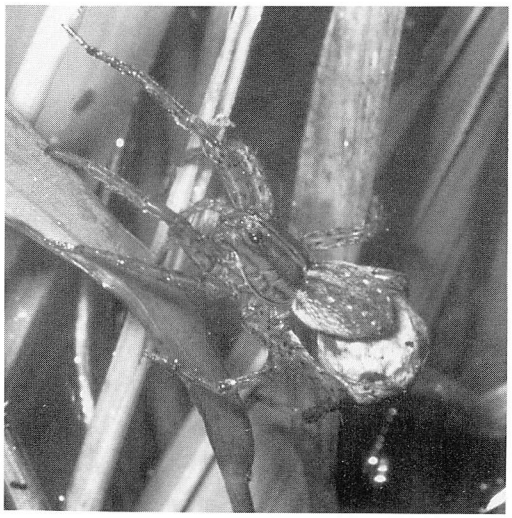


写真２．シッチコモリグモ♀

同じような場所で卵のうを付けたキバラコモリグモやミナミコモリグモがみられた．逃走のために水面を走行する行動がみられ，まれに植物の茎を伝って水中に潜水して身を隠す．水中に潜水する行動は，河川の上流部に生息するキシダグモ科のアオグロハシリグモにみられるが，コモリグモ科ではシッチコモリグモ以外は知らない．

今回の報告にあたり，本庄四郎氏はシッチコモリグモ発見の経緯や生息地の情報を快く提供して下さった．また，園田学園女子短期大学の田中穂積氏からは，日頃から貴重な文献の別刷りを多数いただいており，筆者の不躾な手紙にも快く貴重な情報をご教示下さった．この場をお借りして，両氏に心より謝辞を申し上げる．

毎回，問題意識をもってテーマを決め，熱意をもって但馬を知ろうとする「但馬学研究会」には，筆者も会員の一人に加えていただき，感謝している．今回，ひのそ島に渡る機会を与えていただき，この場にてお礼申し上げる．

参考文献

田中穂積（1978）*Hygrolycos*属のクモ日本に産す．Acta arachnol.,28:13-18

Tanaka H.（1988）Lycosid spiders of Japan Ⅰ The genus *Pirata* Sundevall. Acta arachnol.,36:33-77

神戸新聞（1994）珍種グモ　シッチコモリグモ見つけた．（12月３日朝刊，但馬版）．

２．キジロオヒキグモ採集記

キジロオヒキグモ　*Arachnura logio*

１♀，兵庫県城崎郡竹野町竹野，1997-Ⅸ-28，山本一幸採集

珍種に出会う前は，何か不思議な予感めいたものを感じることがある．

珍種はなかなか採集できないから珍種であって，非常に確率の小さい偶然が重なって初めてそれを手にすることができるのである．なにぶんにもフィールドに採集に出向かなければ，その偶然は訪れない．

その日は朝方，雨が降っていた．野外で行動するのに雨は何かと支障をきたす．出発を渋ったあげく，回復するという天気予報に励まされ，家族から追い立てられるように家を出た．

現地に到着すると雨はあがり，空を覆っていた雲の隙間から青空が覗いている．やれ嬉しや．雨あがりの清々しい空気を吸った開放感からか，ふと今日は何か良いことがありそうな，珍しいクモに出会えそうな予感がした．

場所は，竹野海岸海水浴場の東側にある「ジャジャ山公園」．竹野海洋センターの駐車場に車を止め，整備された遊歩道の階段を尾根の先端にある展望台まで登る．展望台からは竹野の町並みとコバルトブルーの海に横たわる猫崎半島が一望され，雲間からの陽光に映え，ひときわ美しく見えた．

展望台から先の尾根沿いの西側はシイなどからなる照葉樹林になっており，遊歩道に張り出した枝の下に傘を上向きに開き，枝を叩いて落ちてくるクモや昆虫などを受けて採集する．落ちてきたアサヒエビグモやマミジロハエトリが，傘の中をあわてて走る．

頂付近に遊歩道から左に折れる東側の尾根へと続く枝道がある．建設当初は四輪駆動の軽トラックが楽々と通行できたであろう道幅があるが，現在はタニウツギなどの低木やススキなどが生い茂り，わずかにタヌキかなにかの獣道がついている．ここが今日の主たる目的地である．とある筋からの依頼により，ここから東側の山地一帯に生息するクモ類を調査しなければならない．

整備された広い遊歩道から，薮こぎを強いられるような荒道への進入は躊躇した．しかも，雨あがり直後である．低木や下生えの葉先の雨露が，差しこむ日の光を受けてキラリと皮肉な輝きを放ち，そのまま入れば全身濡れるのは必至の状態だ．しかし，躊躇していても始まらない．「こんな時だからこそ…」と勝手な期待を胸に，背のザックより用意周到のカッパを取り出して着込み，薮の中へと突入した．

周囲の山地は人の手が入った跡が濃厚で，谷あいにはスギなどの針葉樹の植林地もあるが，あまり大きな樹木がない粗末な二次林である．

採集しながら尾根に沿ってつけられた道を進むと，北側の路肩に根まわりの直径が30cmほどの１本のコナラの木があった．以前，ジャジャ山公園のシイの幹より，小学生がキノボリトタテグモを採集したことがあり，太めの樹木の幹は要注意である．コナラの幹に注目し，谷側を向いた根元を覗いた時であった．それはいた！

「エッ，キジロオヒキグモかぁ？」

独り言をいう癖はない．単独の採集行では，ほとんど無言である．しかし，この時ばかりは声が出た．初めてお目にかかるしろものなのに，一目で正体が判った．

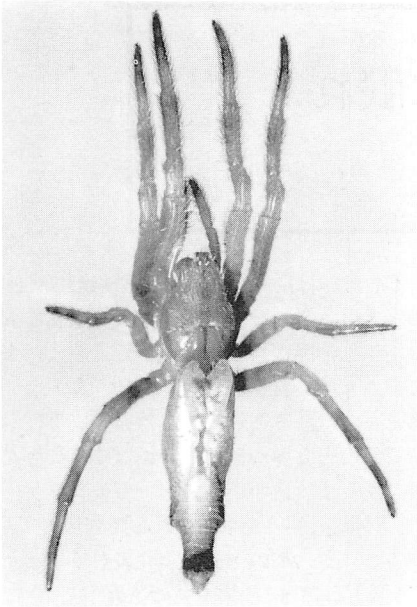


写真3．キジロオヒキグモ

台詞は疑問符付きであるが，無意識に自分で問い直して再確認したからである．

地表から20cmほどの高さ，コナラの根元の内側に湾曲した部分に，直径約12cm，目の細かい横糸による，まるで音楽用のＣＤ盤のような美しい水平円網が張られており，網の中央下面に腹部を上にして黄白色のキジロオヒキグモが点座していた．

ここでカメラがないことが悔やまれた．まったく，雨を懸念して持ってこなかったのだ．

観察もそこそこに，網から落下して地表に逃亡することに備え，まず傘を下に受ける．慎重にクモの体のすぐ下にフィルム容器を近づけると，タイミング良くポトリと中に落ちてくれた．やった！　初めての採集である．もちろん，生きたキジロオヒキグモを間近で見るのは初めてである．容器の中を覗くと，細長いクモが脚を一生懸命動かして逃げようともがいていた．少しためらいはあったものの，標本にするためアルコール入りのサンプル瓶に入れる．瓶を目の高さに持ち上げて，ガラスを透かして中のクモをもう一度よく観察した．腹部に特徴があり，前方は二つに突出しており，後は細長いしっぽのような奇妙な突起になっている．体長７mm，未成熟の♀であった（写真３）．

但馬におけるキジロオヒキグモの最初の記録は，『但馬の自然』（兵庫県生物学会但馬支部編，1990，神戸新聞総合出版センター）の本庄四郎氏の記述によれば，「1957年に，槌賀安平氏が生態観察を粟鹿山で行って報告している」とある．その報告がどんなものであるのか知らないのでなんとも言えないが，今から40年以上も前であり，しかも筆者（1959年生まれ）の生まれる前のことである．それから以後については，豊岡高校生物部による記録がある．残念ながら手元に資料がないので確かなことが言えないが，どちらにしても古い記録であると思われる．とにかく30年近く，但馬では採集されなかったことになる．

全国的にも稀で，最近，日本クモ学会から発行されている『遊絲』（２号は1998年５月に発行）という情報誌では，学会員による採集情報が掲載されており，珍種の採集自慢みたいな趣があり，トリノフンダマシ属やイセキグモ属などと一緒にキジロオヒキグモの名前も見出される．1997年の記録では，神奈川県や京都府で採集されている．

本種の生態について，『原色日本クモ類図鑑』（八木沼健夫著，1986，保育社）によれば，♂は卵のう内ですでに成熟している超早熟である．『フィールド図鑑クモ』（新海栄一・高野伸二著，1984，東海大学出版会）や，子供向けの『学研の図鑑クモ』（中平清監修，1976，学習研究社）には美しい生態写真が掲載されており，樹木の枝のつけ根などにキレ網の垂直円網を張ると述べられている．今回の観察では樹木の根元に，キレ網かどうかは確認していないが，水平円網を張っている点が異なっている．慣れない場所で張ったから，水平の網になったのだろうか？

さて，その後の採集は，おざなりになってしまった．カッパを着ていても内側からの汗で，衣類はグッショリ濡れた．でも，気分は悪くなかった．いつもお目にかかっているお馴染みのクモなんか無理に採集しなくてよい．そんな気分になり，早々に切り上げた．

高校時代，ムツトゲイセキグモという珍種を採集したことが，クモの研究へと傾向する一因となった．いまさら，キジロオヒキグモがきっかけとなって，何かを奮起一新することもないだろうが，久しぶりに採集の感動と喜びを味わうことができて，感無量だった．

珍種に出会える機会は，そう度々あるものじゃあない．しかし，但馬の自然の奥深さは油断ならない．不思議な予感は，日々の鍛練によって感度が増すものである．その鍛練の方法とは，自然の中に身を置き一体となること．

“むし”ん（無心）になることが一番であると悟ったしだいで….

和光よ，安らかに眠れ！

谷角　素彦

1997年５月13日，筆者の友人で，一時は当会会員でもあった北脇和光氏が肝炎で亡くなった．享年39歳の若さであった．早いもので，あれからもう１年以上が経ってしまった．同氏は晩年，中国にのめりこみ，新知見とともに数多くの昆虫類を日本に持ち帰り，研究者やコレクターにそれらをもたらした．その成果を目にしたり，彼に関するエピソードを聞くとき，果たしていた役割がいかに大きかったかを，今更ながらに思い知らされる．

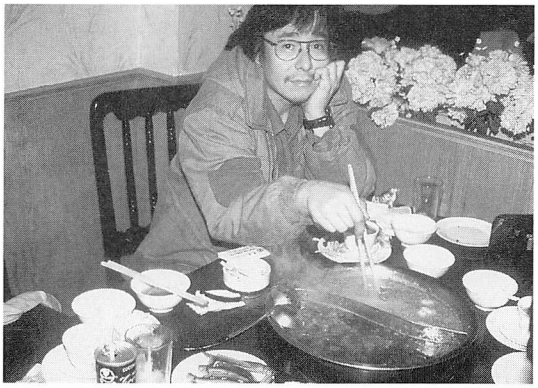
北脇氏は，保育社時代の後輩であった．同じ虫屋ながら，筆者とはタイプが異なっていた．しかし，お互いに何となく認め合っているようなところがあった．彼のことは「月刊むし」317号の追悼文に書いたが，筆者が同誌の編集者という立場上，客観的記述に重きを置かざるを得ず，プライベートな部分にはあまり踏み込めなかった．そこで，本稿では個人的な彼との思い出，特に一緒に出かけた中国や韓国のことなどを，簡単ではあるが書きとどめておきたい．これは，ご遺族の真理子夫人の希望でもある．また，彼自身が文章で記録を残さない人間だったので，生前の足跡の一部を書き残す意味合いもある．

但馬むしの会では，北脇氏は文字どおり幽霊会員であった．おそらく，先輩の筆者を気遣って，数年間，会員になってくれたのだろう．そんな北脇氏であったが，1984年８月23日に一度，扇ノ山に来たことがあった．このときは，脱サラした加野正氏を励ます会で，小ヅッコ小屋に仲間が集まっていた．北脇氏は夕方に登場して，みんなの食べ残しのインスタントラーメン（そのほとんどは汁であった）を餓鬼のようにかき込んだ．初対面の人も多かったが，彼はすぐにみんなと打ち解け，深夜まで薄明かりの下でトランプゲームに興じた．そして，早朝に愛車を飛ばして帰阪している．こんなところにも，彼の一面がよく表れている．

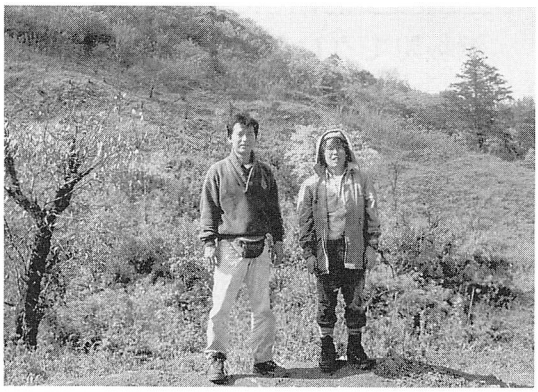
1985年４月27日には，沖縄本島の名護市で落ち合い，４日間ほど山原地方で一緒に採集している．当時は，ヤンバルテナガコガネが発見されて間もないころで，胸に熱いものを感じながらの採集だった．このとき，彼はルイスツノヒョウタンクワガタを採集しており，その標本は現在も筆者の手元にある．川の中を歩きながらトンボを採集していた姿も，瞼に焼きついている．また，国道沿いのアイスクリーム売りの女子高生のところに，採集の行き帰りに立ち寄っていたのも，彼らしい姿であった．

晩年は数度，一緒に採集や調査に出かけている．そのきっかけになったのが，1994年10月22～27日に実施した韓国旅行であった．まずは，南部の智異山に行き，チョウセンコルリクワガタの探索をした．この山は，本種だけでなく多くの昆虫の基準産地になっている．

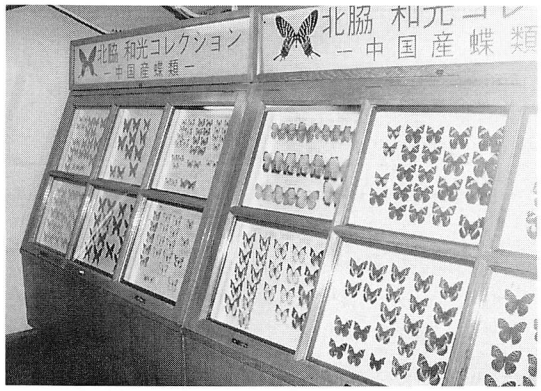
沖縄本島北部でトンボを採集中の北脇氏（1985年４月）



火鍋を食べる北脇氏（四川省成都市にて，1995年10月）



中国四川省美姑県での一場面
（左：田花氏，右：北脇氏，1996年10月）



大阪市立自然史博物館に所蔵される北脇コレクション

ここでは，彼は本種をほとんど採集できなかったが，コルリ材採集の面白さと難しさを知り，熱中することになってしまう．そして，次に訪れた加智山では10頭以上を採集して，やる気と採集センスの良さを見せた．下山後，とっぷりと日が暮れた田舎の駅で，旅情に浸りながら釜山行きの列車を待ったことも忘れられない．採集以外でも，怪し気なハングルを操りながら釜山の夜市をうろついたり，大好きだった焼き肉や辛い韓国料理を食べたことなど，数々の思い出がある．

中国では1995年10月18～31日，四川省西部で一緒にルリクワガタ類の調査を行った．充分な情報をもたず，行き当たりばったりで出かけた旅だったため，なかなか良好な環境にたどり着けず苦戦したが，最後に大当たりした．このとき得たルリクワガタは，分類的位置づけが難しいものであったがようやく解決がつき，新種として近々記載予定である．また，パンダで有名な臥龍を訪れたことや，夜中に雪の降る標高4000m以上の峠を，頭痛に悩まされながら越えたことなど，印象深い旅だった．

彼との最後の旅は，1996年10月18～26日，田花雅一氏も交えて，四川省南部の金陽県・美姑県・普格県に赴いたものだった．この旅で我々は，数々の成果を上げることができた．これにはもちろん，北脇氏の事前の踏査が大きな役割を果たした．それらは，ルリクワガタ属の３新種（*Platycerus feminatus* アカアシツヤルリクワガタ，*Platycerus hiurai* ウラクロルリクワガタ，*Platycerus miyatakei* ミナミツヤルリクワガタ）として，田花氏と共著で発表した．旅先での北脇氏は，１年ごとに中国語会話が堪能になり，この年には現地人と何不自由なくやりとりを行っており，その上達ぶりに舌を巻いたものである．

今年の５月には，北脇氏が遺した四川・陝西省境の大巴山産ルリクワガタ属のうちから，１新種１新亜種を井村有希氏と共著で記載した．新種の種名に彼の名前をつけ，*Platycerus kitawakii*（オニルリクワガタ）としたのは，彼に対する感謝と哀悼の気持ちを表したかったからである．彼は生前，ことあるごとに「ゲニタリア（交尾器）の小さい種に，ワシの名前を付けんといて下さい」と言っていたが，残念ながらこの新種の交尾器はあまり大きくない．しかし，オスの大あごは長くて上反し，とてもカッコいい種である．形態を表すだけにとどまらず，オニ採り（たくさん採ること）が好きで，鬼門に入った同氏にぴったりの和名であると思っている．

そして，彼が遺した標本類と多くの中国関係の文献は，北脇コレクションとして，地元の大阪市立自然史博物館に末長く保管されることになった．

北脇氏に接していて感じたのは，キャラクターの面白さと人当たりの良さ，頭の回転の速さ，虫や自然に対する探求心の旺盛さなどで，一方ではいい加減な面も少なくはなかったが，それを許してしまえる不思議な人間的魅力があったことである．このことは，彼に接したことのある大多数の人が口をそろえて言う．ほんとうにユニークな人物だった．人間にいちばん大切な要素とは何なのだろうかと，ふと考えたりする．

北脇氏が目の前から姿を消して１年以上が経過したが，彼のニッチェを埋める人物（彼に代わる存在）は見当たらない．今更ながらに，大した奴だったと思う．「和光よ，いろいろと有難う．そして，安らかに！」

浜坂町久谷で11月に イシガケチョウを採集

山本　一幸

但馬地方におけるイシガケチョウの採集記録は，ここ数年，浜坂町（木下・他，1996），温泉町（永幡，1992），関宮町（植田，1998）などでみうけられ，定着している可能性も示唆されている．筆者は，1997年11月末，浜坂町久谷で本種を採集する機会を得た．筆者の知る記録のうち一番遅いものであり，ここにそのデータを報告する．

なお，標本の管理や文献の紹介などでご高配下さった谷角素彦氏に，この場を借りてお礼申し上げる．

1♀，兵庫県美方郡浜坂町久谷字袋谷，1997-XI-29，山本一幸採集

山陰道路株式会社久谷合材所の東側敷地に，生け垣として植えられているカイヅカイブキ（樹高約2m）の枝の間（地表から高さ約70cm）にもぐりこんでいるのを発見した．素手で簡単に捕らえることができ，すでにその時点で後翅の端が破損しており，弱っていた．

参考文献

木下賢司・近藤伸一・大東康人・永幡嘉之（1996）但馬地方の蝶類目録Ⅱ，IRATSUME20:66-86.
永幡嘉之（1993）但馬の蝶10題，IRATSUME17:1-7.
植田　悟（1998）兵庫県関宮町でイシガケチョウを採集，蝶研フィールド13(2):28-29.

浜坂町でクロコノマチョウを採集

谷角　素彦・岩見　裕介

クロコノマチョウ*Melanitis phedima* は，暖地に起源をもち，分布を北上させている種として，ナガサキアゲハやイシガケチョウなどとともに，よく話題にのぼる．兵庫県南部では，近年になって記録が増加しており，発生も確認されている（法西，1996）が，但馬地方では採集例が目立つようになってきたものの，分布の実態はよくわかっていない．筆者らは盆休みに浜坂町へ帰省した際，本種を同町で採集したので報告する．

1♂，兵庫県美方郡浜坂町浜坂(宇都野神社)，1997-VIII-15，筆者ら採集

宇都野神社の境内を歩いているとき，日陰になった薮から飛び出した個体を採集した．浜坂町では三尾で，永幡嘉之氏による採集例があり（広畑，1993），今回の記録が2例目になると思われる．

また，このとき，やはり分布を北進させているラミーカミキリを，付近のカラムシで確認している．久々に訪れた故郷の採集地で，以前は見られなかった南方系の昆虫たちに出会い，複雑な思いを抱いた．

参考文献

広畑政己（1993）兵庫県におけるクロコノマチョウの分布の変遷，IRATSUME17：8－14.
法西　浩（1998）兵庫県のクロコノマチョウ，1996年の記録，蝶研フィールド13(1)：27-30.

連絡誌の情報を募集しています

連絡誌“混蟲ずかん”は，年に数回発行されています．
“混蟲ずかん”では，誌面の充実を図るため，会員の皆さんから情報を募集しています．
メモ書き程度の通信でＯＫです．内容は，身近な虫の情報
（モンシロチョウの初見日，セミの初鳴き日・終鳴日など），
採集情報，近況，意見，新刊紹介，新聞記事の切り抜きなど，何でも結構です．
随時，受け付けています．
とくに，但馬地方の昆虫に関する情報を求めています．
送付先・連絡先は，事務局（〒669-6801 美方郡温泉町井土932-10，黒井和之）まで．

《ＩＲＡＴＳＵＭＥ投稿規定》

１．原稿は横書き原稿用紙に，わかりやすく書いてください．

２．報文には「～である」調を用い，句読点もはっきりさせてください．

３．ワープロで原稿作成する場合，句読点にピリオドとコンマを使用してください．また，印字したものとフロッピーディスクの両方をお送りください．

４．種名は和名で記しますが，記録報告の場合には学名も表記してください．その際，学名は必要最小限にとどめてください．

５．分類の紛らわしい種や貴重な記録には，標本写真を付けてください．標本撮影は編集事務局でも行えますので，ご利用ください．

６．採集データは，次のような形式で記してください．
１♂２♀♀，兵庫県美方郡温泉町青下，1989-Ⅴ-15，黒井和之採集．

７．参考文献は，次のような形式で記してください．
佐藤邦夫（1987）但馬地方のカミキリムシ，IRATSUME11:72-90.

８．付図や表組は，そのまま使える完全版下として仕上げてください．IRATSUMEの誌面にうまく収まるよう工夫してください．

９．原稿は充分に推敲・校正してから，ご投稿ください．とくに，わかりにくい表現や無駄な表現がないか，主語と述語がはっきりしているか，数字や学名のスペルに誤りがないかなどについて，チェックしてください．

10．誤同定やデータに大きな誤りを含んでいる原稿は，掲載をお断りする場合があります．

11．寄稿者は掲載誌３部を受け取り，原稿掲載料として1000円を事務局（郵便振替：01120-3-16245，但馬むしの会）に支払います．

12．原稿についてのお問い合わせは，谷角素彦まで．

【編集後記】

◇予定より発行が遅れましたが，22号をお届けします．今号から，本文の紙質をアート紙に変えました．

長年，虫に関係した生活をしてきて，時間の流れのもつ意味を，最近，ひしひしと感じるようになりました．かつての採集地を久しぶりに訪れた際，自然環境の変貌ぶりに驚かされることが少なくありません．それは，人工による環境破壊ばかりではなく，むしろ植生の遷移や温暖化の影響といった意味合いのものです．それに伴い，昆虫の発生状況や虫の顔触れも，以前と比べて変化しているように感じられます．一方では，自らが年齢を重ねたことで，時間的余裕がなくなり，体力的，気力的な衰えも感じざるを得なくなりました．

今こそ，かつての但馬の自然の様子を，文章やデータ，写真などを使って残さなければと思います．そうしないと，これまでやってきたことが生きてこないでしょう．さらに，現在の姿と比較することによって，自然がどういう方向に進もうとしているのか見えてくるでしょう．

そういう観点の“昭和〇年ごろの但馬の採集地”とか“但馬の採集地の過去と現在”というような，昆虫にからめた内容の記事を取り上げたかったのですが，準備不足もあり，今回は果たせませんでした．一部の方からはそれに類した原稿をいただいていますが，もう少し肉付けをしたり構成を工夫して，次号で実現させたいと考えています．みなさんからの投稿を期待しています．

何気なく接している但馬の自然も，刻々とその姿を変えつつあります．みなさん，虫にかかわりながら，どの程度，このことを感じているのでしょうか．　（谷角）

◇昨年に引き続き，発行が遅れたことをお詫びいたします．早くから原稿をいただいていた著者の方々，ご心配をおかけし，申し訳ありませんでした．

木下さんから久しぶりに原稿を頂戴しました．少年の日のあこがれ，未知の土地でのとまどい，木下さんの人柄，いろいろなものが伝わってきて，採集紀行文の楽しさを満喫しました．私たちにとって，虫を採集に行くことの楽しさがすべての原点だと思います．「虫採りに行きたい！」という思いに駆られる，そんな楽しさが伝わってくる文章を待っていました．

さて，そういうふうに虫を採りに行って，「こんな虫が採れたことをみんなに知らせたい」というのが，同好会誌の出発点だと思います．そのためには誰が見ても，いつ，どこで，なにが採れたのか，そのことがはっきりとわかるよう，採集データを客観的に記載して下さることを，お願いいたします．　（石田）

◇就職で，但馬からますます遠ざかることになりました．数年前までは，兵庫県に就職するものと，自分でも信じて疑わなかったのですが，周囲の環境が大きく変わるなかで，価値観もずいぶん変わりつつあります．また，いつまで経っても積極的に勉強しなかった私も，必要に迫られてオサムシの交尾器を抜き，あるいはネクイハムシの交尾器を顕微鏡でのぞくようになりました．それに，信州のブナ林の虫の多さに驚いたり，八ケ岳で針葉樹の香りに包まれてナガゴミムシをねらったり・・・．

いずれ，あちこちでの経験で身につけた勘を，但馬で試す時がやってくるかもしれません．　（永幡）

IRATSUME　No.22
1998年8月31日発行
発行者：但馬むしの会
〒669-6801 兵庫県美方郡温泉町　黒井和之方
編集者：谷角素彦・石田達也・永幡嘉之

但馬むしの会会則

1．この会は，但馬むしの会と称する．

2．この会は，但馬地方の昆虫研究（昆虫相の解明等），および会員相互の親睦をはかることを目的とする．

3．この会は，その目的を果たすために次のことをする．
（1）会誌 IRATSUME（年1回）の発行
（2）連絡誌 混蟲ずかん（年数回）の発行
（3）採集会などの催し

4．この会は，昆虫に興味をもち，会の目的に賛同する人は誰でも入会できる．

5．会員は，会を維持するため，年額（3000円）を負担しなければならない．

6．会員は，会誌などの配布を受け，またこれに投稿することができ，催しに参加することができる．ただし，会費滞納が2か年以上継続し，通知しても連絡のないときは自然退会とみなす．

7．この会を運営していくため，本部に事務局をおき，会の代表とする．

8．総会は年1回とし，役員改選，会則の改正など，会の運営上の重要事項を審議する．議決は，出席者の過半数の賛成を必要とする．

9．この会の会計年度は，暦年とする．